

337.1  
1464k



00033746

33

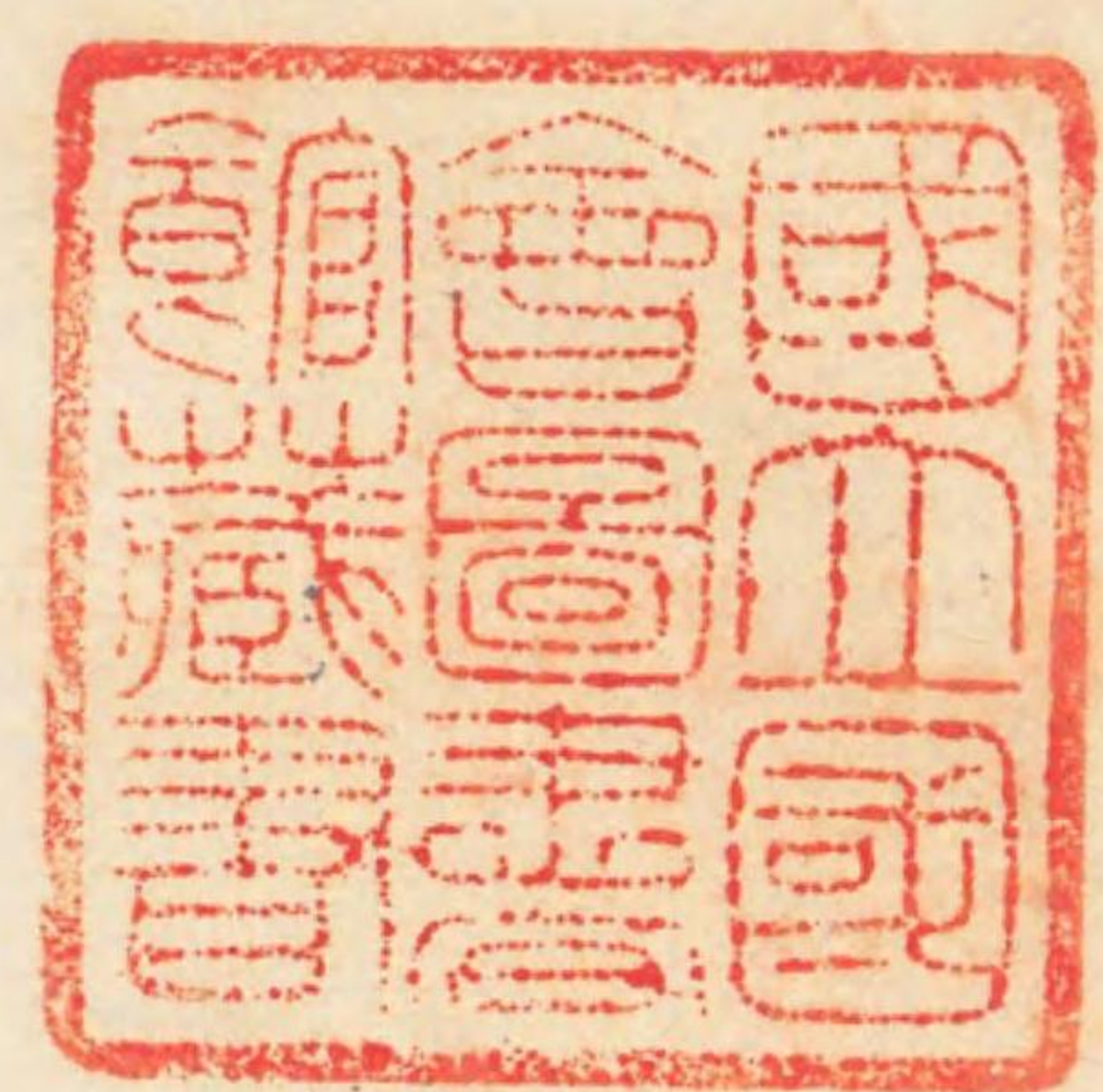
11



336.7



337.1  
] 469k



33746

貨幣論第二編目錄

第十二章	本位ノ論戰	一	丁
第一節	總論	同	丁
第二節	兩本位	二	丁
第三節	兩本位制ノ金銀價格ヲ相維持スルコト	五	丁
第四節	銀貨ノ廢止	七	丁
第五節	兩本位ノ不便	一	丁
第六節	世界ノ貨幣制度	一	五丁
第十三章	鑄造ニ關スル技術上ノ事項	一	七丁
第一節	總論	同	丁
第二節	鑄造貨幣ノ混合物	一	八丁

貨幣論目錄



第三節	鑄造貨幣ノ大サ	二二丁
第四節	貨幣ノ磨滅	二三丁
第五節	貨幣計算ノ方法	二七丁
第六節	金屬貨幣ノ費用	二九丁
第十四章	萬國共通貨幣	三三丁
第一節	總論	同丁
第二節	萬國共通貨幣ノ利益	三四丁
第三節	萬國共通貨幣ノ不便	三七丁
第四節	貨幣ノ制度	三九丁
第五節	國際貨幣條約	四一丁
第六節	獨逸ノ貨幣改定	四四丁
第七節	小貨幣ノ制度	四五丁

第八節	萬國共通貨幣ノ起票ヲ撰定 スルコト	四八丁
第十五章	交換ノ仕組	四九丁
第一節	總論	同丁
第二節	交換ノ支拂ノ發達	五〇丁
第三節	代表貨幣	五一丁
第四節	手形及ヒ手形交換所	五二丁
第十六章	代表貨幣	五三丁
第一節	總論	同丁
第二節	代表貨幣ノ沿革	五四丁
第三節	代表貨幣ヲ使用スルノ理由	五六丁
第四節	金屬貨幣ノ不便	五七丁



第五節	金屬貨幣ノ重量	五九丁
第六節	利子ヲ省クコト	六一丁
第十七章	約束手形ノ性質及ヒ種類	六三丁
第一節	總論	同丁
第二節	特別預證券	六四丁
第三節	一般預證券	六五丁
第四節	特別預證券ト一般預證券 トノ差	六六丁
第五節	貨幣約束證券	六九丁
第六節	代表貨幣流通ノ原理	七一丁
第十八章	紙幣發行ノ方法	七三丁
第一節	全額金銀準備法	七七丁

第二節	分額金銀準備法	七九丁
第三節	最少額準備法	八〇丁
第四節	比例準備法	八一丁
第五節	發行最高多額制限法	八二丁
第六節	伸縮制限法	八四丁
第七節	證券準備法	八五丁
第八節	不動産抵當法	八六丁
第九節	外國爲換法	八八丁
第十節	自由發行法	八九丁
第十一節	金錢平均法	九〇丁
第十二節	租稅支拂法	九一丁
第十三節	後年兌換約束法	九二丁



第十四章 不換紙幣

九三丁

第十九章 信用證券

九七丁

第一節

同丁

第二節 銀行紙幣

九八丁

第三節 小切手

九九丁

第四節 爲換手形

一〇〇丁

貨幣論目錄終

貨幣論第二篇

法學士井上辰九郎講義

第十二章 本位ノ論戰

第一節 總論

カリフォルニア及ヒオーストラリアノ金礦發見ニ依リテ金ハ銀及ヒ其他ノ物品ニ對シ其價格大ニ變動スルニ至リタルカ爲メ如何ナル本位ヲ採用スヘキヤノ問題起リ爾來大ニ世人ノ講究スル所トナレリ或ハ今日已ニ陳腐ニ屬スル所ノ銀本位ヲ主張シ或ハ金本位若クハ金銀兩本位ヲ唱道スルモノ陸續輩出シ議論紛々トシテ殆ト其底止スル所ヲ知ルヘカラサルニ至レリ茲ニ於テカ千八百四十九年以來歐洲ノ通貨制度ノ變更甚シク行ハレ或ル國ニ於テハ數回其幣政上ノ政策ヲ變更シタルモノアリ和蘭ハ金ノ價格大ニ低落スヘント思慮シ千八



百五十年銀本位ノ制度ヲ採用セリ此改革ハ大早計ニ失シ莫大ノ費用ト困難ト  
ヲ釀成シタルヲ以テ遂ニ再ヒ金本位若クハ制限アル銀貨ト組ミ合シタル金本  
位制ヲ採ラサルヘカラサルニ至レリ英國ニ於テハロツクノ時ヨリ「ロイド」リバ  
ーPOOLノ時ニ至ルマテ本位トシテ金銀ノ優劣ニ付キ英國政治學者ノ議論頻  
リニ起リロツク及ヒ當時ノ經濟學者ハ銀本位ヲ主張セシモ「ロイド」リバー  
ルハ金本位ヲ主張シ遂ニ之ヲ採用セリ而シテ現今ニ於テ議論ノ傾向ハ專ラ金  
本位ニアルカ如ク數多ノ諸國ハ近來銀本位ヲ捨テ、金本位ニ移リ獨リ和蘭ヲ  
除クノ外ハ金本位ヨリ銀本位ニ轉シタルノ國アラス既ニ澳地利ノ如キ銀本位  
國ト稱セラル、國ニ於テモ今日數種ノ金貨ヲ發行シテ稍、金本位國ニ近ツケリ

### 第二節 兩本位

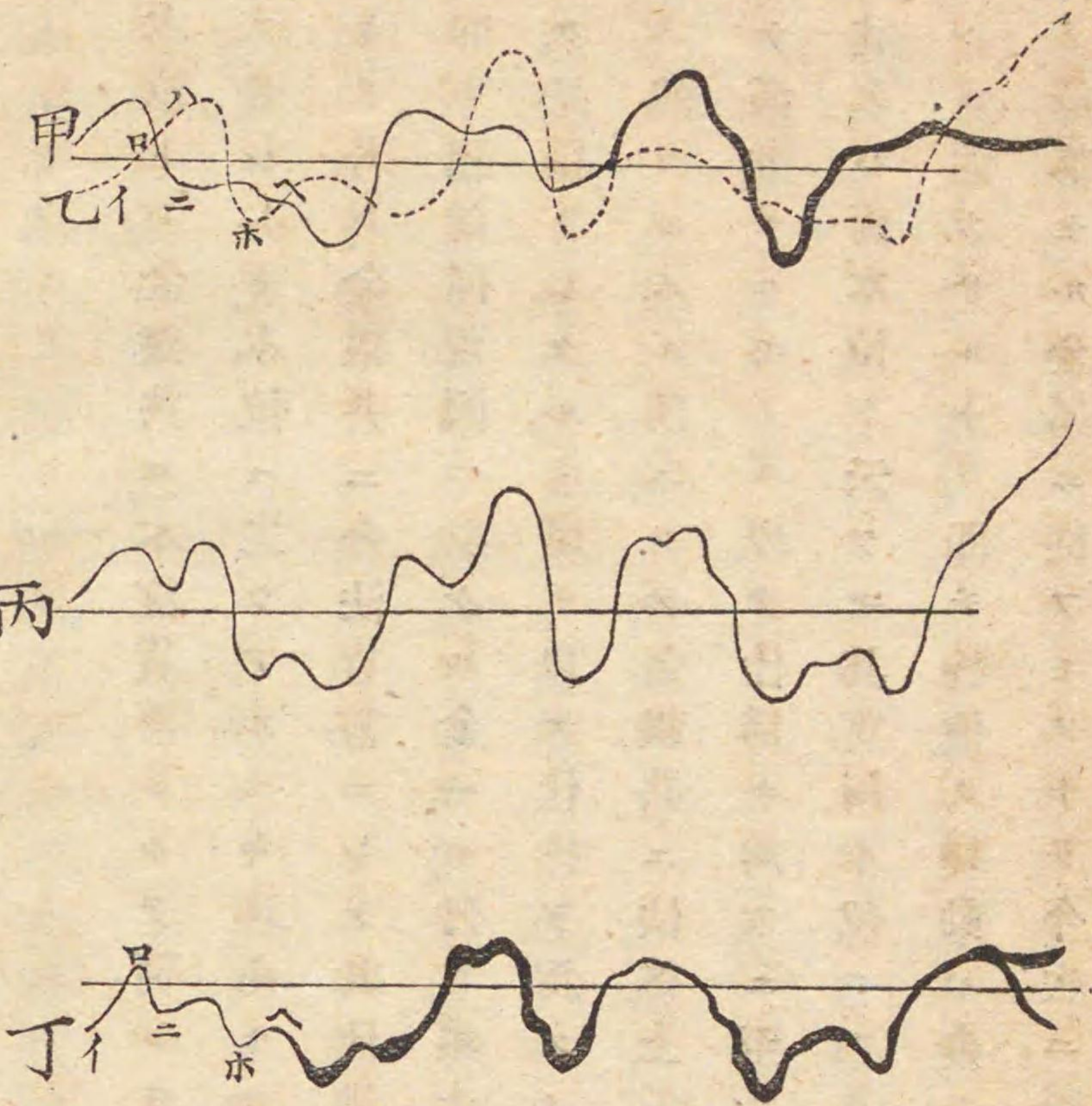
銀貨單本位ノ制度ハ既ニ歐洲諸國ニ於テ實際拋棄セラレタルモノナルカ故ニ  
近來論戰ノ激シク行ハル、ハ兩本位ノ主張者ト銀及ヒ小貨幣ノ補助貨ヲ結ヒ  
合シタル金本位主張者トノ間ニ在ルモノナリ兩本位ノ利益ヲ辯護スルモノハ  
ウオロスキークローセル、セニオルセイドレオンプリンス、スミス等ノ諸氏ニシ

テセバリエード、パリユーヘンドリツクフレル、オルハンレハツシユーフェール、  
ヘルツォーグ、グエブラ等ノ諸氏ハ金本位ノ重ナル主張者ナリ而シテ此問題ニ  
關スル議論ハ至テ廣汎ノモノナルヲ以テ今務メテ其議論ノ主要ナルモノヲ概  
論セン

金銀兩本位トハ金銀共ニ本位貨幣ニシテ何レヲ以テ仕拂ヲ爲スモ妨ケナキ制  
度ヲ云フ然レトモ本位ニ二ツアルヘキ理由ナク實際何レカ其一方カ本位トナ  
ルニ過キス若シ金銀共ニ合法貨幣ニシテ其仕拂ニ制限ナキ場合ニ於テハ其法  
定價格即チ羅甸同盟國ニ於ケル金一ニ付キ銀十五半ノ比例ニ依リタル法定價  
格ノ高ク見積ラレタル金屬ヲ以テ仕拂ヲ爲スノ傾向必スヤ起ラサルヲ得ス是  
レ人情ノ然ラシムル所ニシテ金銀共ニ法律上同價格ノモノナレハ其何レカ市  
價ニ於テ低廉ナルモノヲ以テ仕拂ヲ爲スニ至ルコトハ明ニシテ疑フヘカラス  
然レハ其名ハ兩本位ト云フモ其實兩本位ニアラスシテ金銀更代本位ト稱スル  
ノ當レルニ如カサルナリ即チ物價ノ變動ハ金一銀十五半ノ法定價格ニ比シテ  
其價格ノ低落セル金屬ニ從フモノナリ今次ニ圖ヲ掲ケテ之ヲ示サン



ルニアラスニ下リテ(ニ)ニ趣キ(ホ)等ノ線路ヲ取ルモノナリ而シテ此線タル  
 之ヲ金若クハ銀ノ價格ノ變動ヲ表スル線ニ比スレハ其昇降頻繁ナリト雖モ其  
 昇降ノ度ニ至リテハ小ナルモノナリ此價格ノ變動ノ小ナルコトハ頗ル利益ア



今甲線ヲ以テ金ノ價格ノ  
 變動ヲ示シ乙線ヲ以テ銀  
 ノ價格ノ變動ヲ示ストセ  
 ハ丙ハ即チ兩金屬極度ノ  
 變動ヲ示スモノナレトモ  
 物價ノ變動ハ常ニ價格ノ  
 低廉ナル金屬ニ從フモノ  
 ナリ即チ丁線ハ價格ノ低  
 廉ナル變動ヲ表スルモノ  
 ニシテ物價ノ變動ハ(イ)ヨ  
 リ(ロ)ニ至リ上リテ(ハ)ニ至

ルコトナルモ其昇降頻繁ナルトキハ商人ノ見込ヲ立ツルノ困難アリ故ニ兩本  
 位論者ハ之ヲ辯護スルモ單本位論者ハ又之ヲ攻撃ス

第三節 兩本位制ノ金銀價格ヲ相維持スルコト

ウオロスキー及ヒクローセル、セニオル諸氏ノ主張スル金銀ノ價格ヲ相維持ス  
 ルノ作用(原語之ヲ「コムベンセートリ」アクシヨン)即チ補償作用ト云フゼヴオ  
 ン氏ハ之ヲ呼ヒテ「イクイリブレトリ」アクシヨン(即チ平衡作用ト云フ)ナ可  
 トセリハ佛國ノ通貨制度ノ下ニ行ハレ金銀價格ノ變動ヲ甚シカラシメサルノ  
 カアルコトハ全ク正確ニシテ疑ヲ容レス今之ヲ説明センニ若シ銀カ金ニ對シ  
 テ其價格一ト十五半ノ比例ヨリ騰貴スルトキハ忽チ外國ヨリ兩本位國ニ金ヲ  
 輸入シテ之ヲ法定ノ比例ヲ以テ銀ニ交換シ再ヒ輸出スルコト行ハル此事タル  
 只ニ理論上ノ事ニ止マラスシテ已ニ實際佛國ニ於テ行ハレタルモノニシテ千  
 八百四十九年佛國本位貨幣ハ專ラ銀ノミチ以テ成リシモ千八百六十年ニ至リ  
 テハ殆ト全ク金ノミトナレリ即チ此場合ニ於テ佛國ハ廉價トナリタル金屬(金)  
 ノ巨額ヲ吸收シ高價ノ金屬(銀)ヲ吐出シタルモノニシテ其結果ハ金ノ下落及ヒ



銀ノ騰貴ヲ停止スルノ効能アリシヤ疑ナシ若シ之ニ反シテ金ノ銀ニ對シテ騰貴シタルトキハ前陳ノモノト全ク反對ノ景況ヲ現ハスモノナリ要スルニ實際價格ノ標準トシテ行ハル、モノハ何レカ一種ノ金屬ニシテ決シテ兩者併ヒ行ハル、ニアラス而シテ此本位ノ更代アルトキハ金銀ノ價格ヲ幾分カ維持スルコトヲ得ルナリ固ヨリ此兩種ノ金屬ノ他ノ物品ニ對シテ其價格ノ騰貴若クハ下落スルハ之ヲ防クコト能ハサルモ一種ノ金屬ノミヲ用フル場合ニ比スレハ其需要供給大ナルヲ以テ其價格ノ變動甚シカラス尙ホ之ヲ明ニセン爲メニ今茲ニ二箇ノ水槽アリテ各別ニ需要供給ノ變動ヲ受クルモノト假定セヨ若シ兩槽ノ間ニ管ヲ通セサレハ其需要供給ハ自他獨立ニ變動スルモノナレトモ之ニ管ヲ設ケテ相連絡セシムルトキハ兩槽ノ水相平均シ假令一方ニ於テ需要若クハ供給ノ超過アルモ之ヲ兩槽ノ全面積ニ配分スルカ故ニ其結果著シカラス近年西方歐羅巴ニ於ケル金銀流通ノ有様ハ全ク此水槽ノ理ト同シク連絡ノ管ハ革命十一年ノ佛國法律ニシテ此法律ハ各金屬ヲシテ無限ノ合法貨幣トシテ他ノ金屬ニ更代スルコトヲ得セシムルモノナリ

#### 第四節 銀貨ノ廢止

ウオロスキー氏ハ兩本位ノ法律ヲ廢棄シ銀貨ヲ廢止スルコトノ不可ナル旨ヲ熱心ニ痛論セリ獨逸ハ千八百七十三年金本位ヲ採用シ大ニ金貨ノ需要ヲ喚起シ之ト同時ニ巨額ノ銀貨ヲ市場ニ投出シ續キテ丁抹、瑞典、諸威等ハ獨逸ニ倣ヒ金本位ノ制ヲ採リ尙ホ其他ノ諸國ニ於テモ亦俄ニ金本位ヲ採用シタランニハ金ハ銀ニ比シテ其價格大ニ騰貴シ銀ハ著シク下落スルコト明カナリ此場合ニ於テ佛蘭西、伊太里、白耳義及ヒ其他兩本位國ト稱セラル、モノ其兩本位ノ法律ヲシテ自由ニ活動セシムルトキハ下落シタル銀貨ハ直チニ是等ノ國ニ流入シ騰貴シタル金貨ニ代ハリ從ヒテ價格ノ變動ハ甚タシク激烈ナラサルヲ得ヘシ左レハウオロスキー氏ハ論シテ左ノ如ク主張セリ曰ク若シ金銀相維持スルノ作用底止サレ銀貨ノ廢止益、行ハル、ニ於テハ即チ此ノ如クシテ價格ノ單一ノ標準トナリタル金ノ價格ハ非常ニ騰貴セサルヲ得ス然ルトキハ總テノ負債ハ公私ノ論ナク法律上此金屬ヲ以テ支拂フコト、ナリ總テノ負擔ハ大ニ増加スル



ニ至ルヘシト

銀貨廢止ノ頃一二年間ノ景況ヲ見ルニ幾分カウオロスキー氏ノ言ヲ證明スルコトヲ得ヘキモノアルカ如シ即チ法定ノ純分ヲ有スル銀ノ價格ハ嘗テ「オンス」ニ付キ七十二片半ナリシカ右ニ記シタル獨逸ニ於ケル銀貨廢止ノ唯少シク實行セラレタルニ當リ已ニ五十七ト四分ノ三片マテニ下落セリ而シテ兩本位至制十分ニ行ハレタル時ニ於テ大ニ金ノ發見アリシ際ハ銀ハ金ニ對シテ騰貴シ五十九ト四分ノ三片ヨリ昇リテ六十二ト二分ノ一片マテノ價格ヲ有スルニノリシコトアリ然レトモ兩本位ノ制ヲキトキハ此ノ如キ銀貨ノ騰貴ハ之アラサルヘキナリ

ウオロスキー氏ノ說ハ理論上別ニ答ムヘキ所ナク且實際ノ狀況ニ依リテ幾分カ之ヲ證明スルヲ得ヘシト雖モ要スルニ兩本位廢止ノ結果ニ關スル此問題ハ絶對的ニ之ヲ論定スル能ハサルカ如シ若シ果シテ全世界ノ國民舉ツテ突然且同時ニ銀貨ヲ廢止シ金貨ヲ需要スルコトアランニハ金ノ價格ニ於ケル大變動ハ蒙ルヘカラサルモノナルヘキモ歐洲ノ國民ハ全世界人民ノ唯一少部ヲ形ヲ作

ルニ過キサコトヲ考ヘサルヘカラス印度及ヒ支那並ニ東方熱帶ノ地方ニ住スル數億ノ人民ハ銀ヲ以テ通貨トナシ且久シク之カ使用ニ慣レタルカ故ニ俄ニ其銀貨制度ヲ變更セサルナルヘシ現ニ英領印度ノ如キニ於テモ嘗テ英國政府カ屢金貨制度ヲ布カンコトヲ試ミタリト雖モ少シモ其効ヲ奏セス今日印度地方ニ流通セル金貨ハ僅ニ同地ノ金屬貨幣ノ十分ノ一二過キサカ如シ故ニ假令獨逸ヨリ四五千萬磅ノ銀貨ノ注出アリテ一時ハ銀ノ價格ヲ下落セシムルコトアリト雖モ其銀貨ハ漸次東洋諸國ノ吸收スル所トナルヤ疑ナシ此東洋諸國ハ已ニ二三十年間歐洲ヨリ貴金屬ノ流入ヲ受ケタルモノニシテ尙ホ今日ニ於テモ貴金屬ヲ吸收スルコト困難ナラサルモノナリ獨逸ノミナラス其他數多ノ諸國ニ於テ銀ヲ廢止スルコトアルモ若シ銀ノ廢止ヲ行フコト甚ダシキ急激ヲ以テスルニ非サレハ東洋諸國ハ其投出シタル銀ヲ吸收スルコトヲ得ヘキナリ

又銀ヲ廢止シテ之ニ代ユルニ金ヲ以テスルニ付テ金ノ供給如何ヲ察スルニ金ハ決シテ不足ヲ告クルニ至ルヘシトハ信スルコト能ハサルヘシ今金本位ヲ採



用スレハトテ更ニ多額ノ金貨ヲ鑄造スルノ必要ナルニ非ス何トナレハ或ル國例ヘハ諸威伊太里若クハ蘇格蘭ノ如キニ於テモ其主タル通貨ハ殆ト皆紙幣ヨリ成レルヲ以テナリ加之ナラス佛蘭西及ヒ獨逸ノ如キニ於テハ小切手及ヒ手形交換所ノ制度益々擴張セラレ大ニ金屬貨幣ノ使用ヲ節減スルコトヲ得ルナリ而シテ又通常鑛山ヨリ産出セル金ノ供給ハ今日ニ於テモ尙ホ甚タ多額ニシテ且新ギニヤ、南部亞弗利加、南北亞米利加及ヒ其他ノ地方ニ於テ新ナル金鑛ノ發見アリテ金ノ産出ヲ増加スルコトアルヤ知ルヘカラサルナリ

今約言スレハ金銀二種ノ金屬ノ需要供給ノ高ハ數多ノ事變若クハ立法上ノ措置ニ依リテ變動スルモノニシテ其事變及ヒ立法上ノ措置ノ如キハ之ヲ豫知スルコト能サレハ銀ノ價格ハ獨逸ノ通貨制度改革ノ爲メニ下落シタルモ尙ホ一層下落スルコトハ明言スルニト能ハサルナリ又金ノ購買力ハ非常ニ騰貴スヘシト云フモ唯想像ノ說ニ外ナラス吾々ハ此事ニ關シテ唯推測ヲ爲スヲ得ルノミニシテ試ニ推測ヲ以テスレハ金ハ恐ラクハ騰貴セサルヘシト云ハン金ハ千八百五十一年以來其價格低落シ而シテ現今金ニ對スル需要ハ漸ク唯此下落ノ

益加ハルコトヲ阻遏スルモノニ過キサルヘシ

### 第五節 兩本位ノ不便

兩本位ノ制度ヲ保維セサル可カラスト云フハ唯想像上ノ議論ニシテ此制度ノ不便ハ實際決シテ疑ヲ容レサル所ナリ今佛國ニ就テ云ハンニ千八百四十八年及ヒ千八百五十年ノ金礦發見以來兩本位制ノ作用ニ依リ「ナポレオン」至「ナポレオン」及ヒ「五」フランク等ノ美麗ナル金貨ハ重量ノ大ナル銀貨ニ代リテ佛國市場ニ行ハル、ニ至リシニ當テハ何人モ苦情ヲ稱フル者ナク佛人ハ舉ツテ兩本位ノ効用ヲ敬嘆セリ然ルニ千八百七十四年及ヒ七十五年頃ニ至リテ銀貨大ニ下落シテ銀貨ハ再ヒ佛國ニ流入シ他ノ諸國ハ金貨ヲ以テ其通貨ト爲スニ反シ佛國獨リ銀貨ヲ用ヒサルヲ得サルノ勢ヲ呈スルニ至レリ佛國人ハ其使用ニ慣レタル金貨ノ代リニ金貨ノ十五倍ノ重量ヲ有スル携帶上簡便ナラサル銀貨ヲ用フルコト、ナリタルヲ以テ大ニ不便ヲ感シタリ且又此ノ如キ通貨ノ變更ハ公衆全體ニ取リテ損失ヲ醸ス所ノモノナリ何トナレハ債主ハ價格ノ下落セル貨



幣ヲ以テ其負債ノ辨濟ヲ受クルコト、ナリ而シテ之ニ關シテ生シタル利益ノ一部ハ地金取扱人、兩換人及ヒ銀行家等ノ得ル所ト爲ルカ故ナリ畢竟是等ノ者ナシテ金銀貨ニ關スル商賣ヲ試ミテ不當ノ利ヲ射ラシムルモノハ革命十一年ノ法律ノ爲ス所ナリ右ノ如キ不便アルカ故ニ兩本位制ヲ維持スル國々ノ爲政治家ハ頗ル注意ヲ加ヘサルヘカラス殊ニ他國カ自國ト同一ノ制度ヲ採用セントスル意向ナキコトヲ考察セサルヘカラス若シ佛國カ此ノ如ク金銀ノ價格ヲ維持スルノ機關トナリ居ルトキハ佛國ハ總テノ費用及ヒ不便ヲ擔ヒ他ノ國民ハ貴金屬ノ價格ノ益、動搖セサルノ利益ヲ得ルコト、ナルモノナリ左レハ兩本位制ヲ行フニ於テハ佛國ハ自己ノ損失ヲ以テ他國ノ利益ヲ進マシムルモノニ外ナラサルナリ

佛國政府ハ漸ク此理ヲ悟リシカ如ク嘗テ五「フランク」ノ銀貨ヲ多額ニ鑄造セントスルノ傾向始メテ現ハル、ニ當リ同政府ハ直チニ其鑄造ヲ停止セリ續キテ佛蘭西、瑞西、白耳義及ヒ伊太里ノ間ニ約定ヲ設ケ各、人口ノ多少ニ比例シテ銀貨鑄造ノ高ニ制限ヲ附スルコトヲ定メ其約定ハ年々ニ之ヲ締結セリ既ニ是ヨリ

先キ銀貨ノ補助貨ニ付テハ此ノ如キ約定アリシカトモ其本位貨ニ付テハ此時マテ未タ制限ヲ設ケサリシ而シテ此ノ如ク鑄造高ヲ制限シタルノ結果ハ實ニ兩本位制ヲ打破スルコト、ナレリ即チ銀ハ唯制限シタル高ヲ以テ鑄造セラレタルカ故ニ金ヲ驅逐シテ之ニ代ハルノ力ナキニ至レリ今日佛國ニ於テ銀貨ハ合法貨幣トシテ之ヲ使用スルニ制限ナシト雖モ銀貨ハ其鑄造高少ナキニ依リ巨額ニ之ヲ得ルコト能ハサルカ故ニ此貨幣ハ實際補助貨ノ地位ニ下レリ右ニ述ヘタル如ク些々タル立法上ノ措置ヲ以テ佛國及ヒ其他貨幣同盟國ノ政府ハ實際兩本位制ヲ捨テ今日ニ於テハ英國及ヒ獨逸ニ行ハル、夫ノ集合法貨ノ制度ト殆ト同様ナル制度ヲ採用セリ尙ホ詳言セハ佛國ニハ千八百十年後ニ銅又ハ青銅貨ハ四「フランク」九十九「サンチム」ノ高ヲ限リ合法貨幣トシテ使用セラレ又稍、小ナル銀貨ハ其純分減セラレ私人間ノ取引ニハ五「フランク」國庫ヘノ支拂ニハ百「フランク」マテヲ以テ合法貨幣トシ而シテ本位銀貨ハ佛國ニテ兩本位ヲ保存セシメタル關節ナリシカ其關節モ既ニ半ハ折斷セラレタリ此ノ如ク佛國ヲ初メ歐洲西方諸國ノ貨幣制度ニ行ハレタル變革ハ已ニ是ヨリ



先キ合衆國カ兩本位制ヲ拋棄シタルト殆ト其趣ヲ同フスルモノナリ合衆國ニ於テハ千八百五十三年ニ至ルマテ同國ノ銀貨ハ無制限ナル合法貨幣ニシテ金貨ト共ニ流通シ金一ニ付キ銀十六ノ比例ヲ以テ此二種ノ金屬共ニ使用セラレタリ然ルニ此比例ヲ以テスレハ法律上ノ支拂ヲ爲ス者ハ米國ニ於テハ他國ニ於ケルヨリ多額ノ銀ヲ支拂ハサルヲ得サルカ故ニ自然金ヲ以テ支拂ヲ爲スコト通常トナリ銀ハ外國ニ流出セリ斯ル有様ヲ救治スル爲メニ米國政府ハ小銀貨ヲ補助貨ノ地位ニ下タシ且一弗ノ銀貨ハ尙ホ舊來ノ分量ヲ存セシト雖モ其鑄造高ヲ減縮シ實際殆ト其鑄造ヲ停止セリ之カ爲メニ銀貨ノ流出モ漸ク其迹ヲ斷ツコトヲ得タリ其後千八百七十三年四月一日ニ米國國會ハ鑄造條例ヲ發布シテ一圓金貨ヲ以テ價格ノ唯一ノ起票ト爲シテ金本位制ヲ採用セリ而シテ銀貨ハ新貿易銀及ヒ半弗其他小銀貨ノ支拂高ヲ制限シ總テ一口ノ支拂ニ五弗ヲ超過スヘカラストセリ此ノ如クシテ從來名義上存在シタル兩本位制ハ終ニ廢止セラレ米國ハ金本位國トナレリ

### 第六節 世界ノ貨幣制度

方今金ヲ以テ價格ノ尺度及ヒ主要ナル交換ノ媒介ト爲スノ傾向アルハ已ニ近來重ナル國民ノ通貨ニ關シテ起リタル改革ヲ見テ之ヲ推定スルコトヲ得ルナリ金本位ノ制度ハ現今大貌列顛及ヒ愛爾蘭、濠太利ノ殖民地、ニユー、ジ、ラ、ン、ド、亞弗利加殖民地及ヒ英國ニ所屬セル各地方ニ於テ採用セラレタリ又此制度ハ一時葡萄牙、土耳其、埃及及ヒ南米諸國例ヘハチリ、グ、ラ、シ、ルノ如キニ於テ存シタルコトアリ而シテ近年ニ於テハ獨逸帝國及ヒ丁抹、諸威、瑞典ニ於テ此制度ヲ設定セリ

兩本位制ハ今日猶ホ名義上佛蘭西、伊太里、白耳義、瑞西ニ於テ保存セラレ西班牙、希臘及ヒル、マ、ニ、ヤノ諸國ハ又近年ニ至リテ佛國ノ制ニ倣ヒ其通貨ヲ改革セリ隨テ是等ノ諸國ハ兩本位ヲ有スルモノト看做サ、ルヘカラス新大陸ニ於テハペリ、ユ、ー、イ、ク、ワ、ド、ル及ヒ新、グ、レ、ナ、ダノ諸國ハ又兩本位國ナルカ如シ又數年前ニ至ルマテ歐洲ノ諸國ハ銀貨本位ノ舊制ヲ保存シ金貨ヲ以テ貿易上



ノ貨幣トシ變動スル所ノ市價ヲ以テ之ヲ通用セシメタリ即チ獨逸ノ全部及ヒ  
 奧地利並ニスカンヂナビヤ諸國及ヒ露西亞ハ此類ニ屬シタルモ已ニ前ニ述ヘ  
 タル變革ニ依リ今日ニテハ奧地利及ヒ露西亞獨リ歐洲ニ於ケル銀本位ノ代表  
 者トナレリ然ルニ奧地利ハ千八百七十年以來種々ノ金貨ヲ鑄造シ實際金本位  
 制ニ近ケリ然リト雖モ銀本位ハ實際世界ノ大部分ニ於テ勢力ヲ有シ印度及ヒ  
 支那、交趾、東印度諸島亞弗利加及ヒ西印度ノ或ル部分中央亞米利加及ヒ墨哥其  
 等ニ於ケル無數ノ人民ハ專ラ銀貨ヨリ成レル所ノ通貨ヲ有シ或ハ印度ニ於テ  
 ハ「ルピー」銀ヲ用ヒ支那ニ於テハ馬蹄銀ヲ用ヒ或ハ其他ノ地方ニ於テハ銀ノ弗  
 貨ヲ使用セリ

金本位制度ハ此ノ如クシテ頗ル盛大ナル有様ニ趣ケリ尙ホ恐ラクハ一層盛大  
 ナルニ至ルヘシ合衆國及ヒ加拿太ハ已ニ金本位ノ制ヲ採リ羅甸同盟國ハ實際  
 兩本位ヲ拋棄シタルヲ以テ再ヒ此制度ヲ採用スルコトナカルヘシ又奧地利モ  
 進ミテ金本位ヲ取ルナルヘシ然レトモ之ト同様ノ變更ハ印度支那及ヒ熱帶諸  
 國ノ貧窮無學ニシテ且保守ノ風アル國民ノ間ニ之ヲ及ホスコト殆ト爲シ能ハ

サル所ナリ左レハ吾々ハ今茲ニ金本位若クハ銀本位ヲ採用スヘキ所ノ國々ヲ  
 類別スルヲ得ヘシ即チ歐洲西部及ヒ北亞米利加ニ於ケル非常ニ開化シタル人  
 民及ヒオーストララシヤニ於ケル大ニ發達セントスル人民並ニ第二等ノ文明  
 國例ヘハ埃及ブラジル及ヒ日本等諸國ノ人民ハ皆金本位ヲ有スルニ至ルヘシ  
 而シテ銀本位ハ之ニ反シ露西亞帝國及ヒ廣漠タル亞細亞ノ大陸ニ於ケル所々  
 ノ地方並ニ亞弗利加ノ或ル地方及ヒ多分墨哥其ニ於テハ爾後久シク保存セラ  
 ルヘキナリ

### 第十三章 鑄造ニ關スル技術上ノ事項

#### 第一節 總論

余輩ハ本章ニ於テ金屬貨幣ノ構造及ヒ整理ニ關スル種々ノ些細ナル點ヲ考察  
 セントス已ニ余輩ハ使用セラルヘキ金屬ノ撰擇ノコト及ヒ種々ノ金屬ヲ連結  
 シテ一ノ制度ヲ作ルコト並ニ貨幣ノ發行ヲ整理スルノ方法等ヲ論セリ今ヨリ



尙進ミテ本章及ヒ次章ニ於テ鑄造貨幣ノ最モ便利ナル大サ大數ノ貨幣ヲ數フ  
ルノ方法貨幣ヲ使用スルノ費用萬國普通貨幣ノ利害等ニ就キ論述セントス

### 第一節 鑄造貨幣ノ混合物

世人ハ通常貨幣ヲ以テ金又ハ銀ヨリ成レリト信スレトモ今日實際使用スル貨  
幣ハ或ハ銀及ヒ銅ヨリ成リ或ハ金及ヒ銅或ハ金銀及ヒ銅ヨリ成レルモノナリ  
古代ニ於テモ又近世ニ於テモ殆ト純金銀ヲ以テ鑄造セラレタル貨幣ナキニ非  
スト雖モ金銀ハ其純分ノミヲ以テスルトキハ其質柔軟ニ失シ磨滅シ易キカ故  
ニ之ニ少シク銅ヲ混合スルヲ以テ適當トス然ルトキハ其質堅硬トナリ久シク  
磨滅ニ堪ユルコトヲ得ルナリ而シテ其配合ノ割合ノ如キハ或ハ沿革上或ハ理  
論上ニ依リテ定マルモノナリ  
英國ニ於テ用ヒラレタル配分ノ方法ハ重量ノ制ニ基キテ定メラレタルカ如シ  
即チ銀貨ノ重量ヲ十二オンスト定メ其内十一オンスニハンドレッド、ウエイトハ純  
銀ヲ以テシ十八ハンドレッド、ウエイトハ銅ヲ以テセリ此割合ハ今日ニ於テモ保存

セラレ、モノニシテ千分中銀九百二十五分銅七十五分ノ比例ニ當ルモノナリ  
金ハ「キヤラット」ノ重量ト稱スル一種ノ古來ノ重量制度ニ依リテ秤量セラレ二十四  
「キヤラット」ヲ以テ重量上金貨ノ起標ト爲セリ其内二十二「キヤラット」ハ純金ヨリ成リ二  
「キヤラット」ハ混合物即チ銅ヨリ成ルモノナリ此配合ノ比例ハ數百年間存在シ來リ  
タルモノニシテ小數ヲ以テ之ヲ現ハセハ千分中九百十六、六六分ハ純金ナル其  
他諸國ニ於テ古來用ヒタル配合ノ法ヲ見ルニ千差萬別ニシテ或ハ千分中二百  
分若クハ百五十分ノ純銀ヲ用ヒタルコトアリ或ハ七百五十分若クハ七百分ノ  
純金ヲ用ヒタルコトアリシモ現今ニ於テ論究スヘキ點ハ千分ノ九百若クハ八  
百三十五ノ純分ヲ用ユヘシトノ議論ナリ數年前獨逸ニ於テ伯林政府ハ純金十  
「グラム」ト混合物一「グラム」トヲ合シテ本位貨幣ヲ作ランコトヲ計畫セリ此配合  
法ニ從ヘハ金ノ純分ハ十一分ノ十即チ千分中九百九〇九ノ割合トナルナリ此  
方法ハ別ニ明瞭ナル利益アルニ非ス幸ニシテ此方法ハ廢棄セラレ現今ノ獨逸  
ノ鑄造制度採用セラレ、ニ至リ金銀貨共ニ千分中九百ノ純分ヲ有スル比例ヲ  
以テセリ此比例ハ已ニ佛國カ革命時代ニ於テ採用シタルモノニシテ千八百六



十五年ノ貨幣同盟ニ属スル諸國並ニ西班牙、希臘及ヒ其他多少佛國ノ制度ニ倣ヒタル諸國ニ於テ採用セラレタリ合衆國ニ於テモ已ニ久シク此法ヲ行ヒ又近年スカンヂナビヤ諸國ニ於テモ此法ヲ採レリ然レトモ尙ホ露西亞、葡萄牙、土耳其及ヒ英領殖民地ハ英國ノ通貨制度ニ從ヒ千分中九百十六、六六ノ純分ヲ以テ金貨ヲ鑄造セリ

右ノ二制度即チ十二分ノ十一ト十分ノ九トノ純分ノ差ハ僅カニ六十分ノ一ニシテ其何レノ制ヲ取ルモ更ニ著シキ優劣ナシト雖モ寧ロ十分ノ九ノ計算上簡便ナル法ヲ取ルコト得策ナルカ如シ英國ニ於テハ金銀共ニ此配合法ヲ取ルヘシト論スル者アリシト雖モ容易ニ之ヲ實施セサルハ蓋英國人民ノ舊慣ニ拘泥スルノ癖アルカ爲メニシテ別ニ理由アルニ非サルナリ若シ英國ニ於テソベレイン貨ヲ十分ノ九ノ比例ニ改ムルトキハ其重量ヲ變シテ百二十三、ゲレインニ七四ヨリ百二十五、ゲレインニ五五七ニ増加セサル可カラズ而シテ新舊ノ貨幣ヲ混合シテ採用スルトキハ各銀行ノ使用シタル秤量法ニ對シテ少ナカテサル不便ヲ與フヘシ故ニ金貨ノ改革ハ遽ニ之ヲ行フコト能ハス然レトモ銀貨ニ至リ

テハ補助貨ノ純分ヲ十分ノ九ニ改ムルコトハ唯聊カ其厚サノ増加ヲ來スニ過キスシテ少シモ困難ヲ生スルコトナシ殊ニ小銀貨ノ爲メニハ大ニ利益アルモノナリ

千分中八百三十五ノ純分ヲ以テスル比例ハ佛國ノ採用シタル所ニシテ二、フヲソク以下ノ小貨幣ヲ造ルニ付キ此法ヲ用ヰタルコトハ已ニ前ニ述ヘタルコトアリ此混合物ハ十分ニ鑄造シ易ク其色合モ美麗ナルモノニシテ敢テ之ニ對スル特別ノ非難アルコトナシ又金貨中銀分ヲ含有スルコト舊來往々有リシ所ニシテ探掘シタル儘ノ金ヲ用フルトキハ多少ノ銀分ノ存スルコトヲ免レス夫ノギニー貨及ヒオーストラリヤノソベレイン貨ノ黄色ヲ帶フルモノ少ナカラサルハ此銀分ノ存スルニ由ルモノナリ今日ニ於テハミルラー氏、メルボーン造幣局ノ役員ノ發明ニ依リテ銀分ヲ金貨中ヨリ容易ニ分離スル事ヲ得ルニ至レリ其方法ハ先ツ銀ヲ含有セル金ヲ溶解シ「クローリン」瓦斯ヲ通スレハ「クローライト」銀ヲ生シ銀ハ純金ヨリ全ク分離シテ金屬ノ形ヲ成シ而シテ金ハ全ク純粹トナリ十分ニ打延ス事ヲ得テ最モ鑄造ニ適シ決シテ碎弱ナル事ナキニ至ル



### 第三節 鑄造貨幣ノ大サ

貨幣ハ大小共ニ失スルコトナキヲ要ス若シ小ニ過クルトキハ遺失シ易ク又ハ漸ク摘ミ取ルコトヲ得ルカ如キニ於テハ人民ノ不便少ナカラサルヘシ故ニ之ニ付テ試ニ定則ヲ述フレハ貨幣ハ拇指ノ先ト食指ノ先ヲ相合セタル全面積ヲ充タスタケノ大サヨリ小ナラサルコトヲ要ス左レハ英國ノ三ペニ一銀貨米國ノ一弗金貨瑞典ノ十オエーア金貨等ハ小ニ過クルモノト云ハサルヲ得ス貨幣ノ大サヲ論スルニ當リテハ單ニ其直徑ノミナラス其厚サヲモ考ヘサル可カラズ米國ニ於テ發行セラル、貨幣ハ普通ノ貨幣ニ比スレハ其厚サ大ニシテ爲メニ貨幣ヲシテ醜惡ナル外觀アラシムルト雖モ是等ノ貨幣ハ使用上頗ル便利ナルカ如シ佛國ハ全ク米國ノ反對ニシテ其直徑ヲ大ニシ厚サヲ薄カラシムルモノナリ例ヘハ佛國ノ五フランク金貨ハ甚タ薄クシテ殆ト十七ミリメートルノ直徑ヲ有シ米國ノ一弗金貨ハ之ヨリ價格多シト雖モ十三ミリメートルノ直徑ニ過キス最大ノ貨幣ニシテ最モ汎ク流通シタルモノハマリヤ、テレザノ弗貨幣

幣ナルカ如シ此貨幣ハ直徑一インチ六即チ四十六ミリメートルヲ有セリ其他最モ普通ナル弗貨幣ハ幾分カ之ヨリ小ナリ例ヘハ千八百五十八年西班牙ノ弗貨ノ如キハ直徑三十七ミリメートルナリ又千八百四十六年ノ米國弗貨千八百七十年ノ西班牙弗貨千八百七十二年ノ墨哥其弗貨ノ類ハ三十七ミリメートルヨリ三十八ミリメートルニ至ルモノナリ是等諸種ノ弗貨ノ直徑ヲ平均スレハ三十八ト二分ノ一ミリメートル即チ殆ト一インチ半ナリ米國ノ金貨ハ非常ノ厚サヲ有シ其直徑ハ短シ例ヘハダブル、イーグルト稱スル貨幣ハ四磅以上ノ價格ヲ有スト雖モ僅カニ三十四ミリメートル即チ一ト三分ノ二インチノ直徑ヲ有セリ塊地利ノ四シユカットハダブル、イーグルヨリ價格低シト雖モ是ヨリ大ナル直徑ヲ有スルモノナリ

### 第四節 貨幣ノ磨滅

貨幣ノ流通スル間ニ磨滅ヨリシテ其重量ヲ失フノ事ハ少シク注意スヘキノ事ナリ蓋金貨ノ場合ニ於テハ此等ノ減少ハ頗ル緊要ナルモノニシテ漸次ニ通貨



ノ劣惡ヲ來スヘシ是レ金貨國ナル英國ニ就テ云フモノナリ而シテ貨幣ハ元ト  
 轉輾シテ人々ノ手ヨリ手ニ渡ルモノナルカ故ニ其磨滅ノ重量ハ同形ノ各貨幣  
 ニ付テハ殆ト同一ニシテ又其ノ減量ノ多少ハ流通ノ期限ノ長短ト比例スルモ  
 ノナリ今英國ノ法律ニ依レハ「ソベールン」ノ金貨ハ其重量百二十二「グレイン」  
 五ニ至ルマテハ法貨トシテ通用スルヲ得ルモノニシテ即チ其全量ニ比シテ千分  
 ノ七百七十四「グレイン」ハ磨滅シテモ差支ナキモノトセリ右ノ「ソベールン」貨ノ  
 磨滅ニ就キゼヴチン氏ノ爲シタル調査ヲ見ルニ「ソベールン」ノ磨滅高ハ一年  
 平均千分ノ四十三「グレイン」ニシテ即チ「ソベールン」貨ハ十八年以上法定ノ重  
 量ヲ有シテ流通スル能ハス故ニ此十八年ヲ稱シテ「ソベールン」貨ノ法律上ノ一  
 生ト云フヲ得ヘシ然レトモドクトル、フアール氏ハ此調査ヲ修正シテ十五年トシ  
 又セード氏ハ之ヲ二十年トスヘシト論セリ  
 然レトモ今各國ノ通貨ヲ對照スルニ凡ソ磨滅ノ割合ハ一ハ流通ノ急激ナルト  
 否トニ依リ一ハ貨幣ノ大小及ヒ其性質ニ依ルモノナルコト明カナリ英國ノ「ソ  
 ベールン」貨ノ磨滅甚タシキハ全ク其性質ノ柔軟ナルト其流通ノ激烈ナルトニ

因ルモノナリ又其他貨幣ノ大小ニ由ルコト亦少ナカラス即チ英國ノ「クラウン」  
 貨佛國ノ「エキユー」銀貨若クハ米國ノ「ダナル、イーグル」貨ハ如キ其磨滅ノ度比較的  
 ニ少ナキハ是レ畢竟其表面ハ其容積ヨリハ稍少ナキ割合ヲ以テ増加スルモノ  
 ナルカ故ナリ又種々ノ銀貨ノ少シク磨滅シタルモノハ東洋諸國ニ於テハ却テ  
 人々カ容易ニ受授スル所ノ一原因タルカ如キ事情アリ又小銀貨ハ磨滅ノ度一  
 層甚シク千八百三十三年ニ英國ノ造幣局ニ於テ行フタル試験ニ依レハ磨滅ノ  
 爲メ一年間ニ於ケル減少高ハ半「クラウン」貨ハ百磅ニ付キニ「シルリング」六「ペン  
 ス」ニ「シルリング」貨ハ四志六「ペン」ス「貨」ハ七志六片ニシテ之ヲ小數ニテ計算スレハ  
 半「クラウン」貨ハ百分ノ奇零一ニ五「シルリング」貨ハ百分ノ奇零二、六片貨ハ百分  
 ノ奇零三七五ナリトス

金貨ノ磨滅ヲ少ナクセントセハ大ナル金貨ヲ發行スルヲ可ナリトス即チ合衆  
 國ニ於テハ現ニ「イーグル」及ヒ「ダナル、イーグル」ト稱スル大ナル金貨ヲ使用シ又  
 舊時ニ在テハ種々ノ大貨幣例ヘハ「カアリン」ド「ブラチン」ダ「ブルーン」コ「ドル」ブ  
 ル「ピストル」ダ「ナル、ライダー」ノ如キモノ流通セリ然レトモ此ノ如キ大貨幣ハ容



易ニ削収セラル、ノ恐アリ即チ或ハ小孔ヲ穿チテ之ヲ削取シ或ハ鑪ヲ加ヘ或ハ之ヲ革囊ニ盛リテ動搖シ其碎粉ヲ剝取スルノ方法等種々ノ奸曲ヲ行フハ小貨幣ヨリモ大貨幣ニ於テスルコト容易ナリ米國ニ於テ嘗テ「ダブル、イーグル」貨ヲ兩斷シ其内ニ含有セル分量ヲ剝取シ其代リニ白金ヲ充タシ巧ニ再ヒ之ヲ縫合シタルコトアリシ而シテ此等ノ奸曲ヲ爲スニ付キ其勞ニ酬ユヘキ利益ノ如何ヲ尋ヌルニ北米合衆國造幣局長ノ報告ニ依レハ其利益ヲ存スルヤ十分ノ證據アリ是ニ於テカ或ハ「ダブル、イーグル」貨ヲ薄クシ且少シク皿形ニ製造スヘシトノ發議アレトモ寧ロ此ノ如キ大貨幣ハ此カ發行ヲ停止スルコト得策ナルヘシ之ヲ實驗ニ徴スルモ「ソベレイン」「ナボレチン」「ハーフ、イーグル」等ノ適度大サヲ有スル金貨幣ハ惡意ヲ以テ取扱ハレタルコトナク又銀貨モ之ト同シク前述ノ如キ取扱ヲ受ケタルコトナシ蓋成ルヘキタケ貨幣ノ磨滅ヲ減少スルニハ細工圖識ヲ鮮明ニシ且餘リ高ク彫上ケサルヲ可トス英國ノ「フロリン」貨ノ鮮明ニシテ平カナル細工ハ舊來ノ「クラチン」「半クラチン」及ヒ「シルリング」貨ノ圓形ニシテ高キ細工ニ比シ復カニ勝レリ佛國造幣局ノ鑄造ニ係レル金銀及青銅貨ハ平カ

ニシテ見事ニ仕上ケタル細工ヲ有セリ又近來鑄造セラレタル最モ美麗ナル貨幣ハ千八百七十四年匈牙利ニ於テ鑄造シタル「二十フランク」新金貨ナリ又スカンヂナビヤノ新金貨即チ「五スベシ」ダラ及ヒ「二十クローナ」ハ皆精巧ニ造ラレタル貨幣ナリ

### 第五節 貨幣計算ノ方法

巨額ノ貨幣ヲ簡々計算スルハ管ニ煩雜ナルノミナラス又甚タ正確ナラサルモノナリ故ニ之ヲ簡便ニセンカ爲メ種々ノ方法ヲ設ケラレタリ造幣局英蘭銀行及ヒ其他巨額ノ貨幣ヲ取扱フ會社ニ於テハ「カウンチング、ポールド」(計算板)ト稱スル機ノ如キ器械ヲ用ユ此器械ハ太古ヨリ既ニ印度ニ於テ兩替商及ヒ其他ノ商人ノ用井タルモノナリ即チ平坦ナル盤ニシテ其表面ヲ穿チ數百ノ凹處ヲ作り其凹處ノ大サハ貨幣ノ大サニ應セシメ而シテ之ヲ以テ貨幣ヲ計算スルニハ同種類ノ貨幣一握ヲ盤面ニ投シ之ヲ振り動カシ貨幣カ大抵其凹處ヲ充タシタルトキニ容易ニ之ヲ計算シ得ルモノナリ此法ニ依レハ貨幣ヲ計算シテ誤ヲ生



セサルノミナラス同時ニ贋貨及ヒ磨滅貨ヲ看出スコト容易ニシテ其便利極メ  
 テ大ナリ  
 英國ノ諸銀行ニ於テ小切手支拂ノ爲メニ速ニ巨額ノ貨幣ヲ計算シ若クハ拂込  
 マレタル貨幣ノ數ヲ確ムルコト必要ナリ故ニ五十、二十、三十、五十、百、二百、及ヒ三  
 百「ソベレイン」等ト同シ重量ヲ有スル權衡ヲ具ヘ之カ用ニ供ス此方法ニ依リ五  
 「ソベレイン」ノ倍數ノ金貨ハ迅速且殆ト誤ナク僅々二三分間ニ計算スルコトヲ  
 得尤モ非常ノ巨額ニ於テハ時トシテ重量ノ不足ノ爲メニ一「ソベレイン」内外ノ  
 差ヲ生スルコトアリ半「ソベレイン」貨ヲ計算スル爲メニハ此貨幣ハ磨滅甚キ故  
 ニ此方法ヲ用ユルヲ適當トセス總テ英國金貨ハ重量減輕セルモノ多キカ爲メ  
 ニ右ノ如ク不正確ヲ生スルコトアルヲ以テ多少不便ヲ被ルヲ免レス  
 然レトモ半「ソベレイン」貨及ヒ其他同種類ノ貨幣ハ重複法ト稱スル便利ナル方  
 法ヲ以テ速カニ之ヲ計算スルコトヲ得即チ或ル適宜ノ數例ヘハ五十箇ノ貨幣  
 ヲ數ヘ之ヲ一方ノ衡ニ投シ置キ更ニ他ノ衡ニ若干ノ貨幣ヲ投スルトキハ別ニ  
 計算ノ煩勞ヲ執ラスシテ又五十箇アルコトヲ知り得ヘシ右ノ五十箇ヲ知レハ

其兩方ノ五十箇ヲ一ニ纏メ之ヲ一方ノ衡ニ投シ又更ニ他ノ衡ニ貨幣ヲ投シ百  
 箇ノ貨幣アルヲ確ムルヲ得ヘシ此方法ヲ繰返セハ巨額ノ貨幣ヲ容易ニ計算ス  
 ルコトヲ得ヘシ  
 又權衡モ計算盤モ之ヲ用ユルコト不適當ナルトキハ貨幣ヲ十、十五若クハ二十  
 五箇積ミ重ヲ又他ノ貨幣ヲ此ノ如ク積ミ重ネ之ト相並ヘテ平面ナル盤上ニ置  
 クトキハ其高サノ平準ナルヤ否ヤヲ見テ貨幣ノ數ヲ知リ計算ノ誤ヲ正スコト  
 ナ得ヘシ

### 第六節 金屬貨幣ノ費用

金屬貨幣ノ使用ニ就テ公衆ノ負擔ニ歸スル費用ハ幾何ナリヤ少シク考察セサ  
 ルヘカラス先ツ補助貨ナル銀貨及ヒ青銅貨ノ鑄造ニ付テ云ヘハ政府ハ其名目  
 上ノ價格ヨリ少ナキ重量ヲ以テ之ヲ發行スルカ故ニ之カ製造ニ依リ若干ノ利  
 益ヲ得ルモノナリ本位銀ハ一「オンス」ニ付キ五「シルリング」ノ割合ヲ以テ造幣局  
 之ヲ買入レ二「オンス」五「シルリング」六「ペンス」ノ割合ヲ以テ世上ニ發行スルカ故



ニ政府ハ其發行シタル貨幣ノ名目價格ニ對シ少ナクモ九分ニ當レル鑄造料ヲ得ルナリ十年以來英國造幣局ニ於ケル銀貨鑄造高ハ一年平均五十四萬六千五百八十磅ニシテ此高ニ對スル鑄造料ハ一年四萬九千二百磅ナリ然レトモ又造幣局ハ磨滅シタル銀貨ヲ其名目價格ヲ以テ買上ケサルヲ得ス而シテ此ノ如キ貨幣ヲ改鑄スルニ付テ政府ハ損失ヲ受クルナリ其損失高ハ千八百六十四年ヨリ七十三年ニ至ル十年間ノ平均ヲ取レハ一萬六千七百磅ナリ故ニ銀貨ニ關スル政府ノ一年ノ純益ハ三萬二千五百磅ナリ但シ造幣局ヲ設置スルノ費用ハ右ノ高ニ算入セサルナリ現今ニ於テハ銀貨ハ其價一「オン」ス「四」シルリング「十」ペン「ス」ナルヲ以テ鑄造料ハ大凡一割二分ニ當リ銀貨鑄造ノ利益ハ舊來ニ比スレハ一層大ナルモノナリ

青銅貨ノ發行ニ付テハ二十七萬磅ノ利益アリ然レトモ後ニ至リテ輕量ナル補助貨ヲ引上ケ之ヲ改鑄スルノ費用ヲ要スルカ故ニ此利益ヨリ其高ヲ控除セサルヘカラス

貨幣ノ通用ニ關スル費用ハ重ニ左ノ四ノ部分ヨリ成ル第一貨幣トシテ使用サ

レタル資本ニ對スル利子ノ損失第二金貨ノ磨滅ノ爲メニ生スル損失第三造幣局ノ費用第四貨幣ノ散失ナリ此ノ四項ノ中第四ノモノハ其高到底知ルコト能ハズト雖モ他ノモノニ至リテハ之ヲ計算スルコトヲ得即チ大略左ノ如シ

英國ノ金貨ハ「ソ」ベレ「ン」貨八千四百萬枚及ヒ半「ソ」ベレ「ン」貨三千二百萬枚ヨリ成リ其價格ノ全額ハ一億磅ナリト推定スルヲ得ヘシ而シテ「ソ」ベレ「ン」貨ハ磨滅ニ依リテ一年平均各箇ニ付キ〇、〇四三「グ」レイ「ン」ヲ失フカ故ニ其損失ノ總高ハ三萬磅ナリ半「ソ」ベレ「ン」貨ハ各箇ニ付キ〇、〇六九「グ」レイ「ン」ヲ失フカ故ニ其損失總高ハ一萬八千磅ナルヲ以テ合計四萬八千磅ノ損失アリ然レトモ利子ノ損失ニ至リテハ遙カニ之ヨリ重大ナリ今英國ノ通貨ニ付キ使用セラレタル諸種ノ金屬ノ全價格ヲ概算スレハ左ノ如シ

流通金貨	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
英蘭銀行ニ於ケル地金銀	一五、〇〇〇、〇〇〇
銀貨	一五、〇〇〇、〇〇〇
青銅貨	一、一二五、〇〇〇



總計

一三一、二二五、〇〇〇

此高ニ對スル利子ハ一年三分ト四分ノ一ノ利子歩合ヲ以テセハ四百二十六萬二千磅ヨリ少ナカラス

次ニ造幣局設置ニ關スル費用ハ年々殆ト四萬二千磅ナリ左レハ金屬貨幣ノ使用ニ關スル全キ費用ハ概算スレハ左ノ如シ

利子ノ損失

四、二六二、〇〇〇磅

貨幣ノ磨滅

四八、〇〇〇

造幣局ノ費用

四二、〇〇〇

總計

四、三五二、〇〇〇

此高ヨリ銀及ヒ青銅ノ補助貨ノ鑄造ニ付キ造幣局ノ得ル所ノ利益ヲ扣除セサルヘカラス然レトモ此利益ニ對シ貨幣ノ散失ニ因リテ生スル所ノ損失アルカ故ニ先ツ大略右ニ掲ケタル高ヲ以テ貨幣ノ使用ニ付キ要スル所ノ費用ト見做スコトヲ得ヘシ

第十四章 萬國共通貨幣

第一節 總論

萬國共通ノ貨幣ヲ設定スヘシトノ考案ニ付キ余輩ハ少シク論究セサルヘカラス斯ル計畫ノ成功ヲ見ル日ハ決シテ近キニ在ラサルヘシ加フルニ獨逸政府ノ近來ノ措置ノ如キハ殊ニ此計畫ノ進歩ヲ阻碍シタルモノナリト雖モ吾人ハ貨幣上ノ事物漸々革新スルニ從ヒ終ニ萬國同一ナル貨幣制度ノ行ハルヘキニ至ルコトヲ心ニ認メサル可カラス已ニ今日ニ於テ萬國共通ノ諸般ノ制度着々行ハレ來リ自他國民間ノ關係ハ漸次改良ノ方向ニ赴ケリ例ヘハ版權ニ關スル規約ノ如キ、罪人引渡條約ノ如キ、海上信號ノ如キ又郵便、電信聯合ノ如キモノ國際間ニ行ハレ萬國共同シテ事ヲ爲スコト益多キヲ加ヘタリ方今宇内ノ列國ハ決シテ往時ノ如ク四方ニ割據シ相仇敵視シテ互ニ吞噬セントスルノ亂暴ヲ企ツルコト少ナク戰爭ノ如キハ全ク其迹ヲ斷ツコト能ハサルモ大ニ減少シ諸國ノ



間ノ交通ハ鐵道、瀛車、汽船、電信、郵便、新聞紙等ノ便利増加スルニ從ヒ益、頻繁トナレリ又通商貿易ニ關シテ自由貿易益、其勢ヲ得ル今日ニ當リテハ吾人ハ當ニ總テノ人民カ人類ノ各種族ノ間ニ存在セル障壁ヲ及フヘキタケ打破シ去リ互ニ親昵協和スルニ至ルヘキノ日ヲ待ツコトヲ得ヘシ社會ノ氣運實ニ此ノ如クナル以上ハ貨幣制度モ亦萬國ノ間ニ均一ナルニ至ルヤ敢テ期シ難キコトニ非ス

### 第二節 萬國共通貨幣ノ利益

萬國共通貨幣ノ計畫ヲ難スル者アリ曰ク此計畫ハ假令其目的ヲ達スルトモ之カ利益ハ雷ニ國々ノ間ニ旅行スル僅少ノ人民ヲシテ困難ヲ避ケシムルニ過キサルヘシト然レトモ右ノ利益ハ貨幣ノ均一ナルヨリ生スル所ノ利益ノ中ニテ最モ些細ナルモノニシテ他ニ大ナル利益多シ即チ第一ニ計算物價及ヒ統計ヲ了解スルニ就テ簡便ナルコトナリ蓋シ統計家ニ取リテハ統計上ノ材料ヲ調査スルニ當リテ「フランク」「磅」「グラー」「メートル」「ヤード」「エール」「ハンドレッド」「ウایت」「キログラム」等種々ノ名稱ヲ以テ記セル表ニ依テハ容易ナラサル困難ナ

感セサルヲ得ス而シテ十分ナル統計表ヲ製セント欲セハ先ツ總テ是等ノ數ヲ同一ノ原位ニ改算スルノ勞ヲ取ラサル可カラズ次ニ商人若クハ業務ヲ取ルモノニ付テハ貨幣及ヒ度量衡ノ種々ナルコトハ大ニ困却セサルヲ得ス通貨ノ價格ハ土地ニヨリテハ全ク不確實ナルコト少ナカラス能ク一地方ノ狀況ニ通シ其地方ニ於テ使用セラル、貨幣及ヒ度量衡ニ精ハシキ人ニ非サレハ其地方ト貿易ヲ試ミルコト能ハス且又貨幣ノ制度一樣ナラサルニ於テハ外國爲換ニ關スル計算頗ル混雜ナルモノナルカ故ニ通常人民ハ往々損失ヲ受ケテ特ニ此事ニ通曉セル輩濫リニ巨利ヲ占ムルコトアリ

第二ニ一國ノ貨幣直チニ外國ニ通用セラル、ニ於テハ外國爲換ノ調理ハ一層駿速ニシテ完全ナルニ至ルヘシ蓋今日ニ於テハ一國ニ於テ鑄造セラレタル貨幣ハ他ノ國ニ於テ之ヲ使用スルニ當リテハ之ヲ溶解シテ其國ノ貨幣ニ改鑄スルヲ例トスト雖モ若シ萬國共通貨幣ニシテ行ハル、ニ至ラハ斯カル手數ハ之ヲ爲スヲ要セス貨幣ハ大抵皆鑄造貨幣ノ形狀ヲ以テ存在シ何時ニテモ之ヲ移轉シテ他國ノ流通ニ充ツルコトヲ得ヘシ從ヒテ貨幣ノ改鑄減少スルカ爲メニ



貨幣ノ費用ヲ減スルコトヲ得ヘク又今日ノ有様ニ於テ地金ノ賣買ヲ行フノ困難ナルニ乘シテ衣食スル所ノ夫ノ地金取扱商兩換商ヲシテ濫ニ空利ヲ得セシムルノ機會ヲ減少スルコトヲ得ヘシ其他旅客ノ困難及ヒ損失ヲ避クルノ便益モ少ナカラサルヘシ今日國際間ノ交通益頻繁トナルニ當リテハ旅客ノ員數益々増加スヘキカ故ニ旅客ニ對スル不便ハ成ルヘク丈ケ除却セサル可カラサルナリ尙ホ萬國共通貨幣ヨリ生スル他ノ利益ハ之ヲ採用スルコトニ依リテ半開諸國ノ通貨ニ改良ヲ來スコトナリ宇内ノ諸國ニ於テハ今日ニ至ルモ未タ其國固有ナル貨幣ヲ有セサルモノ少ナカラス價格ノ明カナラサル種々ノ貨幣混入シ其混雜甚タシキコトハ半開諸國ニ於テ通常見ル所ナリ若シ斯カル場合ニ於テ一定ノ共通貨幣行ハル、トキハ著シキ便益アルヘシ已ニ墨其哥弗ノ如キハ實際萬國共通貨幣トシテ久シク諸國ニ行ハレ殊ニ該貨幣價格ノ起票トナル所ノ國ニ於テハ商人ハ契約ヲ爲スニ當リテ何ヲ以テ標準トナスヘキヤニツキ少シモ困難ヲ蒙ラサルナリ今若シ諸方ノ文明國ニ於テ重量及ヒ大小ノ同一ナル貨幣ヲ發行スルコトアラシニハ其均一ノ貨幣ハ未タ固有ノ貨幣ナキ國々ニ流入

### 第三節 萬國共通貨幣ノ不便

シ其國々ノ通貨ヲ構成シ廣ク通貨ノ改良ヲ世界ノ僻隅ノ地ニ及ホスヘキナリ

萬國共通貨幣ハ上ニ陳ヘタル如ク便益アルモ之ヲ行フトキハ又不便ノ伴フモノナリ例ヘハ同盟諸國中一國ノ政府少シク本位以下ニ下ル貨幣ヲ鑄造シテ斯カル貨幣ノ一タヒ通用セララル、トキハ夫ノグレシヤムノ法則ニ依リテ右ノ惡貨幣獨リ勢ヲ逞フシ良貨幣ヲ驅逐シ此惡貨幣ハ容易ニ排除セララル、コトナキニ至ルヘシ佛國ノ造幣局ノ如キハ本位以下ニ下リタル貨幣ヲ發行シタルモノナリ佛國ノ金貨ハ法律上千分中九百分ノ品位ヲ有スヘキモノナルニ之ヲ分析審査スルトキハ八百九十八分乃至八百九十九分ノ品位ニ過キサルモノ通常見ル所ナリ佛國造幣局ノ公差ハ千分ノ二ナルヲ以テ右ノ貨幣ハ法律上流通ニ差支ナキモノナレトモ造幣局ノ吏員ハ此公差ヲ妄用シ其差ニ付テ利益ヲ得ントシタルモノナリ元來何レノ造幣局ニ於テ發行スル貨幣ハ皆ナ殆ント精密ナル本位ノ純分ヲ有セサルヘカラス而シテ其公差トシテ許ス所ノモノハ造幣技術



ノ未タ全ク完全ナラス其本位トシテ規定シタル所ト毫釐ヲ違ヘスシテ鑄造スルコト能ハサルコトヲ恕スルカ爲メニシテ決シテ故意ニ之ヲ利用シテ利益ヲ計ルヘキモノニアラス

國際上同盟ノ規約ヲ爲シテ貨幣ヲ發行スル邦國ハ右ノ如キ方法ニ依リテ僅カニ千分ノ一分若クハ二分ノ利益ヲ貪ランコトヲ欲スルコト恐ラクハ無カルヘシ今此種ノ貨幣ノ統一ヲ保タントセハ諸國ノ造幣局ノ吏員及ヒ分拆者相集合シ鑄造分拆ニ關シ共ニ採ルヘキ一樣ノ方法ヲ定ムヘキコトハ望マシキコトナリ而シテ從來諸國貨幣ノ鑄造ニ關シ固ク信ヲ守リタルモノ少ナカラス西班牙墨其哥ノ如キハ決シテ財政上誠實ノ國ナリト見ルコト能ハサルモ其造幣局ハ銀ノ弗貨ノ發行ニ關シテハ重量及ヒ純分ノ本位ヲ終始正實ニ保チタルカ爲メニ大ニ世人ノ信用ヲ博シ右ノ銀貨ハ已ニ數百年間世界ノ多クノ地方ニ於テ人入殆ント疑フコトナク容易ニ之ヲ授受シ來リタルノミナラス尙ホ一時ハ英國ニ於テモ流通セリ萬國共通貨幣ノ行ヒ得ヘキコトハ假令別ニ國際條約ノ設ケナキモ諸國ノ貨幣ハ今日他ノ數多ノ國民ニ於テモ合法貨幣トシテ認メラル、

ノ事實アルヲ以テ證明スルコトヲ得ヘシ例ハ英國ノ「ソベリン」貨幣ノ如キハ獨リ英國殖民地ニ於テ通用スルノミナラス尙ホ又葡萄牙埃及ブラジル等ニ於テモ通用シタルモノナリ又「ナポレオン」貨カ歐洲諸國ニ於テ自由ニ流通シ來リタルカ如キ和蘭ノ「ジュカット」貨カ非常ニ愛重セラレタル貨幣タリシカ如キ皆以テ萬國共通貨幣ノ實施シ得ヘキコトヲ示スニ足ルヘシ

### 第四節 貨幣ノ制度

萬國共通貨幣ヲ採用スルニ當リテ重ナル障礙ハ佛國英國米國獨逸等ノ如キ數多ノ強大ナル國民カ各自己ノ貨幣制度ヲ有シ其制度ヲ拋棄シテ新ナル制度ヲ採ルコトヲ欲セサルニ在リトス是等ノ諸國ノ制度ハ何レモ他ニ卓越シタル長所アルニアラサルカ故ニ皆自己ノ制度ヲ以テ萬國共通貨幣ヲ設立セシコトヲ欲シ互ニ相讓ルコトナキカ爲メニ萬國共通貨幣ヲ設立スルコト容易ナラス佛國ノ制度ハ「フランク」ヲ基礎トシ十進法ニ依リタル良法ニシテ且既ニ白耳義瑞典伊太利ヲ始メ西班牙希臘ノ如キモ此制度ヲ採リ壤地利ノ金貨モ亦此法ニ依



レモノニシテ右等ノ諸國ニ於テ共通貨幣トシテ用ヒラル、コト、ノ希望ナ  
有スルモノナリ英國ノ制度ニ於テハ磅以下ノ小分ハ甚タ不便ナルモ磅ハ優レ  
タル價格ノ起票ニシテ今日各國中最モ大ナル起票ナリ且金貨ナルカ故ニ漸次  
諸國ノ富強ニ赴クニ從ヒ最モ適當ナル起票ナリ該英貨ハ獨リ歐洲ノ僻隅即チ  
葡萄牙ニ於テノミ通用スト雖モ今日日進ノ勢アルオーストラリア、ポリネシア  
及ヒ亞弗利加ノ殖民地ニ於テハ既ニ之ヲ用ヒタリ加之ナラス英國ノ商業及ヒ  
航海ノ盛ナルヨリシテ英貨ハ世界至ル所ニ於テ人ノ熟知スル所ナリ又米國ノ  
弗貨ハ其分割十分法ニ依リ極メテ便利ナリ而シテ此貨幣タル既ニ二三十年ノ  
間廣ク諸邦ニ於テ行ハレ今日ノ開化ノ度ニ適スル起票ナルノミナラス今ヤ旭  
日ノ勢ヲ以テ日々ニ隆盛ニ赴キ將來最モ富強ノ有様ニ達スヘキ一大邦國ノ使  
用スル貨幣ナルカ故ニ之ヲ萬國共通貨幣トナスノ便利ナルコトハ疑チ容レサ  
ルナリ此ノ如ク佛國英國米國等各著シク優劣ナキカ故ニ萬國共通貨幣ヲ一定  
スルコトハ容易ノ業ニ非ス

### 第五節 國際貨幣條約

萬國共通貨幣ヲ設定スルカ爲メニ各國ヨリ委員ヲ派出シテ集會討議ヲ試ミタ  
ルハ前後數年ナリシカ千八百五十五年度量衡及ヒ貨幣ヲシテ十進法ノ制ニ準  
據セシメンカ爲メニ佛國巴里ニ於テ國際會議ヲ開キタルヲ以テ始トナス次テ  
千八百四十八年六十年及ヒ六十三年ニ倫敦及ヒ伯林ニ於テ會議ヲ開キ千八百  
六十五年十二月ニ於テハ佛蘭西白耳義瑞西及ヒ伊太里ノ間ニ國際共通貨幣ノ  
條約ヲ結ヘリ

千八百六十三年ノ會議ノ報告中ニハ甚タ重要ナル議決アリテ其一ニ擧クレ  
ハ銀及ヒ銅貨ヲ以テ補助貨ト爲シタル金本位ヲ最モ便利ナリトシタルコト、一  
切ノ本位貨幣ハ十分ノ九ノ純分ヲ有スヘキコト、及ヒ貨幣ノ重量ハ「メトリック」衡  
法ニ據ラシムルコト等ナリトス  
千八百七十年普佛戰爭ノ開戦ニ先タチ佛國ニ於テハ勅撰委員ヲ設ケ商務卿兼  
參事院議長ヲ以テ其總裁ト爲シ本位及ヒ萬國共通貨幣ニ關スル種々ノ問題ニ



就キ審査セシメタルニ其委員ノ多數ハ金貨單本位制ヲ可ナリトセリ  
今佛、埃、米、英、諸國ノ貨幣ノ起票ヲ比較シ其價格ヲ「フランク」ニテ見積リタルニ是  
等ノ貨幣ハ殆ント「フランク」ノ或ル倍數ニ當ルコトヲ見ルナリ是全ク偶然ニ生  
シタルモノニシテ殊更ニ斯ク爲シタルモノニ非ス即チ試ニ左表ヲ見ルヘシ

一法

「フロンク貨」 (埃國銀) 二、四七  
弗貨 (米國金) 五、一八

「ソベレイン貨」 (英國金) 二五、二二

故ニ是等ノ貨幣ヲシテ精密ニ「フランク」ノ倍數ト爲サンニハ次ノ如ク改ムルヲ  
要ス

「フロンク貨」 一

「フロリン貨」 二、五

弗貨 五、

「ソベレイン貨」 二五、

即チ「フロリン」貨ノ重量百分ノ一、二一ヲ増加シ弗貨ノ重量百分ノ三、五「ソベレ  
イン」貨ノ重量百分ノ〇、八八ヲ減少セハ右ノ四種ノ貨幣ハ相互ニ對シテ單純ナ  
ル比例ヲ有スルニ至ルヘシ此ノ如ク爲ストキハ諸國ノ貨幣制度ハ至リテ僅ナ  
ル變更ヲ爲スノミニシテ諸種ノ貨幣ハ容易ニ諸國ノ間ニ通用シ計算ノ不便モ  
ナク何レノ貨幣モ國際共通貨幣トシテ通用スルニ至ルヘシ例ヘハ英國ノ磅貨  
ハ佛國ニ於テ二十五「フランク」ニ通用シ米國ニ於テハ五弗ニ通用スヘク米國ノ  
弗貨ハ佛國ニ於テ五「フランク」英國ニ於テ四「シルリング」トシテ流通スルヲ得ヘ  
キナリ

諸國ノ起票貨幣ノ價格ノ關係此ノ如クナルヲ以テ若シ右ノ如ク多少ノ變更ヲ  
加フルトキハ萬國共通貨幣ノ實容易ニ擧カルヘシト雖モ惜ムヘシ國際會議ニ  
於テハ進ミテ何レヲ以テ起票ノ貨幣ト爲スヘキヤヲ定メサリシカ爲メニ速カ  
ニ功ヲ奏スルコト能ハサリシ之ニ加フルニ千八百六十五年以來獨逸帝國及ヒ  
瑞典、挪威ノ王國ニ於テ右ノ狀情ヲ試ミスシテ貨幣ノ變更ヲ爲シタルコトハ殊  
ニ萬國共通貨幣ノ進歩ヲ阻障セリ



### 第六節 獨逸 貨幣改定

獨逸ニ於テハ元來數種ノ貨幣混淆シテ流通シ幣政大ニ紊亂シタリシカ其貨幣改革ヲ行フヤ舊來ノ銀貨ニ代フルニ金貨ヲ以テ之ヲ以テ價格ノ尺度及ヒ無制限ノ合法貨幣トセリ而シテ其價格ノ起票ハ「マーク」ニシテ「マーク」ハ十分ノ九ノ純分ヲ有スル金ノ六「ゲレイン」一四六五ヨリ成リ恰モ英貨十一片四分ノ三ニ當ルモノナリ而シテ通常使用スル主要ノ貨幣ハ二十「マーク」貨ニシテ此貨幣ハ百二十二「ゲレイン」九二即チ七「グラム」九六四九五四ノ重量ヲ有シ七「グラム」一六八四五九ノ純分ヲ有スルナリ又十「マーク」ノ貨幣アリテ其重量ハ全ク二十「マーク」ノ半分ナリ

銀及ヒ白銅ノ補助貨ハ英國ノ集合制度ニ基キ發行セラレテ金貨ヲ補助ス其銀貨ニ於ケル鑄造料ハ百分ノ一一、一一、一一ニシテ之ヲ英國及ヒ佛國ノ鑄造料ニ比スレハ甚タ高キモノナリ英國ノ鑄造料ハ百分ノ九佛國ノ鑄造料ハ百分ノ七七、七八四ナリ

次ニ獨逸ノ二十「マーク」貨ト英國ノ「ソベレイン」貨及ヒ佛國ノ二十五「フランク」貨トノ純分ヲ比較スレハ「ソベレイン」貨ノ純分ハ七「グラム」二五八一、二十「マーク」貨ノ純分ハ七「グラム」一六八五ナリ故ニ獨逸ノ其幣政ヲ改革シテ新ニ金貨ヲ製造スルニ當リテ其二十「マーク」ノ重量ヲ百分ノ一、二五丈々増加シ佛國ノ二十五「フランク」ト均シク其純分ヲ七「グラム」二五八一ト爲スカ若クハ尙ホ更ニ増加シテ英國ノ「ソベレイン」貨ノ如ク七「グラム」三二四ト爲スカ其何レチカ採リタランニハ萬國共通貨幣ノ施行上實ニ好都合ナリシニ策茲ニ出テス七「グラム」一六八五ノ純分ニ定メタルハ聊カ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ蓋獨逸ニ於テ「マーク」貨幣ノ重量ヲ此ノ如ク定メタルハ唯三「マーク」ヲ以テ從來ノ一「タール」ニ當ラシムル爲メナリシカ如シト雖モ又該國カ佛國ヲ敵國視スルノ甚タシキ貨幣ノ制度ニ至ルマテ佛國ノ制度ニ倣フチ嫌惡セシニ依リタルコト尠ナカラサリシカ如シ

### 第七節 小貨幣ノ制度

萬國共通貨幣ノ起票ヲ撰定シタルニ於テハ其起票ヲ小分スルノ方法ヲ定メサ



ルヘカラス其方法ニ三種アリ即チ折半法十二進法及ヒ十進法是ナリ此三種ノ方法ハ各長所アリ其優劣ニ關スル爭ヒ自然ニ起ラサルヲ得ス既ニ往古ヨリ三者ノ内何レヲ採用スヘキヤノ議論アリテ古代ノ伊太里ニ於テハアペニオン山以南ノ地方ニ於テハ十二進法勢ヲ有シ以北ニ於テハ十進法專ラ使用セラレタリ支那ニ於テハ太古ヨリシテ純然タル十進法ヲ用ヒタリ英國ニ於テハ十二進法及ヒ折半法共ニ遠ク古昔ヨリ存在シ來リ即チソベレイン貨ヲ折半シテ半ソベレイントシ半ソベレインヲ二分シテクラオントシ更ニクラオンヲ二分シテ六片トナシ六片ヲ二分シテ三片ト爲シ更ニベニト二分シテ半ベニトシ又之ヲ二分シテフアシングト爲スカ如キハ折半法ニ則トレルモノナリ又一シルリングヲ分ツテ十二片ト爲シタルカ如キハ十二進法ニ依レルモノナリ折半法ニ至テハ單純ニシテ計算上極メテ便利ナリ十二進法ハ二、三、四、六等ノ數ニ分ツコトヲ得ルモノニシテ英國ノシルリングノ如キハ之ヲ六片貨二箇ニ分ツコトヲ得ヘク四片貨三箇ニ三片貨四箇ニ及ヒ二片貨六箇ニ分ツコトヲ得ヘク十進法ハ之ニ反シ一ヨリ十マテノ間ニハ二ト五トノ二者ニ分ツコトヲ得ルノミニ

シテ其分合自在ナラス最モ不便ナルカ如キモ十進法ハ總テ物ヲ計算スルニ通常慣用シ來レル所ノ法ナルカ故ニ貨幣ヲ計算スルニ當リテモ便利アルモノナリ此法ハ敢テ最良ノ法ナリト云フコト能ハサレトモ蓋人類ノ十指ヲ以テ物ヲ計算スルノ習慣ニ基キタルモノニシテ最モ自然ニ行ハルモノナリ併シナカラ純然タル十進法ハ何時ニテモ十倍ツ、ニ計算セサルヘカラス其勞煩シキヲ以テ此方法ハ折衷シテ實際ニ用フルコト常ナリ佛國ニ於テハ十進法ノ間ニ二及ヒ五ノ倍數ヲ挿ミテ其貨幣制度ヲ組立ツルニ一、二、五、十、二十、五十、百、二百、五百等ノ分割法ヲ以テセリ又米國ニ於テハ半、イーグル及ヒ四分ノ一、イーグルアリ半弗及ヒ四分ノ一弗アリ其他十、センツ及ヒ五、センツ及ヒ三、センツ等アリテ稍、複雑ニ過クルモノナルカ如シ

右ニ陳フル如ク三種ノ分割法ハ各長所アリテ唯其一ノミヲ專用スルコトハ便利ナラサルカ故ニ右ノ三種ヲ併用シテ能ク其國ノ實際ニ適當スル如ク設定スヘキナリ



第八節 萬國共通貨幣ノ起票ヲ撰定スルコト

萬國共通貨幣ニ用フヘキ起票ノ高ニ付テハ種々ノ議論アリ其一ニ曰ク漸次國民ノ富増加シ且之ト共ニ金ノ價格下落スルカ故ニ貨幣ノ起票ハ大ナルヲ要ス左レハ「フランク」ノ如キハ小ニ過キ起票ト爲スニ適セス磅ハ是ヨリ大ニシテ以テ起票ト爲スヘント然レトモ此議論ハ左マテ要用ナルモノニアラス如何ニ起票ヲ定ムルモ吾人ノ受授スル高ハ非常ニ大小アルモノナルヲ以テ其隔絶シタル種々ノ高ヲ表示スルニ常ニ同一ノ起票ヲ以テスルコトハ到底爲シ能ハサル所ナリ例ヘハ勞力者ノ賃銀ヲ計算スルニハ「シルリング」ヲ以テシ書記ノ給料ヲ拂フニハ磅ヲ以テシ商人若クハ銀行ノ財産ヲ論スルニ當リテハ數千ノ磅ヲ以テシ又國家ノ收入若クハ國債ヲ計算スルニハ數百萬ノ磅ヲ以テスルカ如ク國內大小ノ取引高ヲ示スニ唯一ノ起票ヲ以テスルコト能ハサルナリ故ニ起票撰定ノ事ハ左マテ意ト爲スニ足ラサルナリ然レハ其起票ノ小分ニ付テハ遙ニ重要ニシテ吾人ノ注意スヘキモノアリ即チ起票ヲ小分シタル最低額ハ凡ソ商業

上ノ取引ニ於テ記載スルノ價值アル最小額ニ應スルモノナラサルヘカラス即チ取引上有用ナキ金高ニマテ起票ヲ細分スルコトハ必要ナキナリ

第十五章 交換ノ仕組

第一節 總論

以上已ニ金屬貨幣ニ付テ略論シ盡シタルヲ以テ更ニ步ヲ進メテ大ニ發達セル商業國ニ於テ貴金屬ヲ節約スルカ爲メ如何ナル方法ノ行ハル、ヤヲ考察セント欲ス凡ソ人民ノ貨幣制度ノ有用ナルコト十分ニ經驗シタル後ハ最早貨幣ヲ以テ交換ノ媒介ト爲スノ必要ナキニ至リ再ヒ物品交換ニ類似スル方法ノ行ハル、ニ至ルナリ交易ハ恰モ物品交換ニ始マリ又物品交換ニ終ルト云フヲ得ヘシ然レトモ後ノ物品交換ハ初メノ物品交換ニ比スレハ著シク異ナリ即チ後ノ物品交換ニ於テハ賣買ハ金銀貨ノ名義ヲ以テ行ハレ其交換セラル、物品ハ貨幣ヲ以テ其價格ヲ表示シ又現金ノ取引ヲ要スルトキハ紙幣若クハ手形等ヲ



用ヒテ其金額ヲ表示シ若シ現金ヲ得ント欲スルトキハ之ヲ以テ現金ニ換ユル  
コトヲ得ルモ現金ヲ受クルカ爲メニ之ヲ使用スルコトハ稀ナリ而シテ貨幣ニ  
數職アルコトハ已ニ陳ヘタルカ如ク同一ノ金屬ヲシテ數職ヲ兼テシムルコト  
便利ナルモ社會經濟發達ノ程度如何ニ拘ハラズ常ニ數職ヲ兼テシムルコト  
フニ非ス已ニ方今信用發達シタルニ當リテハ金銀ハ尙ホ價格ノ表示者タルノ  
職務ヲ有スルモ交換ノ媒介タルノ職務ニ至リテハ殆ト其司トラサル所ナリ

### 第二節 交換ノ仕拂ノ發達

原始ノ社會ニ於テ物品交換ノ方法ヲ行ヒシヨリ以來交易ノ制度ハ種々ノ歩ヲ  
踏ミ遂ニ貴金屬ヲ最少ニ使用シ以テ物品ノ交換ヲ行フ完全ナル仕組ヲ致スニ  
至レリ今金屬貨幣ノ使用ヲ省略スル諸種ノ方策ヲ分類スレハ左ノ如シ

- 第一 代表貨幣ノ使用
- 第二 帳簿貨
- 第三 手形及ヒ手形交換所

### 第四 外國爲換手形ノ使用

### 第五 國際手形交換所

以上是ナリ乞フ先ツ代表貨幣ニ付テ一言セン

## 第三節 代表貨幣

金屬貨幣ハ曩ニ論シタルカ如ク大ニ交換ヲ簡易圓滑ニ爲スモノナリ然レトモ  
金銀貨ヲ使用スル人民ハ通常會社ノ進歩ニ依リテ金銀外ノモノヲ以テ交換ノ  
用具トナスコトヲ發明シ僅少ナル地金ノ價格ヲ有スル貨幣若クハ名目價格ノ  
ミチ有スル皮又ハ紙ノ片ヲ以テ正貨ニ代用シ正貨ノ證券トシテ彼我ノ間ニ流  
通セシムルノ便利ナルヲ悟ルニ至レリ此ノ如クニシテ金銀若クハ銅貨ニ代表  
セラル、所ノ物件ハ當初ハ其性質純然タル代表貨幣ナリシモ人民漸ク斯ル通  
貨ノ使用ニ慣レ其本來ノ性質ヲ忘レ金屬ノ基礎ヲ離レテ毫モ價格ナキ皮若ク  
ハ紙片ヲ尙ホ從來ノ如ク流通セシムルコトヲ得ルニ至リ所謂不換紙幣ナル現  
象ヲ呈出セリ凡テ此ノ如キ通貨ハ之ヲ使用スル一國ノ境界外ニ出ツルコト能



ハサルナリ

國際間ノ取引ヲ行フ商人ハ正貨ヲ以テ取引スルトキハ利子ノ損失及ヒ其正貨ヲ遺失スルノ危険アルヲ悟リ已ニ數百年ニ於テ爲換手形ノ使用ヲ發明セリ爲換手形ハ負債ノ證券ニシテ恰モ代表貨幣ノ如ク彼我ノ間ニ轉輾シ大ニ交換ヲ補助スルモノナリ

#### 第四節 手形及ヒ手形交換所

尙ホ右ノ外交換ノ媒介ヲ用ヒスシテ而カモ物品ノ交換ノ不便ヲ蒙ラス一層便利ナル方法アリ即チ常ニ賣買ノ取引ヲ爲ス人々ノ間ニ於テハ其買入レタル物品ニ對シテ貨幣ノ或ル高チ支拂ヒ其賣却シタル物品ニ對シテ又貨幣ヲ受取ルカ如キハ極メテ煩シキ方法ナルカ故ニ其交換シタル物品ノ價格ヲ貨幣ニ見積リ二者ノ間ニ差アレハ正貨ニテ之ヲ支拂フコトノ便利ナルヲ悟レリ是ニ於テ其人ニ取リテ目下必要ナラサル貨幣ハ之ヲ金匠若クハ銀行ニ預ケ置キ其取引ヲ爲ス人々ハ其相互ノ取引ニ於テハ全ク貨幣ノ受授ヲ爲サス只銀行ノ帳簿ノ

記入法ニ依リテ取引ヲ勘定スルコトヲ得而シテ多クノ銀行ノ間ニ於テモ亦之ト均シキ方法ヲ以テ相互ノ勘定ヲ整理スルコトヲ得ルナリ此ノ如クニシテ終ニ手形交換所ト稱スル一ノ大ナル仕組構成セラレ總テ内國ニ於ケル巨額ノ取引ハ只帳簿ノ記入ニ依リテ整理セラル、コトヲ得ルナリ手形交換所ハ諸國ニ於テ發達シタルモ誠ニ英國ニ於テハ倫敦其金融ノ中心トナリタルノミナラス又總テノ國際間ノ巨額ノ取引ニ關シテハ全世界ノ金融ノ中心トナルノ勢アリテ倫敦ハ實ニ國際手形交換所ノ所在地トナラントセリ

### 第十六章 代表貨幣

#### 第一節 總論

現今ニ於テハ代表貨幣ヲ製スルニハ通例紙ヲ以テスルカ如キ感アリト雖モ尙ホ古來ノ歴史ニ徴スレハ其他ノ種々ノ物品ヲ以テ代表貨幣ト爲シタルコトヲ知ルベシ補助貨ノ如キモ亦多少代表貨幣ノ性質ヲ有スルナリ何トナレハ其有スル所ノ價格ハ其含有セル金屬ニ依リテ生スルモノニアラスシテ本位貨ト交



換スルト云フニアリテ存スルモノナレハナリ英國ニ於テハ女王エリサベスノ時ニ至ルマテハ通貨ノ價格ヲ低落スルコトヲ厭ヒ政府ハ銅貨ノ如キ劣等ノ貨幣ヲ發行セサリシ代ハリ商賈ハ鉛若クハ皮ヲ以テ補助貨ヲ造リ其間ニ通用セリ又十八世紀ノ頃ニ至リテモ銅ノ補助貨多ク行ハレ多クハ其表面ニ雕刻シタル字畫ヲ以テ支拂ノ約束狀ナルコトヲ表示セリ現世紀ニ於テモニュー、サウス、ウエールスニ於テ小貨幣ノ缺乏ヲ告ケタルトキ同地ノ商賈ハ銅若クハ青銅ノ補助貨ヲ發行シテ流通セシメシカ千八百七十年以來其流通ヲ禁止セラレタリ

古代ノ人民モ本位貨幣ト補助貨幣ノ差違ヲ明カニ承知セリ夫ノ「ラセチーモン」ノ鐵貨ハ其重量及ヒ形體大ニシテ而カモ其價格ノ少ナキヲ以テ見レハ本位貨幣ナリシカ如シ又「ハイサンチン」ノ鐵貨ハ之ニ反シテ補助貨ナリシコト明カナリ

### 第二節 代表貨幣ノ沿革

太古ノ人民ハ紙幣ヲ使用セサリシ是全ク紙ノ製造ヲ知ラサリシニ依ルモノニ

シテ決シテ代表貨幣使用ノ方法ヲ知ラサリシニ依リテ然リシモノニアラス交換ノ媒介トシテ使用セラレタル最古ノ貨物ハ獸皮ナリシコトハ已ニ前述シタル所ナルカ代表貨幣ニ至リテモ其始メテ使用セラレタルモノハ獸皮ノ小片ニシテ通常之ニ官印ヲ押附シタリ獸皮ハ其形體大ニ過キ携帯ニ不便ナルヲ以テ其全皮ハ或ル場所ニ貯藏シ置キ其小片ヲ切り受ケ之ヲ全皮ノ代表物トシテ授セリ其小片ヲ有スルモノハ之ヲ全皮ノ切レ目ニ合セ其符合スルヲ以テ其所有ヲ證シタリ而シテ此ノ如ク皮片ノ彼此ノ間ニ流通シ人民此カ使用ニ慣ル、ニ至リタルトキハ其代表ノ性質ヲ有スルモノタルコトヲ忘レ政府若クハ其他ノ預ケ人ニ於テ其全皮ヲ使用シ去リタル後ト雖モ尙ホ引續キテ流通シタリ露西亞ニ於テ久シク皮幣ノ行ハレタル狀情ハ右ノ如クナリシコト疑ナシ羅馬ニ於テヌーマ王ノ時代ニ至ルマテ皮幣行ハレタルコトハ口碑ノ傳フル所ナルモ其性質如何ナルモノナリシヤ明瞭ナラス又カーセーザノ人民モ代表貨幣トシテ皮幣ヲ用ヒタルコトハイースキテスノ著書ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得此貨幣ハ自國ニ限リテ近隣ノ國々ニ於テ通用セサリシヲ以テ之ヲ見レハ全ク名目



上ノ價格ノミチ有シタル代表貨幣タリシヤ疑フヘカラス  
 然レトモ代表貨幣ノ使用古代ニアリテ最モ完全ニ發達シタルハ支那ニ在リ西  
 曆紀元前百年頃漢ノ武帝匈奴ト戰キ財用缺乏ヲ告ケタルトキ禁園ノ白鹿  
 ノ皮ヲ剝キ之ヲ以テ代表貨幣ヲ製シタルコトアリ而シテ皇帝獨リ此造幣ノ權  
 ナ專有シタルヲ以テ高價ニテ之ヲ發行セリ已ニ十四世紀ノ頃支那ニ於テハ紙  
 幣ノ通用行ハレ明ノ世ニ至リ大ニ之ヲ濫發シテ弊害ヲ釀成セリ  
 又其他ノ亞細亞ノ人民ニテ韃靼人及ヒ波斯人ノ如キモ紙幣ノ使用法ヲ理解シ  
 タルモノナルカ如シ

第三節 代表貨幣ヲ使用スルノ理由

代表貨幣ヲ使用スルノ理由ヲ精細ニ分析説明スルコトハ頗ル重要ナルコトナ  
 リ而シテ其理由ヲ尋ヌルニ固ヨリ一ニシテ足ラス歐洲ニ於テ銀行紙幣ヲ使用  
 シ始メタル起源ハ今ヲ去ルコト四百年乃至七百年代ニ於テ伊太里ニ設立セラ  
 レタル預金銀行ニ於テ之ヲ見ルヘシ當時伊太里ハ非常ニ貿易ノ盛ナリシ土地

ニシテ諸種ノ貨幣各國ヨリ混入シ磨滅シタルモノアリ削取ラレタルモノアリ  
 テ貨幣頗ル劣惡ニ流レタルヲ以テ之ヲ受授スルニ當リテモ商賈ハ逐一之ヲ秤  
 量シ且ツ其純分ヲ審査ゼサルヘカラス從ヒテ其審査秤量ノ勞ハ勿論時間ノ損  
 失及ヒ欺偽ノ恐レ少ナカラサリシ是ニ於テ伊太里ノ商業都府ニ於テハ商賈ハ  
 其金銀貨幣ヲ銀行ニ預ケ入レ其價格ヲ精密ニ計算シ之ヲ預ケ金トシ其預リ證  
 ヲ受取り置クヲ常トセリ其後アムスターダム及ヒハンブルヒノ銀行モ亦之ト  
 均シキ方法ヲ以テ設立セラレタリ此ノ如クシテ銀行ニ預ケ入レタル貨幣ハ之  
 ナ銀行貨幣ト稱ヘ之ヲ世上ニ流通スル貨幣ト交換スルニ當リテハ其通貨ノ平  
 均磨滅ノ多少ニ依リテ打歩ヲ有セリ而シテ之ヲ以テ支拂ヲ爲サントスルトキ  
 ハ支拂人ハ受取人ト共ニ銀行ニ到リ銀行ノ帳簿上ニ於テ支拂人ノ勘定ヨリ受  
 取人ノ勘定ニ書入換ヲ爲サシメタルモノナリ

第四節 金屬貨幣ノ不便

巨額ノ金銀ヲ取扱フノ煩勞ナルコト及ヒ危險ナルコトハ又代表貨幣ヲ用フル



ニ至ラシメタル一ノ原因ナリ蓋巨額ノ金屬貨幣ヲ安全ニ保持セント欲セハ堅  
 牢ナル倉庫ヲ有シ且之ニ番人ヲ付シ置カサルヘカラス英國ニ於ケル銀行事業  
 ノ起源ハ明カニ之ヲ知ルコト難シト雖モ恐ラクハ金銀ヲ安全ニ保持スルカ爲  
 メナリシカ如シ伊太里ニ於テハ數百年ノ間巧ニ整理セラレタル預金銀行存立  
 シタルモ英國ニ於テハ漸ク倫敦塔アリテ此ノ如キ用ニ供セラレタルモノナル  
 カ故ニ商賈ハ其所持金ヲ安全ナル保護ノ爲メニ此塔ニ貯藏シ置キタリ然ルニ  
 千六百四十年チーレス第一世カ倫敦塔ニ於ケル貯藏金ノ内ヨリ二十萬磅ヲ借  
 リ出シ自己ノ用ニ濫用シタルニ依リ人民ハ最早信用ヲ政府ニ措カサルニ至リ  
 且商賈ハ騷擾ノ際ニ在リテハ自己ノ家宅ニ巨額ノ貨幣ヲ所持スルノ危険ナル  
 ナ知リ之ヲ金匠ニ預クルノ慣習ヲ養成セリ金匠ハ常ニ金銀ヲ取扱フモノナル  
 カ故ニ貯藏ニ適スル倉庫ヲ所有シ商賈ヨリ金銀ノ若干額ヲ預リ之ニ對シテ受  
 取證書ヲ與ヘタリ此受取證書ハ始メハ恰モ倉敷證文ノ如ク特別ノ約束證書ナ  
 リシモ爾後此證書即チ金匠手形ト稱スルモノヲ以テ其預ケタル金銀ヲ讓リ渡  
 スノ習慣行ハル、ニ至レリ終ニ其特別約定證券ナル性質ヲ離レテ寧ロ一般約

束證券トナリ其證券ヲ以テ何時ニテモ要求次第貨幣ノ若干高ヲ引渡ス所ノ約  
 束書トナレリ

### 第五節 金屬貨幣ノ重量

金屬貨幣ノ重量大ナルコトモ亦巨額ノ取引ニ於テ代表證券ヲ使用スル一原因  
 ナリ其合法貨幣トナルモノ愈々重ク且大ニシテ運搬ニ不便ナルトキハ代表貨幣  
 ナ用フルノ必要ヲ感スルコト愈々大ナリ左レハ嘗テパリヂニヤノ州ニ於テ十八  
 世紀頃煙草ヲ以テ交換ノ媒介トナシタル時ノ如キハ之ヲ倉庫ニ藏メテ之ニ代  
 フルニ受取證ヲ用ヒテ取引セリ又露西亞ニ於テハ千七百六十八年カサリーン  
 第二世ノ時銅貨ヲ合法貨幣トシテ使用スルニ當リテハ不便大ナリシヲ以テ紙  
 幣ヲ發行シタリシカ其紙幣ハ公衆ノ好シテ受授スル所トナレリ爲メニ其發行  
 ノ當初ニ於テハ紙幣ハ銅貨ニ對シテ一朱ノ四分ノ一ノ打歩ヲ有セリ  
 方今商業ノ隆盛ナル日ニ在リテハ金貨ト雖モ巨額ナル支拂ヲナスニ就テハ猶  
 ホ不便アルヲ免レスセハリエー氏ノ言ニ依レハ佛國王冠ノ金剛石ト同等ノ價



格ヲ有スル金ヲ運搬スルニハ四十人ヲ要スト云ヒ又倫敦ニ於テ手形交換所ノ取引ヲナス所ノ金額ハ一日ノ平均ニ千萬磅ニシテ之ヲ支拂フニ金貨ヲ以テスレハ凡ソ百五十七噸ノ重サヲ要シ八十匹ノ馬ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ運搬スル能ハス又銀貨ヲ以テスレハ其重量二千五百噸以上ニ上リ其運搬實ニ困難ナル可シト云ヘリ今英蘭銀行紙幣ノ重量ヲ衡ルニ一枚僅ニ二十「ゲレイン」ニ過キスシテ之ヲソベレン「金貨一箇ノ重量百二十三「ゲレイン」餘ニ比スレハ唯其六分ノ一ニ當ラス加之ナラス其紙幣一枚ニ五磅拾磅五拾磅千磅等ノ金額ヲ記載シ之ヲ以テソベレン「貨ニ數倍スル金額ヲ表示スルコトヲ得ヘキナリ今若シ今日ノ取引ヲナスニ方リ交換ノ媒介トシテ眞ノ價格ヲ有スルモノヲ使用セサルヲ得サルナラハ寶石其他金ニ比シテ一層高價ナル金屬ヲ採用セサル可カラス然ルニ幸ニシテ商業ノ發達セル國ニ於テハ代表貨幣使用盛ンニ行ハル、ヲ以テ金銀ハ單ニ少額ノ支拂ニ用ヰラル、ニ止マリ巨額ノ取引ニ於テハ紙幣ヲ以テ十分ノ用ニ供スルヲ得ルナリ

### 第六節 利子ヲ省クコト

高價ナル金銀ニ代ユルニ代表貨幣ヲ以テスレハ利子及ヒ資本ヲ省略スルコトヲ得ルハ是亦代表證券ヲ使用スル理由ノ一ナリ凡ソ一國ニ於テ財用ノ不足ヲ告クルニ當リ正貨ヲ借入ル、トキハ之ニ對シテ其利子ヲ拂ハサル可カラス然ルニ其償却ヲ後日ニ期シ假リニ代表貨幣ヲ發行スレハ利子ノ支拂ヲ要セス又在來ノ金銀ヲ流通ノ爲メニ使用スルトキハ利子ヲ生スルコトヲキモ若シ之ヲ貸付或ハ營業等ニ用ヒ又ハ之ニ對シテ代表貨幣ヲ發行スレハ其全部若クハ一部分ハ之ヲ資本トシテ使用スルコトヲ得ルヲ以テ利子ヲ生スヘキナリ古代ノ希臘人ノ如キハ現今ノ英米人等ノ如ク能ク此理ヲ了解シタリシコト明カナリダイチニシヤスハシラッキースニ於テ錫貨幣ヲ發行シ之ニ四倍セル價格ノ銀貨ノ代ハリニ使用セシメタルコトアリ又アリストトトルノ著書ナリト云フ經濟論ニ掲クル所ニ依レハアゼン人チモセヤスハ戰爭ノ終ニ至リ銀貨ト交換センコトヲ約シ銀貨ノ代ハリニ銅貨ヲ發行シテ兵士及ヒ商人ヲシテ之ヲ受取テシ



メタルコトアリクラヅメニヤン人モ全ク利子ヲ省クノ目的ヲ以テ補助貨ヲ發行シタルコトアリ即チ此人民ハ嘗テ其傭兵ニ與フル所ノ給料二十[タレント]ヲ支拂フヲ得ス隨ヒテ年々四[タレント]ノ利子ヲ拂ハサルヘカヲサリシニヨリ鐵ヲ以テ代表貨幣ヲ製造シ之ニ二十[タレント]ノ名目價格ヲ付シ人民ヲシテ之ヲ銀貨ノ代バリニ使用セシメ其得ル所ノ銀貨ヲ以テ負債ヲ償却セリ此方法ニ依リ曩ニ利子ニ充テタル四[タレント]ノ年々餘裕ヲ生シタルカ爲メ數年ヲ出テスシテ全ク代表貨幣ヲ引上クルコトヲ得タリ又クエルンシ<sub>1</sub>島ニ於テ市場ヲ建築シタルトキモ之ト等シキ方法ニ依リ殆ト費用ヲ要セスシテ之ヲ竣功セリ其故ハ本島ノ奉行ダニエル、ブルック氏カセント、ピータースニ於テ一ノ市場ヲ設キ有セサリシ故ニ一枚一磅ノ紙幣四百枚ヲ發行ケントスルニ當リ相當ノ資金<sub>2</sub>之ニ島廳ノ印章ヲ付シテ職工ノ支拂ニ充テタリ其後市場竣功シ貸付料等ノ收入ヲ得ルニ及ヒ之ヲ以テ右ノ紙幣ヲ償却シ遂ニ「オンス」ノ金ヲモ要セスシテ全ク此業ヲ終了スルヲ得タリキ此ノ如ク紙幣ヲ利用シテ恰モ正金銀ヲ用ユルト同様ノ仕事ヲナスヲ得ルハ別ニ怪ムヘキニアラス蓋紙幣ヲ發行スルトキ

ハ同額ノ金高ハ其流通以外ニ驅逐セラルヘキヲ以テブロック氏ハ要スルニ無利子ニテ同島ノ金屬貨幣中ヨリ四十萬磅ノ公債ヲ強制的ニ募集シタルト同一ノ結果ヲ得タルモノナリ總テ右ノ如ク發行紙幣ハ其高ノ償却ニ充ツヘキ準備金額ニ超過スル丈ハ利子ヲ省略スルノ利益アリ英蘭中紙幣ヲ發行スル所ノ私立及ヒ合本銀行ハ凡ソ六百五十萬磅ノ金高ニ對スル利子蘇蘭ノ銀行ハ二百七十五萬磅ニ對スル利子愛蘭ノ銀行ハ六百萬磅餘ニ對スル利子ヲ得ルカ如ク實ニ紙幣ノ發行ハ大ニ利益アルモノナリ故ニ若シ其整理ノ方法宜シキヲ得ハ決シテ害ヲ生スルノ恐ナク其效益ヤ亦尠少ナラサルナリ

### 第十七章 約束手形ノ性質及ヒ種類

#### 第一節 總論

約束手形ノ發行ヲ整理スルノ方法ヲ論スルニ先ダチ諸種ノ手形間ニ存スル區別ヲ明カニセサルヘカラス凡ソ約束證券ヲ發行シテ其證券ト引替ニ一定ノ或ル物ヲ引渡スヘキ約束ヲナスモノハ左ノ三種中ニ於テ何レカ其一ニ屬スルモ



ノナリ

第一 請求セラル、マテ其物現物ヲ保存スルコトヲ約束スルコト

第二 約束手形ニ對シテ引渡スヘキ物品ヲ準備シ置クモ敢テ特定セル物品ヲ以テセス只同量同質ノ物ヲ引渡スコトヲ約束スルコト

第三 約束手形ニ對シテ物品ノ要求アルトキニ其約束セル物品ノ到着スルコトヲ豫期シ敢テ豫メ之ヲ準備シ置カサルコト  
即チ是ナリ

### 第二節 特別預證券

約束證券ノ最モ簡便ナルモノハ右第一種ノモノニシテ之ヲ稱シテ特別預證券ト云フ乃チ特別ナル物品ノ引渡ヲ約束スルモノニシテ船積證書質物手形倉敷證書等ノ類是ナリ船積證書ハ其所持人ヲシテ證書ノ表面ニ記載セル徽號箇數大小等ヲ以テ差示シタル物品ヲ受取ルノ權利ヲ得セシムルモノナリ而シテ此證書ニ調印シタル船長ハ證書ト引換ニ物品ヲ交付スルニ至ルマテハ常ニ其寄

託セラレタル現物ヲ保存スルコトヲ要スルモノナリ倉敷證書モ亦同一ノ性質ヲ有スルモノニシテ或ル倉庫ニ預入レタル物品ニ對スル請取證ニシテ之ヲ所持スルモノハ其表面ニ記載シタル物品ヲ請取ルコトヲ得而シテ此等ノ物品ノ所有權ハ其證券ニ裏書若クハ他ノ手續ヲ加ヘテ之ヲ移轉シ得ヘキニヨリ特別預證券ハ常ニ物品ヲ代表シ現ニ預入レラレタル物品ノ員數以外ニ之ヲ發行スルヲ得サルモノナリ乃チ證券發行者ハ純然タル物品受託者ノ職ヲ盡サ、ルヘカラスシテ證券ト引換ニ物品ヲ引渡スニ至ルマテハ其預リタル物品ハ決シテ之ヲ手離スコト能ハサルモノナリ

### 第三節 一般預證券

第二種ノ證券ハ即チ證券發行者カ或ル特別ナル物品ヲ渡スコトヲ約セス只證券ニ記載シタルモノト同量同質ノ物品ヲ渡スコトヲ約スルモノニシテ之ヲ稱シテ一般預證券ト云フ通常ノ場合ニ於テハ物品ノ性質殆ト同シクシテ敢テ其預入レタル特別ノ部分ヲ交付スルノ必要ナク何レノ部分ヲ以テスルモ不可ナ



キモノナリ例へハ以前グラスゴーノ鐵商カ地鐵ヲ受取ル時ニ同種類ノ鐵ニ就  
 テハ少シモ見ルヘキ差異ナキカ故ニ別ニ其預ケ人ニ依リテ其引渡スヘキ鐵ニ  
 區別ヲ立テス只其總預高ト總預證券ト平均セシムルコトヲ勉メ預證券ニ對シ  
 テ物品ヲ引渡スニ差支ナキ様ニナシタリ然レトモ稍近時ニ至リテハ其預リタ  
 ル鐵ヲ其證券ニ對シテ各別ニ仕譯ケ置クコト、ナレリ此二方法ノ間ニ於ケル  
 差違ハ些々タルカ如キモ實際極メテ重要ナルモノニシテ第一ノ方法ニ依レハ  
 預リ品ヲ濫用シ契約ヲ疎ニスルノ患アリ

第四節 特別預證券ト一般預證券トノ差異

此兩者ノ間ニ著シキ差異アルハ明カナリ特別預ノ約束ヲナス人ハ特別ノ證券  
 ニ對シテ特別ノ物品ヲ渡スモノナルニヨリ其現品ヲ手許ニ有スルコトナクシ  
 テ此ノ如キ證券ヲ發行スルヲ得ス若シ之ヲ發行スレハ詐欺ヲ以テ罰セラルヘ  
 シ然レトモ一般預ニ於テハ其證券引替ニ應スルニ當リ相當ノ性質ヲ有スル物  
 品ナレハ其何レノ部分ヲ以テスルモ不可ナキカ故ニ物品ノ在高ヨリ多クノ證

券ヲ發行スルモ容易ニ之ヲ看破スルヲ得ス故ニ妄リニ證券ヲ發行シテ投機ヲ  
 試ムルコト起リ易ク預リ人ハ其預リタル物品ニ付一時金額引渡ノ請求ヲ受ル  
 コトナキニ乘シ其預リ品ノ大部賣買ニ使用シ只小部分ヲ手許ニ備置キ日常引  
 渡ノ用ニ供スルコト數之アリ而シテ其預リ人カ發行スル約束證券ニ應シテ差  
 支ナク物品ヲ引渡スコトノ出來ル限リハ少シモ害ナキカ如クナルモノ之ヲ實際  
 ノ經驗ニ徵スルニ其證券ヲ濫用シテ終ニ約束ヲ履行スルコト能ハサルニ至ル  
 モノ少シトセサルナリ  
 加之ナラス預リ人カ實際ノ預リ高ヨリ多額ニ預證券ヲ作り公衆ヲシテ物品供  
 給ノ多キヲ信セシムルコト亦難カラス蓋約束證券ヲ所持スルモノハ之ヲ以テ  
 券面ニ記載シアル物品ト同一ニ看做スモノナルカ故ニ預リ人ハ實際ノ預リ高  
 ナキモ空ニ證券ヲ發行シテ之ヲ賣却シ後日之ト引替ニ物品ヲ引渡スヘキ約束  
 シ而シテ其約束ヲ履行スルノ日ニ至ラハ該物品ノ市價下落スヘキナ期スルコ  
 トヲ得ルナリ例へハ鐵ノ預リ人カ其倉庫中ノ在高ニ拘ハラヌ預證券ヲ頻リニ  
 發行シ他日現物ヲ引渡スヘキ約束ヲ以テ巨額ノ鐵ヲ賣却シ未タ之カ引渡ヲナ



サ、ルニ先チ其物品ノ市價ヲ俄然且烈シク下落セシメ之ニ乗シテ漸次ニ買込置キ之ヲ以テ證券ニ應スル引渡ノ用ニ供シ其現物ノ價ト證券ノ價トノ差ヲ以テ利ヲ射ルカ如キ是也

如此投機ノ業ハ種々ノ物品ニ付之ヲ試ムルヲ得ヘクシテ會社ノ株券ノ如キ亦此奸計ニ陥ルコト往々之アリ曾テ英國ニ於テ或奸商カ徒黨ヲ結ヒ或發行ノ株券ヲ空ニ賣出シ其銀行ノ名譽ヲ害シ從ツテ其株券ノ下落ヲ待チ急ニ之ヲ買込マンコトヲ謀リシコトアリ此ノ有害ナル一種ノ投機ハ千八百六十七年ヴイクトリヤ女王第三十年ノ法律ヲ以テ之ヲ防遏セリ此法律ハ總テ銀行株券ヲ賣却スルモノヲシテ他日ノ引渡ヲ期シテ之ヲ賣却スルニ當リテハ其株券ノ號數及持主ノ姓名ヲ特記スルコトヲ命シタリキ

凡ソ約束ヲナスノ權利ハ各人ノ有スル天賦ノ權利ニシテ斯ル約束ニ依リテ利益ヲ得ルハ差支ナシトノ論アリ成程他日正貨引渡ノ約束ヲ以テ手形ヲ受取り又ハ他日到着スヘキ綿米等ノ類ヲ引渡スヘキヲ契約スルハ通常見ル所ナルカ故ニ上ニ述ヘタルカ如キ契約ヲナスハ自由ナルヘキカ如シト雖モ苟モ社會全

體ニ害ヲ醸生スルノ恐アルモノハ之ヲ制限セサルヘカラス蓋法律ヲ以テ契約ヲナスノ權利ヲ承認スルノ理由モ畢竟其權利ハ社會ニ取り利益アルヲ以テナリ故ニ若シ特別ナル方法ヲ以テ約束證券ヲ作り之ヲ賣買スルノ自由ヲ與フルノ結果トシテ不正ナル投機ヲ起スノ憂アルカ若シクハ左ナクトモ社會ヲ利スルヨリハ寧ロ之ヲ害スルノ甚タシキモノアルニ於テハ法律ハ此理由ヲ拘束シテ須ラク社會全般ノ利益ノ爲メニ事ヲ處理セサルヘカラサルヤ疑ヲ容レサルナリ

### 第五節 貨幣約束證券

以上説キシ所チ貨幣ニ適用スルトキハ貨幣ノ約束手形ハ概チ常ニ一般預リノ性質ヲ有スルモノニシテ貨幣ノ在高チ他日支拂フヘキ約束ヲナス人ハ或特別ナル貨幣ヲ以テ其支拂ニ宛ツルコトハ希ナリ今貨幣條例ニ依レハ凡規則ニ從ヒテ製造サレタル相當ノ重量ヲ有スル貨幣ハ之ヲ合法貨幣ト稱シ何レノ支拂ニモ使用スヘキモノトスル故ニ貨幣ニ關スル約束ハ只期限ノ來ルトキニ合法



貨幣ヲ以テ支拂ヘハ事了ハレルモノニシテ決シテ特ニ某々ノ貨幣ヲ以テ支拂  
フヘシト云フニアラス然レハ銀行ノ預金ノ如キモノハ彼ノ倉庫ニ預入レタル  
物品ト等シク金銀地金若シクハ其國又ハ外國ノ貨幣ニ外ナラスト雖モ銀行證  
券ハ倉敷證文ト同一ノモノニアラス倉敷證文及船積證書ノ如キハ特別預リナ  
ルモ銀行預證券ハ一般預リニシテ決シテ格別ノ支拂ニ充ツ可キ貨幣ヲ特定シ  
置クモノニアラス若シ銀行ニシテ其花主ノ預ケタル貨幣ヲ小切手ヲ以テ引出  
サル、ニ至ルマテ常ニ備ヘ置クヲ要スルトキハ銀行ハ何ノ利益モナク又花主  
ニ於テモ斯ル特別ノ引替ヲ望ムノ必要ナカルヘシ然レトモ銀行力時トシテハ  
保護預又ハ質物トシテ或ル貨幣ヲ受クルコトアリ此場合ニ於テハ特別預ニモ  
テ其預入ラレタル現物ヲ引渡サ、ルヘカラス  
今若シ貨幣ノ約束證券カ特別證券ナリトセンカ發行者カ倉庫管理人タルノ職  
務ヲ勉メ各證券ニ對シテ特別ナル貨幣ヲ常ニ準備シ置カサルヘカラサルカ故  
ニ其約束證券ノ發行ヲ自由ニ放任スルモ更ニ弊害ノ生スルコトナカルヘシ然  
レトモ實際ニ於テハ決シテ然ラス貨幣約束證券ハ皆一般約束ナルカ故ニ非常

ノ増發ヲ來シテ大ナル弊害ヲ醸スノ憂アルモノナリ

### 第六節 代表貨幣流通ノ原理

既ニ第八章ニ於テ金屬貨幣ヲ受授スルニ付キ各人ノ意思ヲ分析シテ流通上ノ  
原理ヲ説明シ慣習ノ勢力及「グレシヤム」ノ法則ヲ研究セシカ右ノ原理ハ亦金屬  
貨幣ト紙幣トカ並行セラル、場合ニ於テモ等シク適用シ得ラル、モノナリ先  
ヅ彼ノ慣習ナルモノハ金屬貨幣ノ使用ニ關シ勢力アルカ如ク代表貨幣ノ使用  
ヲ維持スルニ就テモ亦大ナル勢力アリ蓋唯紙片ヲ使用シテ少シモ損失ヲ受ケ  
來ラサリシ人々ハ其紙片ノ信用ヲ落スヘキ事情ニ遭遇スルニ至ルマテハ之ヲ  
以テ善良ナル貨幣ト見做シ却テ粗惡ナル紙幣ヲ以テ美麗ナル金屬ヨリ愈レリ  
トナスコトアルヘシスコットランド、ノールウエーノ通貨制度ヲ見ルモ此ノ虛ナ  
ラサルヲ知ルヘシノールウエーニ於テハ千八百七十四年ニ至ルマテハ金貨ハ少  
シモ流通セスシテ一弗五弗若シクハ十弗ノ紙幣カ主要ナル通貨トシテ流通セ  
リ



代表貨幣ハ此ノ如ク正貨ト等シク流通スルコトヲ得ルモ茲ニ二者ノ間ニ著シキ差異アルヲ知ラサル可カラス乃チ代表貨幣ハ其法律上通用シ若シクハ慣習ニ依リ流通スル所ノ一國若シクハ一地方ノ境域外ニ於テ流通スルコト能ハサルコト是ナリ彼ノ英蘭銀行紙幣ノ如キヲ旅行者カ屢之ヲ海外ニ携帯シテ到處ニ於テ容易ニ其土地ノ通貨ト交換セラレ、コトアルモ該紙幣ハ決シテ貨幣トシテ流通スルニアラスシテ全ク倫敦宛ノ手形トシテ取扱ハル、ニ過キス故ニ之ヲ以テ英國ヨリ他國ニ對スル負債ヲ辨償シ了ハルコトヲ得ルモノニアラスシテ却テ負債ヲ作爲シ巴里ノ銀行家ノ手ニ在ル英蘭銀行券ハ畢竟該銀行家カ英蘭銀行ニ對シテ有スル權利ヲ表示スルモノトナルナリ外國商人ニ拂フヘキ負債償却ノ爲ニ實際輸出セラレ、オ得ル所ノ貨幣ハ本位金屬貨幣ヲ措クノ外他ニ之アラズ去レハ紙幣ハ本位貨幣ヲ驅逐スルノ力ヲ有スルコト猶彼ノ輕重ニシテ劣惡ナル鑄造貨幣ニ異ナルコトナシ殊ニ不換紙幣ノ場合ニ於テハ此事タル最モ明瞭ニ之ヲ見ルヲ得ヘシ不換紙幣ノ發行高漸次加ハルトキハ一國ノ通貨多キニ過ルニ至ルヲ以テ鑄造貨幣ハ勢輸出セラレサルヲ得ス此ノ如クシ

テ若シ正貨甚シク流出スルニ及ヒテハ外國ノ支拂ヲナスカ爲ニ正貨ノ必要ヲ感スルニ至リ隨ツテ紙幣ハ是迄同一ノ價格アリト認めラレタル正貨ニ比シテ其價格ヲ落スニ至ルモノナリ是ニ於テカ多數人民ハ正貨ヲ貯存スルノ利益アルヲ察シ容易ニ之ヲ手放サス爲メニ幾何モナクシテ世間ニ流通スルモノハ獨リ紙幣ノミトナルヘシ此ノ如ク紙幣カ正貨ヲ流通以外ニ驅逐スルコトハ再三再四諸國ノ實驗セル所ニシテ佛國革命時代ノアツシニヤ紙幣千七百九十七年ヨリ千八百十九年ニ至ルノ間英蘭銀行ニ於テ正貨ノ兌換ヲ停止シタルカ如キ米國南北戰爭ノ際ノ如キ皆能ク之ヲ證示スルモノナリ又最モ輓近ニシテ最モ顯著ナル適例ハ之ヲ伊太利ニ就テ見ルヲ得ヘシ伊太利ニ於テハ千八百六十二年ヨリ千八百六十五年ニ至ルノ間美麗ナル金銀貨ヲ巨額ニ發行セシカ忽ニ之ヲ紙幣ノ強制力ノ爲ニ驅逐セラレ、ニ至レリ

### 第十八章 紙幣發行ノ方法

吾人ハ是ヨリ紙幣ノ發行ヲ調理スル種々ノ方法ヲ考察セントス此問題ハ恐ラ



ク經濟學ノ全範圍内ニ於テ最モ困難ニシテ最モ議論アルモノナルヘシ然レトモ若シ事實ノ分析ヲ強メ貨幣發行ノ原則ニ準據セハ庶幾クハ紛亂ノ中ヨリ身ヲ脱スルヲ得ヘキ歟

凡ソ貨幣ノ發行ハ政府自ラ之ヲ掌ルカ若シクハ之ヲ私人ニ放任スルカ若シクハ半官半民ノ會社ニ委テ多少ノ制限ヲ付シテ發行セシムルコトヲ得ヘシ此ノ如ク貨幣ノ發行ハ官民孰レカ之ヲナスヘキヤノ得失ハ姑ク措キ先孰レニモモヨ能ク紙幣發行ノ額ヲ整理シ約束ノ履行ヲ確ムルヲ得ヘキ數種ノ方法ヲ列舉セシ

第一 全額金銀準備法 紙幣發行者ハ紙幣發行額ト同額ノ金銀ヲ常ニ準備スルコトヲ要スル方法

第二 分額金銀準備法 紙幣發行額ト同額ノ金銀ヲ貯存スルヲ要セスシテ其内一定ノ額ヲ限リ公債證書其他確實ナル有利證券ヲ備ヘ置クヲ得ル方法

第三 最少額準備法 紙幣發行者ハ何時タリトモ必ス正貨及地金ノ一定ノ

最少額ヲ有セサルヘカラサル方法

第四 比例準備法 紙幣發行額ニ比シテ準備ヲ置クノ方法例ヘハ發行額ノ三分ノ一若シクハ四分ノ一ニ當ル準備ヲ置クヲ要スルナリ

第五 最多額發行法 發行最多額ヲ定メ之ニ超過スル額ヲ發行スルトキハ處罰スルノ方法(處罰ハ多ク之ニ對スル利子ヲ徵ス以下皆同シ)

第六 伸縮制限法 前法ノ如ク發行額ニ制限ヲ置キ之ニ超過シタル紙幣額ニ對スル罰ヲ故ラニ輕クシ非常ノ場合ニ於テハ發行者ヲシテ其罰ヲ犯シテ發行スルヲ得セシムル方法

第七 證券準備法 準備ハ正貨若シクハ地金ニアラスシテ公債證書株券若シクハ其他ノ券證ヲ以テスルノ方法

第八 不動産準備法 土地家屋船舶鐵道等ヲ以テ準備トナシ得ル方法

第九 外國爲換法 外國爲換我ニ逆ラヒ正貨ノ輸出ヲ有利ナラシムル間ハ紙幣ノ流通額ヲ増加セシメサルノ約束ヲ以テ或大銀行ヲシテ兌換紙幣ヲ發行セシムルノ方法



第十 自由發行法 一般商業上ノ契約ニ關スル法律ヲ以テスルノ外毫モ制限ヲ設ケスシテ紙幣發行ノ業ヲ各人ノ自由競争ニ放任スルノ方法

第十一 金紙平均法 金貨ト紙幣トノ間ニ差ヲ生セサル間ハ自由ニ紙幣ヲ發行セシメ若シ金貨カ打歩ヲ有スルニ至レハ發行ヲ停止シ以テ紙幣ノ價格ヲシテ其代表スル正貨ト均一ナラシムルノ方法

第十二 租稅支拂法 不換紙幣ヲ自由ニ發行スルモ之ヲ租稅支拂ノ爲ニ正貨ノ代リニ使用セシメテ其價格ヲ維持スルノ方法

第十三 後日兌換約束法 後日ニ至リ正貨引換ノ約束ヲ以テ紙幣ヲ發行シテ或ハ或期日ニ或ハ或政治上ノ或事件ノ後ニ兌換セントスルノ方法

第十四 不換紙幣法 發行シタル紙幣ハ約束手形ノ外形ヲ有スルモ或ハ習慣ノ力ニ依リ或ハ國王ノ命令ニ依リ或ハ他ニ使用スヘキ貨幣ナキニヨリ全ク其約束ノ履行ヲ免レテ通用スルノ方法

以上紙幣ノ發行ヲ整理スル方法十四ヲ列舉シタリ尙此他ニ方法ナシトセス乃チ約束ノ履行ヲ確メンカ爲メ又ハ其履行ヲ不必要トナサンカ爲メ無數ノ方法

第一節 全額金銀準備法

ナキヲ得ス加之ナラス此等ノ方法ヲ結合シテ種々ノ方法ヲ組成シ得ヘキナリ例ヘハ準備ノ一部分ハ正貨ヲ以テシ一部分ハ證券又ハ不動産ヲ以テスルカ如キ或ハ銀行家ニ或定額マテハ無準備ニテ發行スルヲ許ルシ其餘ハ全額金銀準備法ヲ以テセシムルカ如キ或ハ金紙平均法ト外國爲換法ヲ併セテ發行ヲ調理スルカ如キ等是ナリ然レトモ盡ク此等無數ノ方法ヲ説キ逐一其利害得失ヲ論究シ能ハサルヲ以テ之ヨリ專ラ上述ノ十四方法ニ就キ論究セントス

此方法ハ昔時伊太利共和國ニ於ケル預金銀行並ニアムスターダム及ハンベルヒノ銀行等ニ於テ用サレ又倫敦ノ金鍛冶保護預リトシテ公衆ノ金銀ヲ預リシトキニ此方法ヲ行ヒタリ此方法ニ依リ發行セラレタル紙幣ハ彼ハ倉敷證文及質物手形ト異ナル所ナク代表ノ性質ヲ有スルモノニシテ其紙幣ニ對シテ必スヤ現物ヲ保存シ置カサルヲ得ス乃チ紙幣ノ高ト金銀ノ準備高ト全ク同額ナルヲ要シ紙幣ヲ發行スルニ當リテハ之ト同額ノ正金ハ銀行ノ庫中ニ存セサル



ヘカラサルカ故ニ此方法ヲ以テスレハ紙幣カ正貨ヲ驅逐スルノ恐ナシ然レトモ其利益ヤ甚タ僅少ニシテ以テ漸ク正貨ノ磨滅ヲ避ケ且之ヲ運搬スルノ煩勞及危險ヲ省クニ過キス而シテ常ニ發行高ダケノ準備ヲ要スルヲ以テ社會ハ其高ニ對スル利子ヲ失フヲ免レス且又正貨ハ之ヲ銀行若シクハ政府等ニ預ケ置クヨリハ之ヲ各人ノ手ニアラシムルヲ安全トス何トナレハ正貨ニシテ徒ニ貯藏セラレ全ク使用セラレサルトキハ其預リ人ハ之ヲ使用セントスルノ念起リテ爲ニ之ヲ妄用スルノ弊害生スヘキモノナレハナリ彼ノチャールズ一世カ倫敦銀行ニアリシ金銀ヲ掠奪シタルカ如キ例アルノミナラス尙銀行ニ於テスラ其預金ヲ濫用シタルコトアリ千七百九十五年佛國人和蘭ニ侵入シ「アムスターダム」銀行ヲ搜查セシニ其銀行ノ準備金ハ總テ和蘭ノ東印度會社ニ貸附ケタリシコトヲ發見セリ又魯西亞政府ハ嘗テ銀行ノ準備金ヲセントピーターズブルグノ城上ニ貯藏シ置キ取引所ノ役員ヲシテ監理セシメタリシカ千八百四十八年ニ之ヲ濫用セシモノアリシヨリシテ終ニ政府ハ自ラ之ヲ監理セサルヲ得サルニ至レリ又英國政府ハ千七百九十七年ニ於テ財政困難ニ際シ英蘭銀行紙幣

ノ兌換ヲ停止シ其準備金ヲ使用シタルコトアリ

### 第二節 分額金銀準備法

千八百四十四年英國銀行條例ニ依リ制定セラレタル英蘭銀行紙幣發行法ハ分額金銀準備法ニシテ乃チ千五百萬磅迄ハ正貨準備ヲ置クヲ要セサルモ其餘ハ各五磅紙幣ニ付發行部ハ六百十六「ゲレ」三三七ノ重サアル金ヲ準備セサルヘカラス而シテ其一千五百磅ハ種々ノ證券及政府ニ對スル無利息ノ貸付金十一萬磅ヲ以テ準備ニ充ツルモノトス此法ニ依レハ全額金銀準備法ノ如ク發行ノ確實ナルコト及正貨ノ磨損セサル等ノ利益アルノミナラス尙又社會ハ毎年右ノ千五百萬磅ニ對スル利子凡四十四萬五千磅ヲ利スルヲ得ルモノナリ此ノ如キ利益アルヲ以テ此法ハ毫モ間然スヘキナキカ如シト雖モ其能ク會社ノ信用ヲ幫助スルノ點ニ至リテハ未タ以テ十分ナリトナスコト能ハス蓋此方法ハ恐慌ニ際シ金融壅塞シ貨幣ノ需要大ナルノ日ニ當リテ能ク其貨幣ヲ増發シテ時ノ急ニ應スルコトヲ得テ却テ益々信用ヲ破壞シ恐慌ヲシテ一層劇烈ナラシム



ルノ害アリ然レハ英國ニ於テハ現ニ千八百四十七年千八百五十七年及千八百六十六年ノ恐慌ノ起リタルトキ該銀行條例ヲ停止シ英蘭銀行ヲシテ充分ニ紙幣ヲ發行セシメ以テ僅ニ市場ノ動亂ヲ鎮定スルコトヲ得タリ若シ斯ル嚴刻ナル檢束ナク必要ノ場合ニ於テハ紙幣増發ヲ許スコトアリシナラハ此條例停止ノ如キ窮策ニ出ルニ及ハサリシナルヘシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ此方法ハ未ダ最良ノ方法ナリト云フヲ得ス更ニ之ヨリ一層進歩シテ巧ニ紙幣發行ヲ屈伸スルヲ得ルモノハ獨逸銀行紙幣發行法則ヲ伸縮制限法ト稱スルモノ是ナリ

### 第三節 最少額準備法

此方法ハ準備ノ最少額ヲ定メテ紙幣發行者ヲシテ常ニ之ヨリ少カラサル正貨ヲ貯藏セシムルノ方法ナリ此ノ如ク常ニ若干ノ最少額ヲ倉庫中ニ貯藏スルノ事タル金融逼迫ノ日ニ方リ請求ニ應シテ正貨ヲ拂出スコトヲ得サラシムルモノニシテ乃チ金融壅塞シ正貨ノ取付甚シキ時ニ於テハ立法政府若クハ行政カ法律ヲ縱マニ停止スルニアラサレハ此方法ヲシテ効能アラシムルコト能ハサ

ルナリ

### 第四節 比例準備法

此方法ハ紙幣發行高ノ若干ノ比例例ヘハ三分ノ一若クハ四分ノ一ヨリ少カラサル正貨準備ヲ貯存スルヲ要スルモノニシテ則チ合衆國ニ於テ國立銀行紙幣ヲ發行スルニツキ用ヅタルモノ是ナリ此方法ハ常ニ多少ノ準備ヲ貯存セシムルモノナルヲ以テ全ク各發行者ノ隨意ニ放任シテ毫モ制限ヲ加ヘサルモノニ比スレハ固ヨリ勝レルモノニシテ銀行家ハ其準備額カ法定ノ制限額ニ觸ル、チ恐レテ法律ニ背カサル様ニ警戒スルノ効アルヘシ然レトモ商業及信用上ノ不穩ノ狀アリテ爲ニ紙幣ノ兌換ヲ請求スルモノ多キヲ加フルニ至リテハ其準備ノ減少スル割合ハ發行高ノ減少スル割合ヨリ多シ爲ニ動モスレハ其法定ノ比例ヲ失シ又兌換ノ請求ニ應スルコト能ハサルニ至ルヘシ例ヘハ茲ニ十萬圓ノ發行紙幣アリテ之ニ對シテ四萬圓ノ準備アル場合ニ於テ二萬圓ノ兌換ノ請求アルトキハ其發行紙幣高ハ減シテ八萬圓トナリ準備二萬圓トナルヘシ而シ



八二  
テ若シ法律ノ所要スル準備ハ發行高ノ四分ノ一トスレハ此ノ餘ノ紙幣ハ一枚  
モ之ヲ兌換スルコト能ハサルヘシ故ニ若シ銀行ノ準備カ減少シテ法定ノ割合  
ニ達スルトキハ最早銀行ハ其準備ヲ使用スルコトヲ得ス敢テ法律ヲ犯スニア  
ラサレハ少シモ兌換ニ應スルコト能ハサルヘシ然レハ此方法ハ此ノ如キ場合  
ニ臨ミテハ恰モ前述ノ最少額準備法ト異ナル所ナク能ク信用ヲ擴張シテ一時  
ノ急ヲ救フコト能ハサルモノナリ實ニ此方法ハ銀行ヲシテ其準備ヲ使用スル  
ノ最モ必要ナルニ際シテ之ヲ使用スルコト能ハサラシムルモノナリ此ノ如ク  
徒ラニ準備ヲ死藏シテ世ノ恐慌ヲ救フ能ハサラシメタリシハ現ニ千八百七十  
三年ニ於テ合衆國ノ實驗シタル所ナリ

### 第五節 發行最高多額制限法

一銀行若シクハ數銀行ヲシテ豫メ發行高ヲ定メシメ其額以內ニ紙幣ヲ發行セ  
シムルヲ許ス方法ハ全ク經濟ノ原理ニ適スルモノ、如シ蓋此法ハ貨幣ノ一部  
分ニ對シ利子ヲ省約シ且便利ナル通貨ヲ供給スルノミナラス此法ニ依リ發行

セラレタル紙幣ハ其高定マリタルニヨリ妄ニ金銀ヲ外國ニ驅逐スル能ハサル  
ノ利アルモノナリイングリシ、パルグレーヴ氏及其他二三ノ人々ハ此方法ヲ攻  
撃シテ右ノ制限ハ全ク不當ニシテ人民ヲシテ貨幣ノ不足ヲ感セシムルモノナ  
リト論スルモ此法ニ依リ制限スル所ハ貨幣ノ額ニアラスシテ其代表物タル紙  
幣ノ額ナルカ故ニ貨幣ヲ要スルコト多キトキハ金銀ヲ増加スレハ足レルモノ  
ニシテ右諸氏ノ云フカ如キ憂アルモノニアラス殊ニ此方法ハ紙幣發行額ヲ制  
限スルカ故ニ利子ヲ省約スルコト甚タ大ナルヲ得サルモ徒ニ金銀多キカ如キ  
感アリテ爲ニ正貨ヲ驅逐スル危險ナキノ利益アリ此方法ハ英國ニ於ケル百七  
十ノ銀行ノ發行法ニシテサー、ロバート、ヒール氏カ千八百四十四年ノ銀行條例  
ヲ制定スルニ方リ其際既ニ紙幣ヲ發行シタル所ノ銀行ニ許スニ其以前十二週  
間ノ發行平均高ヲ以テシ之ニ對シテ準備ヲ置クヲ要セサルモノトシ其所定ノ  
發行額超過スルトキハ平均毎月ノ超過額ニ相當スル罰金ヲ課スルモノトセリ  
此方法ハ此ノ如ク稍鞏固ナルモノナレトモ其紙幣發行高ニ制限アルカ爲ニ世  
ノ信用紊亂スルニ際シ十分ニ自己ノ信用ヲ利用シテ以テ市場ノ急ヲ救フ能ハ



サルノ不便アリ

### 第七節 伸縮制限法

此方法ハ近時獨逸帝國銀行條例ニ於テ紙幣發行ニ關シテ採用セラレタル方法ヲ指稱スルモノナリ紙幣發行ニ關スル獨逸ノ銀行制度ハ英國ノ制度ニ類似シ新設ノ帝國銀行及該條例所定ノ條款ニ準據シタル其他ノ銀行ハ正貨準備ナクシテ總額三億八千五百萬「マーク」ノ紙幣ヲ發行シ得ルモノナリ而シテ其餘ノ發行額ハ同額ノ正貨ヲ準備スルニアラサレハ發行シ得サルモノニシテ恰モ前述ノ分額金銀準備法ト異ナル所ナシ然ルニ英國銀行條例ハ恐慌ヲ防遏スルカ爲ニ數之ヲ停止セサルヲ得サルノ困難アリシヲ以テ獨逸ニ於テハ之ヲ修補シテ五分ノ稅ヲ納ムレハ尙ホ準備外ノ紙幣ヲ發行スルヲ得ルモノトシ巧ニ英法ノ不便ヲ避ケタリ蓋此法ヲ以テスレハ銀行ハ紙幣ヲ増發セントセハ五分ノ稅ヲ拂ハサルヲ得サルカ故ニ妄ニ紙幣ヲ増發スルノ憂ナカルヘク市場大ニ乱レ金融逼迫シ貨幣ノ需要甚シク高利ヲ以テスルモ尙ホ借入ヲ求ムルモ多キニ至ラ

サレハ銀行ハ進テ紙幣ヲ發行スルコトナカルヘシ而シテ右ノ如キ金融市場紊亂シタル場合ニ於テハ銀行ハ世ノ需要ニ應ジ紙幣ヲ増發シ自己ノ信用ヲ以テ社會ノ信用ヲ繼キ得ヘキカ故ニ能ク恐慌ノ危害ヲ避ルノ利益アリテ英國ノ紙幣發行法ニ比スレハ更ニ改良ヲ加ヘタルモノニシテ能ク金融ノ緩急ニ應ジテ發行ヲ伸縮スルヲ得セシメタルハ實ニ奇巧ナリト稱スヘシ故ニ先ツ現時ニ在リテハ此方法ヲ最良ノモノトシ現ニ我邦ノ制度モ之ニ據リ唯我邦ニ於テハ稅率ヲ五分ニ限ラスシテ之ヲ五分以上ニ定メタルハ尙ホ一步ヲ進メタルモノト云フヘシ

### 第八節 證券準備法

紙幣ヲ發行スル銀行カ公債證書大藏省證券又ハ商業手形等ヲ以テ準備トナサハ紙幣ノ兌換ニ付キ不便生セサルカ如ク見ユルモ原來紙幣ハ請求次第直チニ正貨ヲ支拂フヘキ約束證券ナルヲ以テ一朝兌換ノ請求アルトキハ銀行ハ直チニ正貨ヲ支拂ハサルヲ得サルカ故ニ先ツ其準備タル證券ヲ賣却シテ之ヲ正貨



ニ兌換スルノ勞ヲ執ラサルヘカラス而シテ此ノ如ク紙幣兌換ノ請求アルノ日ハ通常正貨ノ缺乏セル時ナルヲ以テ此際銀行カ其準備證券ヲ賣却セントスルニ公衆ノ好ミテ之ヲ買取ルモノナク已ムヲ得ス廉價ヲ以テ之ヲ賣却セサルヘカラス或ハ確實ナル公債證書ノ如キニ至テハ常ニ相當ノ代價ヲ以テ賣却シ得ヘキモ若シ一旦兌換請求ノ多キヲ加フルヨリシテ銀行ニ於テ頻リニ證券ノ賣却ヲ試ムルトキハ其價格ハ低落シ終ニ其倒産ヲ來スニ至ルヘシ要スルニ此方法ハ決シテ鞏固ナル紙幣發行法ト云フヘカラス

### 第九節 不動産抵當法

凡紙幣ノ支拂ヲ保證スルニハ獨リ正貨ノミニ限ラス土地家屋其他ノ不動産ヲ以テ之ニ充ツルヲ得ヘシト論シタルノ學者古來少シトセス彼ノ有名ナルシヨンロー氏ノ如キハ斯ル考案ヲ抱キタルモノニシテ氏ハ土地ヲ抵當トシテ紙幣ヲ發行スヘキコトヲ主張セリ而シテ其之ヲ施行セシ實例ハ佛國革命政府ノ發行シタル「アツシナ」ト稱スル紙幣ニシテ寺院ヨリ沒收シタル土地ヲ抵當トシ

テ之ヲ發行シ此後土地ヲ公衆ニ賣却シ以テ之ヲ引上ンコトヲ謀レリ然ルニ土地ノ代價ハ不定ナリシ故ニ土地ト紙幣トノ間ニ一定ノ比例ナク終ニ土地ハ紙幣ノ下落ヲ防遏スル能ハス是ニ於テカ紙幣ノ價格ハ一時原價ノ二百分一ニ下レリ其後佛國政府ハ又「マングツ」ト稱スル紙幣ヲ發行スルニ當リ該紙幣ヲ以テ土地ノ代價ヲ見積リ之ヲ一定セント謀リシカ其效ヲ奏スルコトナク紙幣ハ下落スルヲ免レサリキ又普魯士ノフレデリック大王カ戰爭ノ爲ニ糜消セラレタル國庫ノ不足ヲ補充スル爲ニ發行シタル土地抵當不換紙幣ナルモノハ其性質前記ノ紙幣ニ類スルモノナリシモ之ハ利子ヲ有セリ  
此方法ハ固ト大ニ不便ナルモノニシテ之ヲ以テ紙幣ノ發行ヲ整理セントスルハ誤レルモノナリ蓋土地ハ久キヲ期シテ紙幣ヲ支拂フ爲ニハ最良ナル抵當ナルコト疑ナク從テ貨幣ノ貸借長期ナルニ於テハ之ヲ抵當トスルハ最モ適當ナルヘキモ紙幣ハ何時ニテモ請求次第直チニ正貨ニ交換スヘキモノナルカ故ニ土地ノ如ク俄ニ正貨ニ變更スルノ困難ナルモノヲ以テ紙幣ノ抵當トナスナラハ銀行ハ兌換ノ要求ニ應シテ直チニ正貨ヲ拂出スコト容易ナラス爲ニ倒産ス



ルノ恐アリ此點ニ於テハ不動産準備ハ公債證書大藏省證券等ノ準備ニ比シテ尙ホ一層其當ヲ得サルモノアリ

又紙幣發行ニ此方法ヲ以テセハ貨幣ヲ増加スルコトヲ得以テ國富ヲ増殖スルノ利アリト説クモノアレトモ是ハ大ナル誤ナリ抑、貨幣ノ増加ハ其價格ノ減少ヲ來シ物價ノ騰貴ヲ招クヲ免レス而シテ一國ニ於テ要スル所ノ通貨ノ高ハ略ホ定レルモノナルカ故ニ若シ土地其他ノ物件ニ兌換スヘキ紙幣ノ高多キニ過クルトキハ必スヤ早晚兌換ノ請求ニ遭ハサルヲ得サルカ故ニ紙幣ノ高多額ナルモ決シテ國民ノ富ヲ増殖スルモノナリト云フヲ得サルナリ

### 第十節 外國爲換法

此方法ハ現世紀ノ初メ英國ノ銀行家社會ニ於テ大ニ勢力ヲ有シタルモノニシテ通貨ハ獨リ外國爲換ノ順逆ヲ以テ整理スヘシト云フニアリ此法ハ紙幣ノ増發ヲ防クニ足ルヘシト雖モ爲換ノ變動ハ種々ノ原因アリテ其順逆ハ必スシモ紙幣ノ多少ニノミ依ルモノニアラス外國爲換我ニ順適ナルモ紙幣或ハ多ニ過

ルコトモアルヘク或ハ我ニ逆戻ナルモ紙幣ノ高超過スルニアラサルコトアルヘキカ故ニ單ニ此法ニ依リテ紙幣ノ發行ヲ調理スルハ得策ニアラサルナリ

### 第十一節 自由發行法

此法ハ毫モ紙幣發行法ニ關シテ制限ヲ設ケス全ク各人ヲシテ請求拂ノ約束證券ヲ隨意ニ發行セシムル方法ナリ此方法ヲ主張スル英米ノ經濟學者ハ之ヲ稱シテ自由銀行法ト云フ然レトモ銀行ハ必スシモ紙幣ヲ發行スルモノニアラス英國ノ如キニ於テハ紙幣ヲ發行セサル銀行多キヲ以テセボンス氏ハ自由銀行法ナル名稱ヲ不穩トシ之ヲ自由發行法ト稱セリ此法ニ依レハ銀行者ハ其發行シタル紙幣ヲ支拂フノ義務ヲ法律上負擔スルノミニシテ其發行ニ對スル準備ニ關シテハ全ク銀行者ノ隨意ニアルモノナリ此方法タル畢竟各人ノ利益ニ放任スルモノニシテ紙幣ヲ増發スルトキハ其價格低落スルノ不利益アルヲ以テ紙幣増發ノ憂ナカラシムルモノナルカ如シト雖モ凡ソ商業ニハ浮沈アリ紙幣支拂ノ請求一時ニ甚タシキヲ加フルコトアルヲ以テ斯カル場合ニ際シ準備金



少ナキニ於テハ銀行者ハ狼狽セサルヲ得ス又諸銀行ノ間ニ競争アルハ通常ノ  
コトニシテ殊ニ倫敦ノ如キニ於テハ激烈ナル競争アルカ故ニ發行ヲ自由ニ放  
任スルトキハ投機競争ノ爲メ増發ヲ招クノ憂アルモノナリ故ニ此方法ハ危險  
ナルモノニシテ紙幣發行ニハ多少ノ制限ヲ加フルコト固ヨリ必要ナリ

### 第十一節 金紙平均法

不換紙幣ハ往々弊害ヲ來スモノナルモ若シ政府全ク之カ發行ヲ掌トリ常ニ金  
ノ價格ニ注意シ若シ金紙ノ間ニ差ヲ生シ紙幣ニ對シテ金貨騰貴スルトキハ其  
發行ヲ減縮セハ能ク不換紙幣ノ弊害ヲ少ナカラシムルコトヲ得ヘシ紙幣ニシ  
テ正貨ト同等ノ價格ヲ以テ流通スル間ハ敢テ兌換紙幣ト異ナルコトナク其效  
用大ニシテ且ツ安全ナルヲ以テ之ヲ減縮スルノ必要アラサルモ若シ其價格正  
貨ノ價格ニ比シテ下落スルトキハ畢竟其供給夥多ナルヲ示スモノナルヲ以テ  
之ヲ引上クルヲ以テ良策トス夫ノ普佛戰爭ノ際佛蘭西銀行ハ此方法ヲ以テ發  
行ヲ整理シタルカ爲メ其發行ニタル不換紙幣ハ此國ノ財政困難ニモ拘ハラス

僅ニ二百分ノ一乃至百分ノ一ノ下落ニ止マレリ此方法ハ能ク紙幣ノ價格ヲ維  
持スルノ力アルヘキモ紙幣久シク流通スルトキハ假令外國爲換ノ我ニ逆フコ  
トアルモ紙幣ノ下落ハ容易ニ現ハレス又外國爲換順逆ナルモ紙幣ノ増發甚タ  
シク其下落ヲ見ルコトアリ故ニ不換紙幣ノ整理ニ關シテハ金紙平均法ハ外國  
貿易法ヲ並用スルヲ最モ適當ナリトス

### 第十二節 租稅支拂法

紙幣ノ價格ヲ維持センカ爲メニ政府ハ或ハ租稅トシテ之ヲ受取ルコトヲ約束  
シ或ハ之ヲ租稅上納ノ爲メニ使用スルコトヲ強制シタル例少ナカラス露國政  
府ハ其紙幣ヲ發行スルニ當リテ一定ノ價格ヲ以テ銅貨ノ代ハリニ之ヲ受取リ  
且ツ租稅上納ノ都度其租稅ハ二十分ノ一ハ必ス紙幣ヲ以テスヘキコトヲ命セ  
リ佛國革命ノ時ニ於ケル「アツシニヤ」紙幣モ亦國庫ニ於テ之ヲ受取レリ此法ニ  
依リ紙幣ヲ發行スルトキハ其紙幣タル租稅上納ノ爲メニ使用セラレ正貨ト異  
ナラサル需要アルヲ以テ其價格ノ不動ヲ維持スルノ良法ナルカ如クシテ若シ



其發行ニ制限ヲ置キ其需要高キ超過セシメサルトキハ敢テ不便ナカルヘキモ  
紙幣ハ其制限ヲ超ヘ増發ヲ爲シ易キモノニシテ遂ニ云フヘカラサル禍害ヲ來  
スモノナルカ故ニ此方法モ亦容易ニ採用スヘカラス

#### 第十四節 後年兌換約束法

革命政府若クハ反逆人等カ資本ノ不足ナルヨリ先ツ證券ヲ發行シ事成ルノ後  
金銀ニテ之ヲ支拂フコトヲ約束スルコトアリ或ハ此證券ニ其期限ニ應シテ利  
子ヲ付スルアリ然ルトキハ其證券ハ之ヲ紙幣ト云ハンヨリハ寧ロ公債證書ト  
看做サ、ルヘカラス嘗テハンガリヤ人コストト氏カ新育ニ於テハンガリヤノ  
公債ヲ募リハンガリヤ政府ノ獨立ヲ得タル後之ヲ支拂ハンコトヲ約シタルカ  
如キハ即チ此方法ヲ取りタルモノナリ又米國ニ於テ南北戰爭ノ際南方同盟國  
ノ發行シタルモノ、如キモ此種類ニ屬スルモノナリ此南方同盟國ニテ發行シ  
タル手形ハ其初メニ發行シタル分ハ南北諸州ノ和睦締結後六箇月ヲ期シテ支  
拂フコトヲ約シタリシカ其後發行シタルモノハ二箇年ヲ期シテ支拂フコト、

セリ

凡ソ此種ノ證券ハ長期限ニシテ且ツ其價格不確實ナル手形ト看做スヘキモノ  
ナルカ故ニ平時ニ於テハ之ヲ發行スルコト能ハサルモ戰爭ノ際人民ノ公共心  
ニ依リテ能ク流通スルコトヲ得且ツ實際軍費等ノ爲メニ通貨ノ必要アルニヨ  
リ一時ハ其價格ヲ保チ通用スルコトヲ得ルモノナレトモ其價格ハ激烈ナル變  
動ヲ受クルコトヲ免カレス斯ノ如キ手形遂ニ満足ニ支拂ハレタル例證ハ極メ  
テ稀ナリ

#### 第十節 不換紙幣

不換紙幣ハ全ク一紙片ニシテ政府之ヲ發行シ法貨トシテ授受セシムルコトヲ  
令スルモノニシテ法律ノ力ニ依リ其價格ヲ有スルモノナリ紙幣ハ之ヲ正貨ニ  
兌換スルコトナキニ於テモ或ハ習慣ニ依リ或ハ人民通貨ヲ要スルモ使用スヘ  
キ正貨ナキニ依リ或ハ人民正貨ヲ有スルモ之ヲ貯藏スルトニ依リ紙幣ハ尙ホ  
盛ンニ流通スルコトヲ得ルコト珍シカラス故ニ不換紙幣ハ若シ巧ニ其高キ制



限シ一國ノ需要點ニ超過セシメサルトキハ其名目價格ヲ維持スルコトヲ得ル  
モノニシテ之ヲ説明スヘキ實例乏シカラス例ヘハ英國ニ於テ千七百九十七年  
正貨支拂停止後數年間ニ於ケル英蘭銀行紙幣ノ如キ又普佛戰爭後佛蘭西銀行  
紙幣ノ如キ皆之ヲ證スルニ足ルモノナリ不換紙幣ハ其弊害多キモ其最モ著シ  
キモノヲ舉クレハ二アリ即チ

第一 増發シ易キコト

第二 彈力ナキコト

紙幣ヲ兌換スルノ義務ヲ法律上除去シタルヨリシテ紙幣ノ増發從ヒテ起リタ  
ルコトハ實ニ普通ノ事實ニシテ古來何レノ國ニ於テモ未タ嘗テ紙幣ノ害毒ヲ  
蒙ラサルモノ殆ント稀ナルカ如シ露國ハ劣惡ナル紙幣ヲ有シタルコト百年以  
上ニ涉リ其間屢勅令ヲ以テ紙幣ノ發行ヲ制限シタルコトアリシモ少シモ其效  
ナク忽ニシテ軍費其他ノ費用ノ爲メ紙幣ノ増發相踵キテ起レリ伊太利塙土利  
合衆國ノ如ク經濟思想進歩シテ巧ニ施政ヲ指導スヘキ諸國ニ於テモ不換紙幣  
ノ害ヲ蒙ルコトヲ免ル、ヲ得ス殊ニ合衆國ノ諸洲カ嘗テ紙幣ノ爲メニ蒙リタ

ル災害ハ最モ甚タシキモノナリウエブスター氏ハ紙幣ノ害ヲ評シテ曰ク紙幣  
ノ爲メニ吾人ノ蒙リタル痛苦ハ總テノ他ノ原因若クハ災疫ヨリ生シタルモノ  
ヨリ甚シク其人衆ヲ殺戮シ邦國ノ利益ヲ損傷シ正義ヲ破壞シタルヤ吾カ敵手  
ノ兵器及ヒ銃砲ノ爲シタル所ニ優レリト

或ハ不換紙幣ノ發行ハ政府財政ノ乏シキ日ニ當リテ人民ヨリ公債ヲ強募スル  
ノ便法ナリト論スルモノアリ固ヨリ政府ニシテ此方法ヲ取ルトキハ容易ニ資  
金ヲ得且ツ之ニ對シテ利息ヲ拂ハス以テ負擔ヲ減縮スルノ利益アルカ如キモ  
一般社會ハ之カ爲メニ弊害ヲ蒙リ紙幣増發ノ爲メ物價ノ騰貴起リ債主ヲ苦シ  
メ負債主ヲ惠ムノ結果ヲ來スヘシ斯ノ如ク債主負債主間ノ契約ニ不都合ヲ生  
セシムルコトハ政府ノ爲メニスヘキ所ニアラサルナリ

紙幣第二ノ弊害ハ即チ紙幣ハ貿易ノ需要ニ應シテ自然ニ其高ヲ増減スル能ハ  
サルコト是ナリ蓋シ紙幣ハ是ヲ外國ニ輸出スルコトヲ得ス又外國ヨリ輸入ス  
ルコトヲ得ス之カ發行及ヒ消却ヲ爲シテ其高ノ増減ヲ掌ルコトヲ得ルモノハ  
獨リ政府若クハ政府ノ許可ヲ受ケタル銀行ノミナルヲ以テ貿易活潑トナリ其



流通高キ増加スルノ必要ナルニ當リテハ獨リ政府ノ命令ヲ俟ツテ始メテ之ヲ行フコトヲ得ヘク而シテ多額ノ紙幣一旦流通シタル後商業委微スルトキハ通過ノ過剩ヲ來シ其價格下落スルニ至ルヘシ此場合ニ於テモ政府亦之ヲ引上ケテ其高キ減縮セサルヘカラス然ルニ如何程聰明ナル政府ニテモ能ク一國通貨ノ需要ノ緩急ヲ判定シテ誤リナク且ツ公平ヲ失スルコトナキヲ得ス左レハ通貨ノ供給ハ恰モ一般ノ物件ノ如ク需要供給ノ法則ニ從ヒテ増減セシメサルヘカラス紙幣ハ實ニ其高ノ増減ニ關シテ自動的ノ力ヲ有セサルノ不便アルモノナリ

紙幣ハ此ノ如キ弊害ヲ有スルノミナラス尙ホ又紙幣ノ増發ハ物價ノ騰貴ヲ來シ投機空商ノ弊ヲ來タシ市場ヲ紊亂シ貸借ノ關係ヲ毀損スル等其弊害枚舉ニ暇アラサルモ若シ其發行ヲ慎ミ之ヲ一國需要點以內ニ止メ置クトキハ決シテ恐ルヘキモノニアラス又國家危急存亡ノ秋ニ於テハ不換紙幣ハ極メテ有用ナルモノニシテ能ク國家ノ將ニ亡ヒントスルヲ維持シ又新國ノ將ニ興ラントスルヲ助クルカ如キニ至リテハ其效用決シテ鮮少ナラサルナリ

## 第十章 信用證券

### 第一節

信用ハ通貨ヲ饒多ナラシメ財産ヲ増殖スル等種々ノ怪力ヲ有スルモノト思惟スルモノアルモ信用ハ決シテ資本ニアラス只資本ヲ運轉スルモノニシテ其支拂ヲ後日ニ期スルモノニ外ナラサルナリ然ラハ信用證券ナルモノハ直チニ之ヲ以テ資本トナスヘカラスシテ只現在支拂フヘキモノヲ後日ニ支拂フヘキヲ表示スルノ要具タリ而シテ其信用ノ多寡ヲ計リ負債ノ現在價格ヲ定ムルニ就テモ五箇ノ事情ヲ詳カニセサルヘカラス則チ

#### 第一 金額

#### 第二 期限ノ長短

#### 第三 支拂ノ確否

#### 第四 其期限間行ハルヘキ利子ノ歩合



第五 其作りタル法律上ノ責任  
右等ノ點ニ付キ種々ノ信用證券相異リテ其交換ヲ簡易ナラシムルノ程度亦等シカラス

### 第二節 銀行紙幣

銀行紙幣ハ銀行カ發行スル約束手形ニシテ其表面ノ金額ヲ要求次第直チニ持參人ニ支拂フヘキモノナリ紙幣ハ正貨ト等シク彼我ノ間ニ移轉スルヲ得ルモノニシテ其所持人ハ正貨ヲ所持スルト異ナル所ナク全ク所有者ハ何時ニテモ直ニ其約束ノ履行ヲ請求シ得ルモノナリ若シ銀行ニシテ其ノ支拂ニ應スル能ハサル場合ニ於テハ銀行ハ固ヨリ其責ヲ免レサルモ其紙幣カ是マテ轉輾シ來タリタル人々ノ間ニ責任ヲ生スルコトナシ故ニ銀行紙幣ハ金屬貨幣ノ如ク負債ヲ整理シテ義務ヲ除去スル爲ニ之ヲ用非得ルモノナリ紙幣ハ利子ヲ有セス且又其最終ノ支拂カ疑シキ場合ノ外ハ割引ヲ以テ之ヲ買取ルコトナシ故ニ紙幣ノ所持人ハ通常正貨ノ所有者ノ如ク之ヲ貯存スルノ意思ナキコト通常ナリ

其目下ノ必要アル高丈ハ手元ニ存シ置キ其他ノ紙幣ハ之ヲ銀行ニ預入ルレハ利子ヲ得且貯存上安全ナルカ故ニ紙幣ハ各人ノ倉庫中ニ保存セラレスシテ常ノ正貨ノ如ク流通スルノ傾向ヲ有スルモノナリ

### 第三節 小切手

小切手ハ銀行ニ宛テタル命令書ニシテ銀行ヲシテ其表面ノ金員ヲ要求次第小切手ノ持參人ニ支拂ハシムルモノナリ小切手ハ又紙幣ノ如ク利子ヲ有セス且人々ノ間ニ自由ニ讓渡サル、モノニシテ其所持人ハ則チ之カ所有者タルモノナリ而シテ之ヲ讓渡スニハ裏書ヲ以テスルモノナリ小切手ハ處ニ依リテハ正貨及ヒ紙幣ノ代リニ用非ラル、主タル流通ノ要具トナルコトアルモ小切手ノ使用ハ明瞭ナル不便アルヲ免レス蓋シ小切手ハ其形狀諸銀行ニ依リテ異ナルカ故ニ各銀行ノ小切手ノ體面ヲ熟知スルコト難ク振出人ノ印章及其信用ノ多少等ヲ逐一調査スルコトハ到底爲シ得ヘカラサルコトニシテ若シ公衆カ十分小切手ノ使用ニ慣レ日々之ヲ授受スルニ於テハ詐欺ヲ行フコト容易ナリ而シ



テ小切手ノ贋造モ之ヲナスコト容易ナルモ敢テ之ヲナスノ必要ナク外ニ尙ホ  
之ニ勝レル奸策ヲ行フコトヲ得則チ銀行ヨリ受取リタル小切手帳へ其預金高  
ニ超過セル金額ヲ記入シ之ヲ流通セシムルコトヲ得故ニ此等ノ小切手ヲ受取  
ルモノハ詐欺若クハ振出人ノ破産ニ遭フノ危険ニ陥ルノ恐アルモノナリ加之  
ナラス小切手ヲ宛テタル銀行ニ於テ破産スルノ憂アリ銀行カ破産スルトキハ  
手形ノ所持人ハ手形ヲ受取リタル翌日銀行執務時間中其支拂ヲ請求スルニア  
ラサレハ振出人ニ對シテ支拂ヲ請求スルヲ得ス畢竟此ノ如キ制限ヲ設クル所  
以ハ銀行カ破産スルトキハ振出人ハ其小切手ノ支拂ニ供スヘキ預金ヲ失フ然  
ルニ尙ホ所持人ノ懈怠ヨリシテ損失ヲ受クヘキニアラサレハナリ此規定ハ英  
國ニ於テ小切手ヲシテ正貨ノ代リニ流通セシメス其發行後速ニ銀行ニ持參セ  
シムルノ效能アリ故ニ小切手ハ只貨幣ヲ移轉スルノ要具タルニ過スシテ長期  
ノ信用ヲ付スルモノニアラス又小切手ハ利子ヲ生セサルカ故ニ久シク之ヲ所  
持スルモ利益ナク且之ヲ以テ正貨若クハ紙幣ニ交換セント欲セハ只銀行ニ赴  
クノ勞アルノミニシテ正貨及紙幣ハ等シク利子ノ附加セサルモノナルモ小切

手ヨリ安全ナルモノナルカ故ニ通常小切手ヲ貯藏スルノ愚ヲナスモノ之アラ  
ス小切手ノ所有者ハ其小切手ヲ銀行ニ預ケ其金高ヲ預金トスルトキハ多少ノ  
利子ヲ受クルコトヲ得ルカ故ニ之ヲ銀行ニ預入ル、コト得策ナリ  
小切手ニハ數多ノ種類アリ其重ナルモノ左ノ如シ  
銀行小切手トハ一銀行カ他ノ銀行ニ宛テタル者ニシテ回金ノ手段トシテ使用  
スルモノナリ而シテ斯ク小切手ヲ使用スル雙方ノ銀行カ何レモ信用ヲ有スル  
モノナルトキハ右ノ如キ小切手ハ銀行紙幣ト同様ニ流通スルコトヲ得ヘシ故  
ニ此種ノ小切手カ盛ンニ發行セラル、トキハ彼ノ紙幣發行ヲ制限スル法律ヲ  
シテ無用ニ歸セシムルノ恐アリ然レトモ幸ニ英國ノ如キニ於テハ習慣ノ勢力  
若クハ法律ニ對スル尊敬心ノ厚キヨリシテ未タ此ノ如キ計畫ヲナセシモノ之  
アラス銀行小切手ハ他ノ小切手ノ如キ迅速ニ正貨ニ引換ヘラル、コト通常ナ  
リ  
保證小切手ハニユーヨークニ於テ用ヒラ、モノニシテ尙ホ一層銀行小切手ニ  
類似スルモノナリ此小切手ハ宛テラレタル銀行ノ證印ヲ要シ請求ニ應シテ必



ス支拂フヘキコトヲ該銀行カ保證スルモノナリ銀行カ此類ノ小切手ヲ證明スルニ當リテハ其手形ニ應スヘキ振出人ノ預金ナ有スルカ若クハ預金ナクトモ必ス其小切手ノ支拂ニ應スヘキコトヲ保證スルモノナリ

#### 第四節 爲換手形

爲換手形ハ被宛人ヲシテ其表面ニ記載セル時日ニ於テ正當ナル所持人ニ金員ヲ支拂ハシムル所ノ命令書ナリ而シテ其請求拂ノモノナルトキハ小切手ト異ナル所ナク只爲換手形ハ銀行ヨリ信用少キ箇人ニ宛テタルコトヲ通常トナスノ差アルノミ又請求拂ナラスシテ期限拂ナルトキハ發行ノ日ト支拂ノ日トノ間ニ若干ノ時日アリテ其時日間ハ貨幣ヲ請求スルヲ得サルカ故ニ此種ノ手形ハ通常利子ナ有シ若シクハ其期限マテノ利子ヲ見積リ割引ヲ以テ賣買セラル、モノナリ且此手形ハ之ヲ持參人ニ支拂フコトアルモ特定セル人ニ支拂フコト通常ナリ又裏書ヲ以テ更ニ他ノ特定人ニ讓渡シ得ルモノナリ而シテ此ノ如ク彼我ノ間ニ移轉スルニ當リ終ニ正當ニ支拂ハル、ニ至ルマテハ之ニ關係シ

タル人々ハ多少ノ責任アルヲ免レス然レハ爲換手形ハ正貨ト異ナルコト明カニシテ正貨ハ利子ナ有セス且負債支拂ノ爲ニ引渡サル、トキハ責任ヲ除去スルモノニシテ決シテ責任ヲ存スルコトナキモ爲換手形ハ之ニ反スルモノナリ右ニ列舉シタル諸種ノ信用證券ハ皆正貨ヲ省約スルノ要具ニシテ其金融ヲ幫助スルコト莫大ニシテ實ニ驚クヘキモノナリ則チ小切手ノ如キハ歐洲諸國ニ於テ盛ニ用サラル、所ニシテ諸般ノ支拂ニ之ヲ用非殆ト正貨ノ使用ナクシテ巨額ノ取引ヲ結了スルヲ得ルコト交換所ノ有様ヲ見ルモ明カナリ又爲換手形ハ内國手形ト外國手形ノ別アリテ何レニセヨ正貨ノ使用ヲ省クハ勿論些少ノ資本ヲ以テ大ナル生産分配ノ事業ヲ行フヲ得セシメ又巨額ノ正貨ヲ内外國ノ間ニ運轉セスシテ僅ニ一片ノ紙ヲ以テ外國取引ヲ完クスルヲ得セシムルモノナリ

以上余輩ハ主トシテゼボンズ氏ノ貨幣論ニ依リ金屬貨幣紙幣及信用證券等ヲ説キ畢リタリ尙ホ此他原書ニ依レハ交換所制度小切手銀行外國爲換手形英蘭銀行及貨幣市場等講究スヘキ件少ナカラスト雖モ今ヤ學期盡キ期日ナ



キヲ以テ更ニ講述スルコトヲ得ス加之ナラズ右ニ列記シタル交換所其他ノ  
諸件ハ尙ホ銀行論爲換論金融論等ニ於テ詳説スヘキモノニシテ幣論ノ主  
要ナル部分ハ概テ上述シタル所ヲ以テ足レリト信スルヲ以テ余ハ先ツ貨幣  
論講義ヲ此ニ止メ置カントス

貨幣論終

日本古代通貨論

明治二十一年二月六日(出版) 上野 調

文學士 濱田健次郎講述

本論ハ拙著日本古代通貨考ニ據リ本邦古代ノ通貨ハ稻米ナリシ事ヲ  
畧述シタルモノナリ但シ茲ニハ其要領ヲノミ摘述スルカ故ニ尙ホ其  
詳細ナル諸點ヲ知ラント欲スル諸君ハ願クハ本書ニ就キテ研究アリ  
タシ

元明天皇和銅四年十月甲子詔曰夫錢之爲用所以通財貨易有無也ト夫レ通貨ノ  
人世ニ功用アル實ニ比スルニ物ナキナリ凡ソ人類ノ尙ホ其文明ノ最下級ニ在  
リテ蠢爾混沌未タ分業ノ法ヲ知ラサル時ニ於テハ其間ニ物貨交易ノ事興ラヌ  
物貨交易ノ事興ラサルカ故ニ未タ通貨ノ要アラサルナリ然リ而シテ已ニ分業



行ハレ交易興レル所ノ社會ニ於テハ未タ嘗テ通貨アラサルヲ得サルナリ  
抑、物貨ノ直ニ相交易セラル、ヤ彼レ我カ欲スル所ニシテ彼レ自ラ欲セサル物  
ヲ有シ而シテ我レ彼レニ用アリテ我レニ用ナキ物ヲ待ツノ時ニ於テノミ始テ  
能ク之ヲ爲スヲ得ルモノナリ然レトモ彼我同時ニ此ノ如キ位置ニ在ルヤ實ニ  
百會一遇ト云ハサルヲ得ス人民若シ常ニ此ノ如キ稀遇ニノミ依頼セハ何ソ能  
ク物貨交易ノ目的ヲ濟スルヲ得ソ是ニ於テカ其間ニ人民互ニ普ク取用シテ物  
貨交易ノ媒ト成ルモノ出テ來ル是レ即チ通貨ナリ若シ今日ニ在リテ此通貨ナ  
カラシメハ吾人ハ一日モ其生ヲ濟シ其業ヲ就スコト能ハサルナリ彼ノ貨幣學  
論ヲ以テ有名ナル佛國ノ大家シヴァリエー氏嘗テ通貨ノ功用ヲ説キテ曰ク凡  
ソ世ニ存シテ人間ノ煩勞ヲ省クモノ其數實ニ百千箇ノミナラスト雖モ而カモ  
其便其用未タ能ク通貨ニ過クルモノハアラサルナリト旨言ト謂フヘシ  
夫レ通貨ノ用タル能ク天下ニ普行シテ以テ貨物交換ノ難澁ヲ醫スルニアリ漢  
土ニテハ禹周ノ時錢貨ヲ命シテ泉ト云フ史記平準書ノ索隱ニ錢本名泉言貨  
之流如泉也ト云ヒ周禮天官ニ外府掌布之出入註云布泉也取名于水泉流行無不

徧也ト云ヘリ實ニ通貨ニ泉ノ名アルハ其天下ニ周布シテ民用ヲ潤澤スルコト  
猶ホ泉川ノ如シト云フニ取レルナリ(按スルニ漢以來泉ヲ轉シテ錢ト云ヘルモ  
ノ、如シ穗井田忠友ノ中外錢史ニ前畧假ニ泉字ヲ換ヘタル者ノ如シ王莽居攝  
二年大泉五十錢ヲ作り前未曾テ泉字アラサル所也蓋王莽ノ新意ナリト云ヘル  
ハ是レ錢ヲ前トシ泉ヲ後トスルモノニシテ大ナル杜撰謬説ニテ取ルニ足ラス  
周禮地官ニ泉府ノ稱アリ又周景王二十一年ニ寶貨ト大泉五十ノ二幣ヲ鑄タル  
コトアリ豈ニ王莽以前泉ノ字ヲ用ヒタルコトナシト云ハンヤ彼ノ王莽ノ泉布  
二十一品ハ漢制ヲ廢シテ周ノ遺法ヲ復用シタルノミ決シテ王莽ノ新意ナリト  
云フヘカラサルナリ)  
又晋ノ魯褒錢神論ヲ著シテ無翼而飛無足而走ト言ヒシヨリ錢ニ料足用脚ノ異  
名アリ即チ天下ニ普行スルノ謂ニ外ナラサルナリ自蟾集雲遊ノ歌ニ初到家山  
辞肉骨腰下有錢三百足ト見ヘタリ是レ我俗婦女子等カ通貨ヲ呼ヒテアシト云  
フニ同シ  
又英語ニテ通貨ヲ Currency ト云ヒ伊語ニ之ヲ Correntia ト呼フ是レ羅甸語ノ Currans



ナル詞ヨリ轉成セルモノニシテ即チ亦流泉ノ謂ナリ此ノ如ク洋ノ東西ニ於テ  
通貨ニ命スルニ同シク流泉ノ意義ナル詞ヲ以テスルコト恰モ符節ヲ合スモノ  
、如キ豈ニ復タ奇ナラスヤ  
然リ而シテ今日ニ在リテハ我カ日本ハ言フモ更ナリ洋ノ東、洋ノ西、苟モ文物備  
リ百貨具ルノ諸邦ニ於テハ金銀銅ノ三金屬ヲ以テ其通貨トセサルハナシ是ヲ  
以テ世人或ハ通貨トダニ言ヘハ即チ金屬通貨ニ外ナラサルモノ、如ク思フニ  
至レリ今日ノ事實ヨリシテ之ヲ見レハ斯ノ如キ思アルモ固ヨリ謂ハレナキニ  
アラスト雖モ今退キテ此等諸文明國ノ古代ヲ考フルニ各自皆其時其土ニ應シ  
テ種々ノ物品ヲ以テ通貨ト爲シタルヲ見ルノミナラス今日ト雖モ未開ノ諸邦  
ニ於テハ今尙ホ然ルヲ見ルモノニシテ通貨ハ決シテ金屬通貨ニ限ルモノニア  
ラサルナリ  
夫レ通貨タルモノハ其物ノ何タルヲ問ハス苟モ社會ニ普行シテ以テ能ク物貨  
交換ノ媒ト成ルニ適スルトキハ即チ可ナリ約言セハ通貨ノ通貨タルハ其物ニ  
存セスシテ其用ニ在ルモノナリ抑人間社會ニハ其文化自ラ級度アリ其文化ノ

級度ニ從ヒテ其風俗需用自ラ異ナリ其風俗需用相異ナルニ依リ其間ニ通貨ト  
シテ行ハル、物モ亦相同シカラス是レ皆自然進化ノ作用ニ因レルモノニシテ  
毫モ怪シムニ足ラサルナリ請フ左ニ少シク金銀銅等ノ金屬ノ外種々ノ物品ノ  
通貨トシテ行ハレタル實例ヲ舉ケン  
狩獵ヲ以テ專業トスル人民ノ間ニ於テハ自ラ野獸ノ皮ヲ以テ通貨トセリ例ヘ  
ハ古代<sup>シ</sup>、ヤンス<sup>ア</sup>、アメリカ、インデアンス<sup>等</sup>ノ如キ是レナリ殊ニ寒帶地方ニ於  
テハ獸皮ヲ以テ通貨トスル事最モ盛ニ行ハレ北米ハドソン<sup>港</sup>近傍ニ於テハ現  
今尙ホ海狸ノ毛皮ヲ以テ通貨トス又彼ノ<sup>エツソ</sup>ニヤン<sup>語</sup>ニテ<sup>ラハ</sup>ナル詞ハ尋  
常通貨ノ謂ナリ而シテ其同種族ナル<sup>ラビシヤ</sup>語ニテハ今日ニ於テモ此<sup>ラハ</sup>ナル  
詞ヲ依然其原義ナル毛皮又單ニ皮ト云フコトニ用フ又露西亞ニ於テモ皮貨ノ  
中世ニ至ルマテ廣ク用ヒラレタルコトハ同國ノ史乘ニ歷然タリ  
又牧畜ヲ以テ專業トスル所ノ社會ニ在リテハ直ニ生畜ヲ以テ尋常其通貨トセ  
リ例ヘハ昔時希臘國ニ於テ生畜ノ通貨タリシト思ハル、ノ證ハ同國高名ノ詩  
人ホーマー氏ノ句中往々物價ヲ言顯スニ牛頭ノ多寡ヲ以テセリ即チダイヲメ



ツトノ甲冑ハ其價僅ニ九牛而シテグロウカスノ甲冑ハ其價百牛ナリト云ヘル  
カ如キ是レナリ又羅甸語ニテPecuniaト云フハ即チ錢貨ノ謂ナリ而シテ此語ハ元  
來Pecusト云フ生畜ノ謂ナル語ヨリ轉成セルモノナリ又英語ニテFeeトハ通常  
料錢ノ謂ナルカ元ト此語ハ「アングロ、サクソン」語ノFionヨリ轉成セルモノナリ  
而シテ此語ト同原語ナルDienナル獨逸語ハ今尙ホ依然トシテ其本義生畜ノ意  
義ノミチ固存セリ而シテ古代獨逸人ノ間ニ於テ生畜ヲ以テ其通貨トセシコト  
ノ證ハ同國法ニ總テ贖罪ノ料トシテ牛畜ヲ課セルコトニテ之ヲ知ルヘシ今又  
翻リテ農業專行ノ社會ニ於ケル通貨ヲ研究スルニ其農產物ヲ以テ其間ノ通貨  
ト爲スモノ多キヲ見ル例ヘハ歐洲ノ邊陲地方ニ至リテハ古代希臘ノ時ヨリ方  
今ニ及フマテ麥穀ヲ以テ其通貨トシテ其利子ヲ取ルモノナリ又中央亞米利加殊  
ノ如クシ之ヲ銀行ニ預ケ又貸借シテ其利子ヲ取ルモノナリ又中央亞米利加殊  
ニ墨西其ニ於テハ嘗テ蜀黍ノ類ヲ以テ通貨トシ地中海ニ濱スル諸邦ニ於テハ  
其土中重要ナル柑欖油ヲ以テ之レニ充テ又中央亞米利加及ヒユカタン地方ニ  
テハ椰子果ヲ通貨トシ北米ノヴァージニアニテハ煙草ヲ用ヒ又コロマンテ海

岸(印度東南端ノ海岸ノ總稱ナリ)ニ於テハ稻米ヲ以テ通貨トスル等はレナリス  
ノ如ク通貨トシテ用ヒラル、物品ハ其種類々ナリト雖モ而カモ其通貨ト成ル  
情性ニ至リテハ全ク同一ナルモノナリ獨逸國有名ノ理財學博士ロツシエル氏  
曰ク凡ソ通貨トシテ社會ニ行ハレタルモノヲ見ルニ時ト所トニ從ヒテ其物種  
々一ナラスト雖モ而カモ其社會一般ノ可認スル所ノ理財的ノ比價(即チ物貨ヲ  
賣買スルノ力ヲ云フ)ヲ有スルノ點ニ至リテハ古今萬國皆同一ナリ今概シテ之  
ヲ言フトキハ人間社會ノ尙ホ其開化ノ下級ニ位スルノ間ニ於テハ主トシテ當  
時其社會一般ノ必需ヲ充タスニ適宜ナル普通品ヲ以テ其間ノ通貨トスルヲ見  
ル而シテ漸ク其開化ノ進歩スルニ從ヒテ漸ク珍貴ナル物品ニシテ且ツ其稍高  
尙緻密ナル目的ヲ達スルニ適當ナルモノヲ用フルニ至ルモノナリト  
夫レ獸皮ノ通貨トシテ狩獵社會ニ行ハレ生畜ノ牧畜社會ニ用ヒラレタル皆其  
時ニ應シ其需ニ適シタレハナリ抑、狩獵社會ニ於テハ野獸ノ外別ニ物産アラサ  
ルナリ其食物トスル所ハ即チ野獸ノ肉ナリ其衣服トスル所ハ即チ野獸ノ皮ナ  
リ而シテ其肉ハ腐敗シ易キカ爲メニ之ヲ貯蓄シテ以テ他日ノ用ニ供スルコト



能ハサルモ其皮ハ能ク久シキニ堪フルヲ以テ之ヲ貯蓄シテ或ハ自家ノ用ニ充テ或ハ他人ノ物ト交換スルヲ得ルヲ以テ自ラ狩獵社會ノ通貨ト成リシナリ又生畜ノ牧畜社會ニ於ケルモ亦同理ニ出テタリ即チ生畜ハ其社會一ノ物産ニシテ其乳飲ムヘク其肉食フヘク其毛織ルヘク其皮衣ルヘキノミナラス人ヲ載セ物ヲ負フ等當時人民彼我ノ要一トシテ生畜ニ頼ラサルハナシ是ノ如ク一般社會ノ需用ニ適當セルヲ以テ自ラ生畜ヲ以テ其間ノ通貨トスルニ至リタルモノナリ(當時生民未タ多カラス至ル所トシテ沙漠タル郊野ニアラサルハナシ故ヲ以テ生畜ヲ養フノ用料ハ實ニ無盡藏ト謂フヘシ是ヲ以テ生畜通貨ヲ貯フル費用困難ヲ覺エサルナリ且ツ生畜通貨ハ一人ノ之ヲ導引スル者アレハ能ク自ラ遠ニ致シテ別ニ數多ノ人力ヲ費シテ之ヲ運致スルノ要ナシ是レ運輸ノ便開ケサルノ社會ニ在リテハ實ニ便宜ナル通貨ト謂フヘキナリ)又古今農業社會ニ於テ其便宜ニ從ヒ時需ニ應シテ種々ノ農産物ノ通貨トシテ行ハレタルノ條件ノ如キモ亦前舉ノ場合ニ異ナラサルナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ東西古今ノ通貨タル物品ハ時ト所トニ從ヒテ種々一ナラスト雖モ而カモ其通貨トシテ用ヒラ

ル、ハ其土ニ最モ多ク産シ且ツ其地ノ人民ノ普ク需用スル所ノ物タルノ事實ニ至リテハ皆同一轍ニ出テタルヲ知ル

今此理ヲ推シテ以テ我カ日本古代ニ於テハ如何ナル物ヲ通貨トシテ用ヒシカヲ研究スルニ余ハ本邦主要産品タル稻米ヲ以テ一般賣買ノ媒介物即チ通貨トセシモノナルヲ發見セリ夫レ古代ニ在リテハ制度未タ整ハス文獻足ラサルカ故ニ或ハ漫然之ヲ觀レハ恰モ定マレル通貨ハナカリシカ如クナレトモ學理ヲ推シ史實ヲ究ムルニ稻米ノ當時其間ニ專ラ通貨トシテ行ハレタルノ事蹟ハ彰々乎トシテ復タ疑フヘカラサルモノアリ又布帛ノ類ノ如キモ漸ク後ニ至リテハ稻米ト併セ用ヒラレテ之ヲ補助シタルモノナルヘケレトモ未タ嘗テ稻米通貨ノ如ク普行セサリシモノ、如シ而シテ金屬通貨即チ金銀銅三貨ノ如キハ甚タ後ニ至リテ始テ能ク通貨トナリシモノナリ

夫レ本邦古代ニ在リテハ稻米布帛ノ類ヲ以テ物貨ヲ交換シタル事ハ先哲中或ハ早ク之ヲ言ヒタル者アリ然リト雖モ余カ管見ニ據レハ未タ嘗テ稻米ヲ以テ古代ノ通貨ナリ貨幣ナリト論シタル者アラサルノミナラス或ハ金銀銅等ノ金



屬貨幣ノ始ヲ以テ本邦通貨ノ始ト爲シ金屬通貨ノ行ハレサリシ時代ニハ通貨  
ハナキモノ、如キ見ヲ爲ス者往々アリ是レ蓋シ未タ能ク通貨ノ何タルヲ明知  
セサルノ致ス所ナリ前ニ畧述セル如ク通貨ハ決シテ金屬ニ限レルモノニアラ  
サルナリ金屬通貨ハ固ヨリ通貨ノ最モ便用ナルモノタルハ論ヲ俟タスト雖モ  
金屬通貨ナキヲ以テ即チ全ク通貨ナシト謂フヘカラス是ヲ以テ余ハ今左ニ日  
本古代ノ通貨ハ稻米ニシテ金屬通貨ノ如キハ其始テ出テ來リシヨリ許多ノ歲  
月ヲ經過シテ後漸ク通貨トシテ普ク物貨交換ノ媒介ト成ルヲ得タリシ事ヲ論  
明セントス

横山由清氏ハ其著述ニ係ル本邦政治沿革史並ニ日本上古賣買起原及ヒ貨幣度  
量權衡考ニ於テ論シテ曰ク前畧此ノ如ク金銀珠玉ハ衆人必需ノ物ニアラサル  
カ故ニ以テ一般ノ通貨トスルニ足ラスシテ布帛ヲ需用スル人ノ多キニ如カサ  
リシヲ知ルヘシ故ニ大率布帛ヲ以テ交易ノ用ニ供シ以テ其價值ヲ定ム即チ布  
若干ヲ以テ穀若干ニ易ヘ絹若干ヲ以テ馬牛若干ニ易フルノ類ナリ

横山氏ハ博學達識ヲ以テ世ニ鳴リ殊ニ本邦古今ノ制度ニ明ナリシ名家ナリ其  
論スル所決シテ輕忽ニ是非スヘキニアラスト雖モ此一段ハ余輩少シク不満足  
ノ思ナキ能ハス尤モ氏カ金銀珠玉ハ古代人民ノ需用ニ適セサリシカ爲メニ未  
タ當時通貨ト成リ得サリシト云ハレシハ實ニ能ク其所ヲ得タルノ說ナレトモ  
氏カ布帛ヲ以テ專ラ其間ノ通貨ノ如ク論セラル、ニ至リテハ余輩敢テ抗言セ  
サルヲ得サルナリ勿論余輩ト雖モ布帛ハ全ク行ハレサリシナリト云フニハア  
ラス然レトモ專ラ其間ニ通貨トシテ廣ク使用セラレシハ布帛ニアラスシテ稻  
米ナリト爲ス者ナリ左ニ其理其實ヲ舉ケテ之ヲ證明セン  
○前段ニ引證セル彼ノロスシエル氏ノ言ニモ文化未タ洽カラサル間ニ於テ其  
通貨トナルモノハ概テ皆其社會需用ノ最モ普廣ナル貨物ナリトアルカ如ク横  
山氏モ亦其金銀珠玉ノ通貨トナラサリシハ其需用普カラサル事ニ原因ストハ  
是レ自ラ許サレタル所ナリ今稻米ト布帛ト當時其需用孰レカ最モ普廣ナリシ  
カト考フルニ布帛ノ需用ハ遠ク稻米ニ及ハサリシヤ明瞭ナリ夫レ衣食ノ二ツ  
ハ實ニ人世ノ必要物ナリ然リト雖モ衣服ハ一度之ヲ製爲スルトモ稍久シキニ



堪フルヲ以テ屢布帛ヲ要セス故ニ其需用自ラ緩漫ナリ而シテ食物ハ日々之ヲ消費シ去ルヲ以テ絶エス稻米ノ供給ヲ要ス故ニ其需用急切ナリ是ヲ以テ稻米ノ需用ハ遠ク布帛ニ過キタルノ理ヲ知ルヘシ是レ稻米ノ自ラ能ク古代ニ於テ物貨交換ノ媒介即チ通貨トナルニ適當シタル所以ノ一ナリ

○本邦古代ノ人民ハ何ヲ以テ其業ト爲シ、カト云フニ或ハ工或ハ商等モアリシナリト雖モ概シテ之ヲ言フトキハ全ク農ナリト云フモ決シテ過言ニアラサルナリ然リ而シテ其農業中ニ於テ稻米ノ作事最モ盛ニシテ當時ノ農業ハ全ク稻米ノ耕作ニ從事セシモノナリト云フモ敢テ不可ナキモノ、如シ是レ本邦風土ノ最モ能ク水田ニ適シタレハナリ今和名類聚抄ニ載セタル本邦各國ノ田地ノ町數ヲ先年我カ大藏省ニ於テ編纂セラレタル大日本租稅史ニ於テ合算セラレタル數ニ依ルニ大約八十六萬二千七百九十六町八段三百三十九步ナリ而シテ令義解ニ段地穫稻五十束、束稻春得米五升也即於町者須得五百束也ト云ヘルニ從ヒテ彼ノ和名抄所載ノ町數ヨリ穫取シ得ヘキ概數ヲ計算スルニ凡ソ四億三千一百二十九萬八千束即チ春米二千一百五十六萬九千九百斛ナリ(今計算ノ

煩チ省カンカ爲メニ町ノ數位マテ取レルナリ)當時一般農業進歩ノ景況ニ比シテ其稻作ノ盛大ナリシコトヲ想見スヘシ此ノ如ク古代人民ハ農ヲ以テ其專業トシ而シテ其農産中稻米殆ト其全地ヲ占メタル勢ナリシモノナリ是レ稻米ノ自ラ能ク其間ノ通貨トナルニ適當シタル所以ノ二ナリ

○英國法學博士ヘンリ、メイソ、氏カ古代ノ東洋諸帝國ハ其政本租稅徵收ニアリト評シタルカ如ク日本ノ古代ニ於テモ租稅ノ事最モ重要ニシテ民ノ政府ニ盡スノ義務中租稅ヲ納ムル事亦最モ重大ナリ然リ而シテ人民カ租稅トシテ政府ニ納ムルモノハ固ヨリ租庸調ノ三ツアリト雖モ其三者ノ中ニテ租ノ最モ重要ナルコトハ世人ノ能ク知了スル所ナリ而シテ此租ナルモノハ何ヲ以テ之ニ充ツルカト云フニ全ク稻米ヲ以テスルモノナリ今令義解ニ凡田長卅步廣十二步爲段十段爲町(謂段地穫稻五十束、束稻春得米五升也即於町者須得五百束也)段租稻(謂田賦爲租也)二束一把町租稻二十二束トアルニ依ルトキハ一反地ノ得米二斛五升ト見テ其内一斗一升ヲ地租トシテ上納スルモノナリ故ニ此數ヲ彼ノ和名抄所載ノ町段ノ總數ニ乘スルトキハ即チ全國租稅ノ總高トシテ九十四萬



九千零七十六斛四斗八升ヲ得ルモノナリ(小中村清矩先生曰ク令ノ一升ハ所謂減大升ナレハ今ノ四合〇五八餘ニ當ルナリ云々)此ノ如ク人民ハ每歲此巨大ナル稻米ノ額ヲ必ス政府ニ上納セサルヲ得スト雖モ地性ニ由リテハ或ハ同年ニアリテモ豊凶ヲ異ニスルノ地ナキヲ保セサルナリ是ニ於テカ人民ノ間ニ互ニ稻米貸借ノ事起ル是レ稻米ノ能ク自ラ其間ノ通貨トナルニ適當シタル所以ノ三ナリ

○布帛ハ之ヲ輸送運搬スルニ際シテ其輕便ナルコト遠ク稻米ニ超エタリト雖モ而カモ之ヲ以テ通貨トシテ使用スルトキハ物貨ノ價直ニ應シテ之ヲ分割裁斷セサルヲ得ス此點ニ至リテハ布帛ノ用ノ甚タ不便ナルヲ見ル夫レ人々ノ布帛ヲ以テ衣服ヲ製スルニハ其身ノ長短肥瘠ニ從ヒテ裁斷ノ寸尺ヲ異ニセサルヲ得ス然ルニ若シ物貨交換ノ際時價ニ從ヒテ一度布帛ヲ裁斷使用セハ其之ヲ衣服ニ製爲スルニ用フヘカラサルノミナラス亦之ヲ以テ更ニ他ノ物貨ニ交換セント欲スルモ其價時ニ偶同一ニアラサレハ自由ニ之ヲ使用スヘカラス此ノ如キ物品ハ時價同一ナラサル種々ノ物貨ヲ賣買交易センカ爲メノ通貨ト爲ス

ニ大ニ適當セサルナリ然ルニ今稻米ヲ以テ通貨トスルトキハ實ニ能ク此用ヲ濟スコトヲ得ルモノナリ乃チ合シテハ幾千百石ノ大價ヲモ爲スヘク又分チテハ勺撮ノ小價ニモ使用シ得ヘクシテ集合分割其時要ニ應シテ最モ自由便益ナリ豈ニ能ク通貨ノ通貨タルヲ得タルモノニアラスヤ是レ稻米ノ自ラ能ク其間ノ通貨トナルニ適シタル所以ノ四ナリ

○布帛ハ當時僅ニ家々婦女子ノ内職ノ如クニ紡績製出セルモノニシテ概チ皆調庸ノ貢料ト貸家ノ用料トニ供センカ爲メノミニシテ今日ニ於ケルカ如ク廣ク外ニ輸シテ賣買商業ノ爲メニスルモノニハアラサルナリ是ヲ以テ其製法ノ厚薄廣狹ノ一樣普通ナラサルノミナラス大ニ人好ニ依リ土習ニ從ヒテ其需用供給共ニ普通汎同ナルコトヲ得サルヘシ(勿論朝廷ニ納ムル調布ノ如キハ法律ヲ以テ制定セラレタル長短厚狹ノ度アリト雖モ其民間使用ノモノニ至リテハ一定セサリシヤ知ルヘキナリ)

此ノ如キ物貨ハ以テ民間普通ノ通貨ト爲スニ適セサルナリ然ルニ稻米ハ其產出各地到ル所トシテ之ナキコトアラサルノミナラス其性質ノ如キモ細カニ之



ナ吟味セハ其土質氣候ニ從ヒテ同一ナラサルヘシト雖モ概シテ之ヲ謂フトキハ尋常各地ノ産ニ於テ著大ナル差違ナキモノナリ且ツ又之ヲ使用スル人民モ通常其產地ノ如何ヲ問ハスシテ之ヲ消費スルモノナリ故ニ稻米ノ需用供給ノ布帛ヨリモ大ニ普通汎同ナルコトヲ得タリ是レ稻米ノ自ラ能ク其間ノ通貨トナルニ適シタル所以ノ五ナリ

○又稻米ノ自由ニ分合スヘキ性質ト其人生必需ノ最要ナルモノナルトニ依リ之ヲ以テ日々使用スル勞役人ノ酬賃トシテ支辨スルニ便且ツ利アリ是レ亦稻米ノ自ラ能ク其間ノ通貨トナルニ適當シタル所以ノ六ナリ

以上六件ノ外ニ尙ホ能ク考思セハ言フヘキコト多クアルヘケレトモ余ハ是等ノ六件ヲ以テ畧充分ニ稻米ハ布帛ヨリモ遙ニ能ク當時ノ通貨トナルニ適シタル所以ノ要理ヲ見ルニ足レリト信スルヲ以テ今ヨリ少シク進ミテ此稻米通貨ノ古代民間ニ普ク流行セシ實證ヲ舉ゲントス

凡ッ洋ノ東西ヲ問ハス何ノ國ニ於テモ其古代ノ事實ヲ知ラント欲スルトキハ當時史モナク文モナキヲ以テ言語ニ依ルニアラサレハ他ニ之ヲ研究スルニ由

ナキナリ實ニ言語ハ古事ヲ知ルノ妙法ナリト言フヘキナリ是ヲ以テ今言語上ヨリ我カ國古代ノ通貨ノ如何ナリシカヲ考フルニ其通貨ハ稻米ナリシコト最モ明確ナリ即チ價直ヲ顯スノ言葉ハ皆稻米ニ緣故アルモノナリ價直ヲ私語ニ阿多比ト言ヒ俗ニ稱ト云ヒ亦稱字知ト呼フ等皆古語ノ遺レルモノニシテ共ニ稻米ニ緣ミアリ夫レ稻ノ和訓ヲ以稱ト呼フ以稱ノ以ハ發語ニシテ其本語ハ即チ稱ノ一言ナリ(又早稻之ヲ和世ト云ヒ晚稻之ヲ於久天ト名ク其世ト言ヒ天ト名ク共ニ稱ナル語ノ轉シタルモノナリトス)而シテ今價直ヲ稱ト呼フハ是レ即チ稻ノ謂ニシテ以テ古代物價ヲ計リ言フニハ專ラ稻米ノ多寡ヲ以テセルコト見ルヘク當時人々ノ物價ヲ問フトキハ稻幾斛稻幾升ナリト呼ヘリシコト猶ホ幕府ノ時ニ金何兩銀幾匁錢何貫ト呼ヒ又今日ニ於テ金何圓何錢ナト呼フカ如クナリシナルヘシ又稱字知ト云フ言詞ハ即チ稻當ノ義ナルコト疑フヘカラス是等ノ言葉ニヨリテ古代ニ於テハ稻米ヲ以テ專ラ物價賣買ノ器械即チ其通貨ト爲シタルコト明晰ナルモノナリ又更ニ按スルニ阿多比ナル語ハ横山氏ハ當合ノ義ニシテ其需用物ノ饒乏多寡ト其交易物ノ精粗美惡トニ關シ其必要ナル



ト貯蓄スヘキトニ從フテ彼此適合ノ度ヲ言フナリト言ハレタレト愚考ニ依ル  
 トキハ阿多比ハ當稻アテノ義ニシテ稻當ト同義ノ詞ナルヘシ其阿天之ノ之ハ謂ノ  
 謂ニテ稱ヲ字留之ト訓スル其之ト同語ナリ此之ナル詞ハ轉シテ知トモナル粳  
 ナ毛知ト呼フ其知是ナリ又轉シテ佐奈江サナエ苗ノ左左津岐ササキ五月ノ左トナル而シテ  
 皆和世ワセ早稻ノ世於久天クテン晚稻ノ天ト同語ニシテ共ニ稱稻ノ本名ヨリ轉來セルモ  
 ノナリ而シテ此阿天之ナル語漸ク變シテ遂ニ阿多比ト爲レルナルヘシ又其比  
 ナル語ハ之ノ轉ナルヘシ何トナレハ比ト之ト通音ナレハナリ

(東京ノ人ハ常ニ之音ト比音トヲ混同シテ得呼ヒ分ケス又漢土ニテ支韻ニ  
 枝師姿芝時詩シ破碑皮悲眉等ノ之比兩音ノ字アリ又英語ノ *He* (彼男)ナル詞ト  
 是ヲ以テ稻米通貨ノ古代ニ普行セシヲ知ルヘシ是レ言語上ヨリ得タル實證ナ  
 リトス

又舊錢譜等ニ無文赤銅錢ト名ケテ載スル所ノ古銅錢アリ(大日本貨幣史卷一ニ  
 アリ中川氏ノ和漢古今稀世泉譜ニ此錢ヲ名ケテ稻文亦銅錢ト云ヘリ其說ニ曰

ク舊譜ニ曰ク天武天皇ノ御宇之ヲ作ルト此錢按ニ面脊細輪内郭大極也舊本芳  
 川羽積ノ徒之ヲ無文銅錢ト名ク既ニ十字ノ如キ文アリ豈ニ無文トスルノ理ア  
 ランヤ予之ヲ稻文錢ト稱スル者ハ周ノ月星禾文尊ノ銘ニ此文アリ其古字七則  
 是也後世周元通寶脊禾ノ字有者洪武脊亦禾ノ字有者在リ皆禾文ニ根ツク者也  
 稻ハ禾也米也金石韻譜ニ曰莫禮切粟實也象禾實形也米也七也ト按スルニ禾文  
 ハ亦食貨ニ拘ハル亦銘スルモ自ラ其由縁アリ深ク思慮シテ覺知スヘシ世俗唯  
 米ノ字ト唱ヘテ其義ヲ知ラス釋雲公曰ク穿上ニ米ノ字アリ此文字知ルヘカラ  
 ス或ハ云ク柴ノ字ナリト是ナルヤ否ヤト此論甚タ是ナラス最モ附會ノ論也尤  
 モ義意違ヘリ然ルヤ否ヤト  
 此中川氏ノ說最モ當ヲ得タルモノト謂フヘシ此七文ハ即チ禾也稻也今舊譜ニ  
 依ルニ天武天皇ノ時ニ作レル者ナリト抑、錢文ニ稻ノ字ヲ用ヒタルハ何ノ故ソ  
 請フ其理ヲ述ヘン夫レ稻ノ字ヲ錢幣ニ刻シタルハ決シテ偶然ニ出テタルモノ  
 ニアラスシテ其因リテ來ルヤ深意固理アルナリ中川氏ハ單ニ禾文ハ亦食貨ニ  
 拘ハル亦銘スルモ自ラ其由縁アリト云ハレタレトモ是說惜哉未タ眞理ヲ盡ス



ニ足ラサルナリ今愚考ニ依ルトキハ當時專ラ稻米ノ通貨トシテ普行セシニ因  
リテ錢銘ヲ刻スルニ稻文ヲ以テセルモノナリトス其故ハ從來久シク稻米通貨  
ニノミ慣習シタルヲ以テ當時新ニ銅錢ヲ發行シテ稻文通貨ニ代用セシメント  
欲スルモ突然之ヲ民間ニ出タシテハ愚民未タ其何物ニシテ何用アルモノカヲ  
解知セサルヲ以テ遂ニ其間ニ能ク行ハルヘカラサルヘシ故ニ發行者ノ妙意知  
工ヲ以テ從來普行スル稻米通貨ノ代用物ナルコトヲ容易ニ下民ヲシテ辨セシ  
メンカ爲メニ新製金屬通貨ニ刻スルニ稻ノ文字ヲ以テセルモノナルヘシ是レ  
古今萬國皆同事同理ニ出テタルモノニシテ今日我邦ニ於テ通用スル紙幣面ニ  
金何圓ト書ケルハ即チ此一片ノ紙ノ能ク眞金ト同行シ得ヘキノ證ナリ尙ホ人  
民ヲシテ容易ニ之ヲ使用セシメンカ爲メニシテ古昔銅貨ニ稻字ヲ刻シタルト  
同理ナリ而シテ西洋ノ古錢幣ニモ亦我カ稻文銅錢ト同轍ニ出テタルモノアリ  
即チ先ニ引ケル希臘國詩人ホーマー氏ノ作中ニダイラメッドノ甲冑ハ其價僅ニ  
九牛然ルニグロカスノ甲冑ハ其價百牛ト謂フ句アリ此句ヲ英國理財學士マ  
クラツク氏解釋シテ曰クガルニエー氏カアダムスミス氏著富國策ヲ翻譯シ之

ニ注シテ此ガルニエー氏ノ書ハ西洋紀元千八百二十二年刊行ニ係リテ此句ノ  
注ハ其第十八頁ニ出テタリ茲ニ九牛百牛トアルハ眞牛ヲ以テ其價ヲ計リタル  
ニハアテスシテ唯牛形ヲ鑄出シタル錢貨ヲ云フナルヘシト云ハレタリ實ニ古  
「アルチツク」錢及ヒ其他或ル古錢ニハ牛形ヲ刻セルモノアリト雖モ是ヲ以テ眞  
ニ此等錢貨ノ行ハレシ以前ニハ眞牛ヲ以テ通貨トシテ用ヒタルコトナシトハ  
云フヘカラサルナリ余ヲ以テ之ヲ觀ルトキハ是レ却テ此錢貨以前ニ生牛ヲ以  
テ通貨トセシカ故ニ錢貨ニモ亦其形ヲ刻シタルナルヘシト推考シ得ヘキナリ  
ト論セラレタリ此マクラツクノ考案實ニ其當ヲ得タルモノト謂フヘキナリ嗚  
呼西洋諸古邦ニ於テ生牛通貨ノ行ハレシヲ以テ其錢幣ニ牛形ヲ刻セルト我邦  
上古專ラ稻米通貨ノ行ハレシニ依リテ我カ古錢銅ニハ稻字ヲ刻セルト是レ同  
日ノ談ニシテ其實蹟ノ暗合セル豈ニ奇ナラスヤ實ニ偶然ニ出テサルコトヲ辨  
知スルニ足レリトス是レ古錢幣上ヨリ得タル所ノ實證ナリ  
又類聚國史ニ延曆二十一年春正月壬戌勅如聞山城國百姓賣買水田以稻爲直準  
錢論之六町過萬錢自今以後宜上田一町直錢四千中田者准此差減若有違法處違



勅罪ト見ヘタリ是レ明ニ稻米ヲ以テ賣買ノ媒介即チ通貨トセルヲ云ヘルモノナリ夫レ帝京ノ在ル所ノ山城國ニ於テスラ猶ホ稻米通貨ヲ專用シテ錢貨ニ慣レス況ンヤ七道邊陲ノ地ニ在リテハ錢貨ヲ用ヒスシテ專ラ稻米通貨ヲ使用セシコト實ニ明瞭タルヘキモノナリ稍後ノ作ナル今昔物語ニ金一兩ヲシテ米三石ニ賣リテソレオモテ家ヲ買ヒテトアルヲ見ヨ其爲ス所今日吾人ノ爲ス所ト全ク相反シタルヲ見ヨ吾人若シ今日ニ於テ金子ヲ所持セハ直ニ之ヲ以テ自ラ欲スル所ノ家宅ヲ購求スルヲ得ルナリ然ルニ若シ亦米穀ヲ有スルトキハ直ニ以テ家宅ヲ買フヘカラスシテ却テ先ツ之ヲ賣リテ以テ金ニ換ヘ其金ヲ以テ始メテ自由ニ家宅ヲ購求シ得ルモノナリ今彼ノ今昔物語ニ云ヘルカ如キハ其身金ヲ有シナカラ之ヲ先ツ米ニ換ヘ其米ヲ以テ能ク家宅ヲ買ヒ得タルナリ今日金銀貨ニ慣レタル吾人ヨリシテ之ヲ見ルトキハ其事豈ニ奇ナリト云ハサルヲ得ンヤ今古何ッ其爲ス事ノ相反スル是ノ如クナルヤ抑復タ謂ハレアルナリ夫レ古代ニ於テハ金ハ世間通用ノ貨幣ニアラサリシカ故ニ之ヲ以テ自由ニ家宅ヲ買フコトヲ得ス是ヲ以テ其金ヲ富豪ニシテ寶物ヲ好ム人ニ賣リテ其代價トシ

テ米三石ヲ得此米ハ當時民間賣買取引ニ通用ノモノナルヲ以テ能ク自由ニ之ヲ以テ其欲スル家宅ヲ買ヒ得タルナリ是レ他ナシ當時ノ通貨ハ稻米ニシテ金銀ノ如キハ全ク玩弄物ナル商品タルニ止マリタルニ由レハナリ是レ史籍上ヨリ得タル實證ナリ其他三代實錄ニ貞觀十八年九月伊豫國言管内風早郡忽那島馬牛年例貢馬四年二萬三百余疋牛亦準之島内水草既乏蕃息滋夥請非年貢悉活却以值混合正稅ト見エタル其馬牛ヲ賣却シタル代價ノ稻米ナリシコトハ其之ヲ以テ正稅ト混合セント云ヘルニテ明ナリ是レ亦稻米ノ通貨タリシ證ナリ又醍醐天皇延長五年延喜式成ル其中ニ交易雜物ト云フ條アリ曰ク山城國大麥三石小麥三十石大角豆六石胡麻子四石荏子四石以下五畿七道諸國ノ交易雜物ノ品數ヲ舉載スレトモ今僅ニ其二三國ノモノヲ舉ケテ其他ハ悉ク之ヲ省畧ス○伊賀國 白絹十二疋鹿皮廿張樽二合加赤漆鞍○伊勢國 白絹十二疋絹三百疋水銀四石斤樽二合鹿角菜二石青筍五十斤海松五十斤凝菜卅斤於胡菜卅斤鳥坂苔五斤海藻根十斤那乃利會五十斤○土佐國 龜甲四枚煮鹽年魚五缶紫菜百五十斤苦廿五枚櫛子四合○大宰府 絹四千疋履料牛皮廿四張狸皮十張銀三



百兩金漆五缶朱砂一千兩茜二千斤紫草五千六百斤猪膏二石雜油卅石檳榔馬糞六十領同螻蛄一百廿領蘭帖笠百卅蓋黑漆鞍十具鐵鎧廿領 右以正稅交易進トアルモ稻米ハ其間ノ通貨ナリシヲ以テ正稅ノ内ヨリ一部ヲ割キテ其稻米ヲ以テ此等ノ雜品ヲ買取リテ之ヲ朝廷ニ上進セシムルモノナリ是レ稻米ノ通貨タリシ證ナリ

又大寶令文武天皇四年六月淨大參刑部親王直廣壹藤原朝臣不比等直大貳粟田朝臣真人等ニ勅シテ撰定セシメタルモノナリ中ニ借貸ニ關セル條アリ曰ク「凡公私以財物出舉者任依私契官不爲理每六十日取利不得過八分之一雖過四百八十日不得過一借家資盡者役身折酬不得廻利爲本若有違法責利契外掣奪官爲理如負債者逃避保人代償○一凡以稻粟出舉者任依私契官不爲理以一年爲斷不得過一倍其官半倍並不得因舊本更生利及廻利爲本家資盡者准上條ト云ヒ亦元明天皇和銅四年冬十一月詔曰諸國大稅三歲間借貸勿收其利出舉私稻者今後不得過半倍續日本紀及ヒ類聚三代格ニ出テタリト見ユ又同五年秋八月太政官議定諸國那稻乏小用度廢闕宜準國大小割截大稅轉爲那稻通出舉所息之利以供費

用其割配本數不得減損今後永爲恒例續日本紀及ヒ三代格ト見ユ又持統天皇元年詔ニ令債役身者不役利書記ナト見ユタル其利子トハ皆稻米ヲ云フナリ利子ニ稻米ヲ用ヒタルハ何ソ他ナシ當時ノ通貨ハ稻米ナルヲ以テ其利息トシテ稻米ヲ出タスコト尋常ノ事ナリ是レ亦稻米ノ通貨タリシ證ナリ且ツ當時ノ政府ノ費用ハ全ク租稅ニ依ルモノニシテ稻米通貨ヲ以テ其諸費ヲ辨度シタルモノナリ嗚呼稻米通貨ノ用實ニ廣大且ツ普通ナル哉是ニ由リテ之ヲ觀ルニ當時ニ於テ稻米通貨ノ用ハ毫モ今日ニ於ケル金銀銅三貨ニ異ナラスシテ能ク民間使用ノ便宜ヲ濟シ得タルノ事蹟ハ彰々乎トシテ更ニ疑フヘキ所ヲ見サルナリ以上ノ理由ト實證アルヲ以テ余輩ハ十分ニ稻米ノ通貨トシテ古ニ普行使用セラレタルコトヲ辯明開陳シ得タリト信スルヲ以テ今更ニ步ヲ進メテ其何ノ時代マテ錢貨ニ勝リテ通セシカヲ論セントス古代ノ事蹟ヲ知ラサルモノハ或ハ彼ノ元明天皇和銅元年ニ和銅錢發行アリシ以來ハ其錢貨專ラ民間ニ行ハレテ能ク物貨交換ノ媒介トナリテ賣買ノ用ヲ爲



シ得タルナラント思想スル者モアルヘケレトモ是レ決シテ然ラサルナリ元明  
天皇和銅ノ頃ニ至リテハ朝廷早ク金屬通貨ノ他ノ通貨ヨリハ遙ニ便且ツ利ナ  
ルヲ悟リ和銅錢ヲ鑄造發行セシモ本邦古來ノ人民ハ未タ其使用ヲ知ラサリシ  
カ爲メ却テ金屬通貨ヲ嫌ヒテ之ヲ用ヒサリシナラン其故ハ和銅年中朝廷ニ於  
テハ種々ノ方便ヲ以テ金屬通貨ノ通用ヲ謀ラレタルニテ知ラレタリ即チ元明  
天皇和銅四年十月甲子詔曰夫錢之爲用所以通財貨易有無也當今百姓尙迷習俗  
未解其理僅雖賣買猶無蓄錢者木村正辭氏曰按文義此下疑脫蓄錢者三字凡疊文  
者後人傳寫之際往々脫之ト實ニ其脫文ナルコト明ナリ隨其多少節級授位其從  
六位以上蓄錢有一十貫以上者進位一階叙二十貫以上進二階叙初位以下每有五  
貫進一階叙大初位上若初位進入從八位下以一十貫爲入限其五位以上及正六位  
有十貫以上者臨時聽勅或倍他錢欺爲官者大日本貨幣史ニハ欺爲官者ノ四字ヲ  
欺キテ官タランモノハト讀ミタレトモ此ノ如クニテハ文義穩當ナラス當ニ木  
村正辭氏ノ爲恐僞字ト云ハレタルニ從ヒテ官ヲ欺僞スル者ハト讀ムヘキ欺其  
錢沒官身徒一年與者同罪ト見ユ而シテ同十一月甲戌蓄錢人等始叙位焉ト見ユ

タリ○同十二月庚申又蓄錢叙位之法無位七貫白丁十貫爲入限以外如前○同五  
年五月癸酉禁六位已下以銅銀飾革帶○同年十月詔曰行跡人必齎錢爲資因息重  
擔之勞亦知用錢之便○同年潤十二月辛丑詔諸國所送調庸等物以錢換宜以錢五  
文准布一常營膳令解曰一常一丈三尺○六年三月詔曰任邦司少領以上者性識清  
廉雖堪時務而蓄錢乏少不滿六貫自今以後不得遷任○同時詔曰諸國之地江山遐  
阻負擔之輩久苦行役具備資糧闕納貢之恒數減損重負恐殫路之不少宜各持一囊  
錢作當廬給永省勞易往還得便宜國郡司等募豪富家置置米路側任其賣買一年之  
內賣米一百斛以上者以名奏聞○又詔曰賣買田者以錢爲價若以他物爲價田並其  
物共爲沒官或有糾告者則給告人賣及買人並科違勅罪郡司不可檢校違十事以上  
即解其任九事以下量降考第國司者式部監察計違附考或雖非用錢而情願通商者  
聽之ナトアルヲ見ヨ或ハ位階ヲ餌シテ錢用ヲ重愛スルノ心ヲ牽キ或ハ嚴令ヲ  
下シテ錢貨ヲ用ヒサルコトヲ得サラシメ或ハ進メ或ハ辨シ丁寧反覆其令詔ス  
ル所一トシテ錢貨ノ辨用ヲ下民ニ知ラシメントスルニアラサルハナシ當時政  
府ノ苦心復タ思フヘキナリ而シテ政府力是ノ如ク手ヲ盡シテ其誘導ニ汲々タ



リシハ抑、何ノ故ソヤ是レ本邦人民ノ其頃ニ至ルマテ未タ錢貨ノ用ヲ知ラサル  
カ爲メニ各之ヲ擯斥嫌惡シテ使用スルコト欲セサレハナリ  
然ルニ桓武天皇延曆十六年九月二十三日太政官符ニ禁斷貯錢事ト題シ右被右  
大臣神王宜備奉勅用錢之道取於輕便有無均利彼此得宜者也如聞外國吏民多有貯  
錢京畿士庶還乏資用既乖均利之義亦失得宜之方宜下嚴制不得更然所有之錢盡  
皆納官仍用稅準價給之送京之功亦用正稅若有藏而不進爲他被告不論蔭贖科違  
勅罪五分其物一分給告者四分沒官但伊賀近江若狹丹波紀伊等不在禁限トアル  
ナ見ヨ是レ朝廷ニ於テ和銅以來屢錢貨ヲ鑄造シテ之ヲ天下ニ發行シ以テ庶民  
ニ物貨交換ノ方便ヲ知ラシメントシ又傍ラ種々ノ勅令ヲ下シテ專ラ其普行ノ  
道ヲ計ラレシモ人民ハ猶ホ從來ノ稻米通貨ヲ頑守シテ新出ノ錢貨ハ未タ之ヲ  
賣買ノ用ニ供セスシテ却テ彼ノ和銅四年十月ノ詔ニ蓄錢者ニハ位階ヲ授ケン  
トアルニ依リテ錢貨ヲ貯蓄シテ爵位ヲ得ンカ爲メノ料ニ供シタルナリ其證ハ  
即チ類聚三代格延曆十九年二月四日大政官符ニ禁斷民蓄錢貨以求爵位事ト題  
シ右大納言正三位壹志濃王宜奉勅項年納錢例叙五品今聞殷富之民多貯錢貨藏

雖高計或至腐爛是以官符信力一本符作府信倍當ニ之ニ從フヘキ歟無輟於鑄作  
京畿乏錢未布於民間其百姓納錢以求爵位自今以後嚴加禁止更莫令然木村正辭  
氏憲法志料曰按今本類聚國史以此事爲十六年七月條者誤也紀畧載在十九年二  
月壬申以可證壬申即四日也トアル是ナリ  
夫レ和銅四年ノ詔ノ出テタル所以ヲ察スルニ當時朝廷ニ於テハ人民カ專ラ其  
重負不便ナル稻米ノ通貨ヲ慣用シテ未タ錢貨即チ金屬通貨ノ輕便利用ナルコ  
ト知ラサルヲ大ニ憂慮シ玉ヒ爲メニ此蓄錢叙位ノ法ヲ設ケテ大ニ民心ヲシテ  
錢貨ヲ貴重スルノ風ヲ養成シ從ヒテ漸々舊習ヲ去リ遂ニ錢貨ノ普行ヲ來タシ  
テ能ク其間一般ノ通貨トスルノ功ヲ奏セント期望セラレタルナルヘシ要スル  
ニ當時政府ノ欲スル所ハ徒ニ蓄錢ノ風ヲ養成スルニアラスシテ由リテ以テ錢  
貨ノ普行ヲ計ラレタルナルヘシ更ニ之ヲ變言スレハ其主眼目的トスル所ハ錢  
貨普行ニアリテ蓄錢ノ風ヲ養成スルハ僅ニ其客ナリ又方便ナリシノミ然ルニ  
哀キ哉下民ハ未タ朝廷眞意ノアル所ヲ察セス苟モ豪富ノ輩ハ其生計ニ苦マサ  
ルヲ以テ徒ニ蓄錢是勉メ爵位ヲ求メテ以テ世ニ誇ラレントセリ且ツ細民等ハ



久シク稻米通貨ニ慣習シタル者ナレハ能ク其日用ニ適當シタルヲ好ミテ却テ  
錢貨ヲ嫌惡スルノ風未タ失セス是ヲ以テ富豪ノ輩ハ愈々蓄積シ易カリシナリ故  
ニ政府從ヒテ鑄造スレハ從ヒテ豪富者ノ手裡ニ蓄積セラレテ民間ニ散布スル  
モノ少ク亦民間ハ依然習慣的ノ稻米通貨ヲ使用スルヲ以テ一般ニ於テハ錢ア  
リテ錢ナキノ實ヲ呈スルニ至レリ此ニ於テ政府ハ大ニ蓄積叙位ノ弊ヲ察シ遂  
ニ此延曆十九年ノ法令ヲ以テ蓄積求爵ノ法ヲ廢スルノ止ムヲ得サルニ至レリ  
但シ此蓄積求爵ノ事ハ和銅四年十一月甲戌ヲ以テ始メテ實施セラレシ以來此  
延曆十九年マテ九十年間行ハレタルモノナリ  
是ニ至リテ豪富者ノ爵位ヲ求メンカ爲メ錢貨ヲ蓄積セシ者ハ全ク其目的ヲ失  
ヒ相競ヒテ其無用物トナリシ所ノ錢貨ヲ民間ニ放散セシナルヘシ然レトモ當  
時一般ノ人民ハ未タ錢貨ノ用ニ慣レサルヲ以テ何ソ能ク一時ニ突然ト顯出セ  
ル錢貨ヲ取扱フヲ好マンヤ故ニ相互ニ之ヲ手下ニ留置クヲ欲セサルヨリ甲之  
ヲ乙ニ仕拂ハントセハ乙之ヲ嫌ヒ若シ乙止ムヲ得ス之ヲ受取ルモ直ニ復々之  
ヲ丙ニ仕拂ハント欲スルカ如ク相互ニ之カ受取方ヲ嫌厭セルヲ以テ爲メニ通

貨最要ノ性質タル認取力即チ通用力ヲ失ヘリ是ヲ以テ通貨トシテ民間ニ之ヲ  
使用シ難シ然ルニ之ニ反シ政府ニアリテハ通貨ノ流通ヲ催促獎勵センカ爲メ  
却テ好ミテ之ヲ受取ラント約シ以テ稻米ノ時價ニ應シテ租ニ代ヘ上納スルコ  
トヲ許可セリ前ニ引證セル桓武天皇延曆十六年九月二十三日ノ大政官符ヲ參  
見スヘシ故ニ民間間不通ノ錢貨ヲ競ヒテ政府ニ還納シタルモノナルヘシ  
是ノ如クニシテ當時政府ニ於テハ錢貨陸續トシテ其國庫ニ還リ來ルモ之ヲ以  
テ政府ノ經費ニ充テ再ヒ下民ニ仕拂ハントスレハ下民ハ前ノ事情アルヲ以テ  
兎角ノ苦情ヲ申立テ其受取方ヲ拒絕スルカ故ニ政府ノ財政爲メニ大ニ不便溢  
滯ナラサルヲ得サルニ至リシト見ヘテ彼ノ延曆十六年ノ禁令出テ、ヨリ僅ニ  
三十餘年ヲ經テ政府ハ全ク前令ニ反意セル法令ヲ發布スルニ至レリ即チ續日  
本後紀ニ仁明天皇承和五年勅畿内諸國雜官稻代收錢一切禁之ト見エタル是ナ  
リ嗚呼此承和五年ノ令ト彼ノ延曆十六年ノ法令トヲ比較參考セハ當時上下ノ  
事情判然タルコト猶ホ鏡ニ照シテ視ルカ如クナラン夫レ政府自ラ稻米通貨ヲ  
好受シテ亦錢貨ヲ拒絕ス況ンヤ下民ノ間ニ於テナヤ其當時一般ノ通貨ハ錢貨



ニアラスシテ尙ホ依然トシテ稻米通貨タリシコト此一事ヲ以テ自ラ能ク辨證スルニ足ルモノナリ抑此承和五年ハ仁明天皇即位五年ニシテ桓武天皇ノ帝都ヲ山城平安城ニ遷シ玉ヒテヨリ凡ソ此ニ四十五年即チ神武天皇紀元一千四百九十八年ナリ又前ニ引ケル延曆二十一年正月ノ始ヲ合セ考フヘシ又延喜式主計上ヲ按スルニ調トシテ錢貨ヲ輸ス國ハ左右兩京ト畿内五國及ヒ紀伊國ノミナリ即チ同書ニ據レハ左右京調輸錢〇山城國調席二百八十枚狹席五百九十枚折薦錢八百五十八枚葉薦四百六枚食薦一千五百枚隨時損益餘國准此自餘輸錢大和國以下四箇國ノ調物ハ今之ヲ畧ス而シテ五箇國トモ皆自餘輸錢ノ事見エタリ又紀伊國浮浪人調庸輸錢ト見エタル是ナリ其他七道諸國ハ特種調物ノ外ハ概テ皆米鹽ヲ輸納セシムル由見エタリ是亦錢貨ハ僅ニ近畿ニノミ少シク行ハレテ諸國ニハ普及スルニ至ラスシテ諸國ニ於テハ尙ホ稻米通貨ヲ通用セシ證ナリ何トナレハ錢貨ハ輸送スルニ當リテ甚タ輕便ナルモノニシテ稻米ハ其運般大ニ煩シ故ニ理ニ於テ之ヲ論スルトキハ當ニ遠隔ノ地方ヨリハ錢貨ヲ輸シ近畿ノ諸國ヨリハ稻米ヲ輸送スヘキニ事全ク之ニ反シテ近畿諸

國ハ錢貨ヲ輸シ遠隔地方ヨリハ却テ稻米食鹽ヲ輸送セルハ錢貨ノ僅ニ五畿地方ニ行ハレテ未タ廣ク七道諸國ニ通用セラレサリシニ因ラサルヲ得ス夫レ此延喜式ハ延長五年ニ成レルモノナレハ桓武天皇ノ新都ヲ平安城ニ開キ玉ヒテヨリ茲ニ百三十有五年ニシテ即チ神武天皇即位紀元千五百六十有七年ナリ此調代トシテ輸錢ノ事アルニ依リテ當時錢貨ノ漸ク近畿諸國ニ行ハレタリシヲ知ル然リ而シテ未タ各地方ニハ通用セサリシナリ其後年數ヲ經ルニ從ヒテ漸々各地方ノ人民モ錢貨ノ輕便ナルヲ覺知シ從來ノ稻米通貨ヲ捨テ、此金屬通貨ヲ使用スルニ至リタルナリ而シテ今何帝ノ何年ヨリ錢貨ノ能ク各地方ニ普行シテ通貨トナリ得シカハ斷然之ヲ明指スルコト固ヨリ爲シ得ヘキ所ニアラスト雖モ夫ノ源平盛衰記、平家物語、東鑑等ノ諸書ニ武士ノ所領ノ多寡大小ヲ別ツニ皆何百貫何千貫ナト貫高ヲ以テシ且ツ間物價ヲ呼フニ何百貫何十文ナトヲ以テスルヲ見レハ源平ノ時代ニ至リテハ錢貨ノ用漸ク既ニ各地方ニ普及セシヲ知ル故ニ余輩ハ此時ニ於テハ稻米通貨漸ク民間ニ其用ヲ減シ錢貨能ク之ニ代リテ一般賣買ノ媒介物即チ通貨ニナリ得シト言ハントス



夫レ稻米通貨ハ古代ノ用ニ最モ能ク適シタルコトハ前述ノ如クナレトモ各地  
方間ノ交通漸ク開ク商業賣買ノ區域愈廣ク成ルニ從ヒテハ其不便ヲ感スルニ  
至ルモノナリ何トナレハ稻米通貨ハ其量容ノ重大ニシテ大ニ運搬ニ不便ナル  
ト其或ハ數年ヲ經過シ得ルモ未タ實ニ永久ニ其性質ヲ維持シ得サルモノナル  
トニ因リテ世ノ文化進ミ商賣ノ道開クルニ從ヒテ金屬通貨ノ輕便且ツ不朽ナ  
ルモノヲ使用スルニ至ルハ數ノ當ニ然ルヘキ所ニシテ萬國共ニ同轍ヲ履マサ  
ルハナシ然レトモ人民ハ古來久ク稻米通貨ニ慣習セルモノナルヲ以テ此輕便  
ニシテ且ツ廢敗蠹朽ノ憂ナキ金屬通貨モ容易ニ彼ノ稻米通貨ヲ排却シテ其所  
ヲ得ルコト能ハス和銅元年ニ於テ畧其製ノ定マリヨリ源平權ヲ專ニセル時  
代ニ至ルマテ其間殆ト三四百年ノ久キヲ經テ漸ク通貨トシテ民間ニ行ハル、  
コトヲ得シモノナリ以テ慣習力ノ容易ニ變更シ得ヘカラサルノ理ヲ知ルヘシ

### 日本古代通貨論終

### 支那貨幣考

第一章	貨幣當初ノ思想	二
第二章	漢貨幣史	二三
第三章	帝國分裂ノ時期間貨幣ノ歴史	四八
第四章	唐貨幣史	七五
第五章	宋朝貨幣史	九四
第六章	宋朝紙幣	一一九



支那人ノ經濟ハ早ク已ニ發達シ古來大家ノ名論卓說少ナシト  
セス然ルニ多クハ斷簡片語ニシテ所論ノ通シテ見ルヘキモノ  
ナシ從テ貨幣制度ノ如キモ亦諸書ニ散見スルノミ此書ハ甚タ  
簡單ナルモノニシテ素ヨリ支那古來ノ貨制ハ勿論其沿革ヲモ  
詳悉スルモノニアラスト雖モ其一班ニ至リテハ之ヲ窺フノ利  
アルヘシ依テ茲ニ譯出シテ貨幣論ノ參考ニ供ス

譯者誌

支那貨幣考



# 支那貨幣考

ダブルユ、グイツセリング原著  
駒井重格譯

## 第一章 貨幣當初ノ思想

物品交換。貨幣ノ起源及太古ノ貨幣。貨幣ノ名稱。管子ノ所述。第十一世紀中支那二學者ノ所見。周ノ初世ニ於ケル貨幣ノ用。周禮ヨリ轉記シタル二節。馬端臨ノ評語。景王ノ新貨及單穆公ノ奏議

往古未開ノ時ニ當リ支那ニ行ハレタル交換ノ方法ハ物品交換ニシテ米麥ノ如ク土地ヨリ生スルモノ或ハ絹布武器ノ如ク人工ヲ以テ製作シタルモノ等ヲ以テ相互ニ交換ナシ之ニヨリ各人其必要ナル需用ヲ満足シタルモノナリ然レトモ茲ニ顯著ナル一事アリ凡テ歐亞何レヲ問ハス各國皆嘗テ毛皮或ハ家畜ヲ以テ交換ノ媒助トナシタルモノニシテ之ニヨリ人民カ漁獵牧畜ヲ以テ産

業ヲ立テタル未開ノ時代ヲ徵スレトモ獨リ支那ニ於テハ歴史ニ照スモ言語ニ求ムルモ如此現象ノ跟跡ハ毫モ貨幣ノ上ニ見ルヲ得サルナリ最古ノ記録ニシテ貨幣ニ關スルモノヲ見ルニ神農紀元前二千七百三十七年貨帛ヲ聚メシカ爲メ國中ニ市場ヲ作り日中ニ市ヲ爲シ依テ有無ヲ交易セシム云々ノ文アリ之ニヨリ黒毛人ハ太古ニ於テ已ニ開化ノ第三段譯者曰ク漁獵ノ時代牧畜ノ時代ヲ經過シタルヲ云フニアリテ天子ノ民ハ已ニ農或ハ商ナリシヲ見ルニ足ルヘシ此ノ如ク農耕養蠶ヲ以テ産業ヲ營ミタル人民ノ間ニハ物品交換行ハレタリシト雖モ之ト同時ニ一種鑄造シタル貨幣ノ行商ノ間ニ存在シタルカ如シ然レトモ其流通ノ區域ハ極メテ狭ク農産ヲ以テ業トセル人民ノ間ニハ行ハレサリシナリ

此古錢ニ付キ馬端臨ハ其著書ノ卷首ニ一言セリ又第十一世紀ノ半ニ當リ二人ノ支那學者之ヲ沿革上經濟上ヨリ觀察シタルコトアリ予右二書ヨリ摘載スル處アルヘシ其他日本支那ノ造幣ニ關スル書中右等古貨ノ圖ヲ載スル者多シ古錢ハ皆其面ニ文字アリ然レトモ書法古體殆ント讀ムヘカラス次ノ圖ニ載スル



處ハアムステルダム府動物協會ノ所藏ニ係ル日本造幣ニ關スル書ヨリ寫シタル者ナリ



日本著書ニヨルニ此文字ハ「安邑貨二金」ナリト二金トハ銀ヲ云フナリ此古貨ハ紀元前二千二百年以前支那ノ王位ニアリシ夏ノ禹ノ鑄造セシ所ナリ

馬端臨カ古代ノ貨幣ニ關シ記述スル所ノモノ極メテ少ナシ然レトモ其書タル古ク且ツ通貨古代ノ名稱ヲ知ルニ足ルヲ以テ先ツ之ヲ採萃シ而シテ古代近代ニ於テ貨幣及其性質ヲ表スル爲メ用ヒ來リタル種々ノ名稱ヲ説明セントス

大昊ノ時紀元前二千八百五十二年ヨリ已ニ貨幣アリシカ如ク大昊氏高陽氏ハ之ヲ金ト稱シ有熊氏紀元前二千六百九十七年高辛氏紀元前二千四百三十五年ハ之ヲ貨ト云ヒ陶唐氏ハ之ヲ帛ト云ヒ商人齊人ハ之ヲ布ト云ヒ齊人莒人ハ之ヲ刀ト云フ虞夏商紀元前二千二百五十五年ヨリ千七百六十六年ノ貨幣ハ黃白赤ノ三金ヨリ成リ錢布刀或ハ龜貝ノ稱アリ

往古史ニ載セサルノ時ニ當リテハ支那ニ於テモ亦貝殻ヲ以テ通貨ヲ作ル猶英人カ一千六百三十年始メテ米國東部ニ殖民スルニ當リ土人中ニ通用シタル「ワシパムピグ」ノ如クナリシハ蓋シ疑ヲ容レサルナリ第一賣買財貨積資貴賤其他貨幣財物ニ關スルノ文字ハ多ク貝ノ字ニ傍ヘリ第二王莽纂立シ紀元後十四年事物ヲ古ニ復セント欲シ古代ニ行ハレタル形狀及種類ニ從ヒ貨幣ヲ作りタルコトアリシカ中ニ價ヲ隨意ニ定メタル五種ノ貝アリ又書經ニ載スル文中ニ國王其執政ノ貪慾ヲ歎シ予ト共ニ國政ヲ執ルモノニシテ只玉貝ヲ蓄フルニ攷々タルモノアリト云ヘルヲ以テ貝モ亦當時貴重セラレシヲ見ルヘク又詩經中ニ貝ヲ以テ絹布ニ縫箔シ又絹絲ヲ以テ貝ヲ連テテ冑ニ結ヒ裝飾トナシタル等ノコトヲ記スルノ詩アル等ヲ以テ證トスヘシ

貨幣ノ名稱ヲ列記スレハ

第一 布幣、刀 麻布絹布及小刀ハ其初メテ貨幣トシテ一般ニ用ヒラレタル商品ナリ而シテ當初重量ヲ定メタル金屬貨幣ハ前記物品ノ形狀ヲ摸シ且ツ之ヲ代表シタリシモノナレハ從テ之ニ附スル同名稱ヲ以テシタリ



布貨ハ布片又衣服ヲ表シ刀貨ハ刀又小刀ノ外形ヲ摸シタルナリ又文字ヨリ云  
 フモ布ハ其形狀布貨ニ類スルモノアリ次圖ニ示スカ如シ此類似ハ殊ニ篆書體  
 ニ於テ著シトス是ニ由リ之ヲ見レハ布  
 或ハ巾ハ布片又衣服ヲ表スル形字ノ原形ナ  
 ラン



又左圖ニ載セタル刀形貨幣ハ纂位者王莽ノ時用ヒタルモノニシテ露國外交官  
 パロンセートワル氏ノ貴重スヘキ著書支那貨幣集千八百四十二年セントピ  
 タースボルグ府出版第二圖ニ載スル所ノモノナリ此ノ貨幣ノ面ニ刻スル文字



ハ(代)ニシテ交換スルノ意ヲ有シ貨即チ交換ノ物品又商品ト其意義チ同クス彼  
 ノ第一圖古錢ノ第三字ト同シ刀貨ノ名稱ハ現時ハ其形狀ト共ニ湮滅セシト雖  
 モ布及幣ハ今猶ホ存ス馬端臨ヨリ拔載シタル文中屢見ル處ニシテ且ツ幣ノ如  
 キハ或ハ單獨ニ或ハ熟字トナリテ通貨ト同義ニ用ヒラル則チ錢幣ト云フカ如  
 シ

第二 貨 貨ノ文字タル之ヲ細分スレハ貝(財産)及ヒ化(變化)ノ二字ヨリ成リ亦  
 通貨最古ノ名稱ノ一ナリトス已ニ禹王所鑄ノ古貨中ニモ見ヘタリ(第一圖)現今  
 ニ至ルモ單立シ或ハ熟字ヲナシテ其意義ヲ有ス通貨、貨布、錢貨ト云フカ如シ貨  
 幣ハ一商品ニシテ實價ヲ有スヘシトノ真理ハ我歐洲近代貨幣史中屢、眼界ヲ離  
 ル、コトアレトモ支那ニアリテハ貨ノ名稱ニ附スルカ故ニ動カスヘカラサル  
 ノ真理トナリ國君貨幣ノ品位重量ヲ變セントスル毎ニ時ノ宰相之ヲ諫ムルニ  
 貨幣ハ商品ニシテ實價ヲ有スヘシト云フチ以テセリ

第三 錢 錢ハ普通用フル處ノ圓周方穴ノ支那小貨幣ノ總稱ニシテ他ノ文字  
 ト熟字ヲ爲シ交換媒介ノ通稱トナレリ錢貨、錢布ト云フカ如シ



貨幣ノ性質中支那經濟學者ノ表スルニ權ノ字ヲ以テスル者アリ權ノ字義タル  
 衡スルノ意ニシテ又相當物ノ意ナリ例ヘハ先ツ穀粟ヨリ成レル通貨ノ權ナル  
 者アリ云々又通貨ハ權ノ爲メニ作レリ然レトモ此ノ權タルモノヲ其本ニ相當  
 ナラシムルニ意ヲ用ヒス云々ノ文中ニ見ル如シ

第四 圖法 周禮ニ載スル所ノ名稱ニシテ九府圖法云々トアリテ政府財務ノ  
 行政ヲ各其職ヲ異ニセル九廳ニ配付セリ馬端臨ハ此圖ノ字ヲ解シテ均一ニシ  
 テ流通スルノ意ナリト云ヘリ

第五 以上掲クルモノ、外名稱猶ホ數多アリ例ヘハ寶ノ如シ通寶ノ語ハ貨幣  
 鑄造ノ年號ト合シ唐及以後ノ朝ニ於テ常ニ貨幣ニ刻シタル文字ナリ(紀元後八  
 百年ヨリ一千八百七十七年ニ至ル)又貫緡及緡ハ共ニ錢千ナ一索トナシタル者  
 ナ通稱シタルナリ

第六 猶ホ顯著ナル一文字アリ則チ泉是ナリ古代貨幣面上ニ篆書シ貨幣ノ名  
 稱トシテ用ヒラレタルモノニシテ現時ニ至ルマテ泉貨泉布等ノ語ハ貨幣ト同  
 義ナリ人或ハ其意義ヲ解シテ曰ク通貨ハ流ル、コト恰モ水ノ源泉ヲ出テタル

カ如ク社會一般ニ流布ス故ニ此稱アリト然レトモ宋朝一學者ノ說ニ從ヘハ是  
 レ全ク誤謬ニシテ古貨面上ニ見ル處ノ泉ノ字ハ現今所有ノ泉ノ字ト關係アル  
 モノニアラサルナリ

今爽祭鄭氏ノ說ヲ掲ケン氏ハマイエル氏カ通セサル所ナシト稱揚セシ學者ナ  
 リ其說ニ曰ク

古文ニ錢字ヲ泉ニ作りタルモノアリ是レ貨幣ノ形ニ類スルヲ以テナリ此字  
 ト同義ニシテ字形異ナルモノアリ刀是ナリ是モ亦古代貨幣トシテ用ヒタル  
 器ニヨリテ然ルナリ圖法ト云フモ亦同義ナリ大公ノ作ル所ニシテ此貨幣ノ  
 一タヒ出テ、ヨリ人民之ヲ便トシ星霜ヲ經ルニ從ヒ泉刀ハ共ニ堙滅スルニ  
 至リシナリ後世之ヲ知ラサルナリ古貨ヲ見ルコト其形狀篆體ノ泉字ニ似タリ

元 後世ニ至リ代ユルニ錢ノ字ヲ以テセリ今假ニ古文泉ノ字泉水ノ泉トナ  
 スモ泉ノ篆體其下體水ニ傍ハス然ルニ有識ノ輩ト雖モ其根源沿革ヲ知ラス  
 泉ヨリモ速ニ流レ布ヨリモ廣ク布キ金ヨリモ貴重ニシテ刀ヨリモ有益ナリ  
 ト云フカ如キハ畢竟牽強附會ノ辯タルヲ免レサルナリ



前ニ示シタル古貨ノ圖ヲ考フレハ貨幣ハ物品交換ニ起因セルヲ見ルニ足ラン  
羅馬人ハ其「ペキユニヤ」(貨幣)ナル語ヲ「ペーコス」(動物)ヨリ取り當初ノ貨幣ノ面ニ  
ハ牛或ハ羊ノ圖ヲ刻シタリ支那人ノ爲ス所モ之ニ類シ小刀或ハ衣具ノ代リト  
シテ重量ヲ計リタル種々ノ金属片ヲ衣服或ハ小刀ノ形ニ摸シ之ヲ貨幣トシテ  
用ヒタリ

古代支那學者ノ著ニ係ル貨幣ノ起源ヲ説キタル論文ノ一部今猶ホ存スルモノ  
アリ此文タル古代ノ帝王其民ノ缺乏ヲ救フノ方法トシテ貨幣ヲ作ルニ至リタ  
ル事情ヲ巧ニ説キタルモノナリ今之ヲ左ニ掲ク

桓子曰ク湯王(紀元前千七百六十六年)即位第七年旱魃アリ禹王(紀元前二千二  
百五年)五年洪水アリ人民飢餓ニ迫リ其子ヲ賣ルモノアルニ至ル湯王金ヲ莊  
山ニ取り貨幣ヲ作り之ヲ以テ右ノ賣ラレタルモノヲ購フ禹王ハ金ヲ歷山ニ  
取り亦貨幣ヲ作り窮困ノモノヲ救ヘリ又一地方廣サ七八千里ナルモノ洪水  
ノ爲メニ舟車通セス四方ニ其交通ヲ失ヒタルアリ此地方ニ於テハ重サニヨ  
リテ貨幣ノ位ヲ定メ之ヲ用ヒタリ即チ珠玉ヲ最上トシ黃金ヲ中トシ刀布ヲ

最下トセリ抑右ノ三者之ヲ手ニスルモ暖ヲ得ルニアラス又之ヲ食シテ飢ヲ  
醫スルニ足ルニアラスト雖モ古ノ帝王ハ財物ヲ保存シ人民ノ安寧國家ノ秩  
序ヲ保タント欲シ人民ニ諭シテ曰ク衡秤アリテ始メテ二物一ハ貴ク二ハ賤  
シキトキハ平均ヲ得ル能ハサルヲ知ルヘシト

此末文ハ大小ヲ異ニスル物體ノ價格ヲ量ル爲メ創メテ衡秤ノ作アリタルヲ記  
セシナリ馬端臨之ヲ釋キテ曰ク

若シ五穀ト萬物ヲシテ其關係同シカラシメハ此ノ如ク數種ノ貨幣ヲ用フル  
ノ要ナカルヘシ然レトモ衡秤アルニヨリ始メテ物ノ貴賤ヲ知ルヲ得ヘク又  
貨幣ニ上中下ヲ分ツノ要アリト

然レトモ交換媒助ノ古形ハ不便ヲ極ムルヲ以テ貨幣ハ世上ニ運轉スルモノナ  
レハ圓形ヲ有スヘシトノ原理支那人ノ固信スル所トナレリ故ニ周朝(紀元前千  
二十二年)ニ於テ貨幣ヲ鑄ルニ當リテハ圓形ニシテ中心ニ方穴アルモノヲ作レ  
リ此ノ形狀便ニシテ一度用ヒラレテヨリ以來變スルコトナシ其重量品質ノ變  
スルコトアルモ形狀ニ至リテハ三千年間殆ント不變ト云フテ可ナリ此場合ニ



於テモ支那人新發明ノ精神其頂ニ達シ又之ヲ超ユルノ氣象ニ乏シク常ニ先人ノ作リタル例ヲ續キ其轍ヲ離ル、コトナカリシナリ

古代貨幣製造ニ用ヒタル金屬ハ三種アリ金銀銅是ナリ茲ニ銅ト稱スルモノハ銅錫亞鉛ノ混合物即チ青銅ナリ元來支那ハ貴金屬ニ富饒ナラス金銀ハ唯往古小量ノ貨幣ヲ要シタル時代ニ於テノミ用ヒラレ且ツ其價貴キヲ以テ到底支那社會ノ使用ニ適セス金ハ其價格銀ニ十倍シ銀ハ銅ニ十倍ス漢時代ノ商品及食用品統計書ヲ見ルニ下級ノ人民ハ必要ノ需用ヲ滿スニ一日一錢ヲ以テ足レリ云々トアリ如此未開ノ時代ニアリテ實價貴キ貨幣ノ必要ナカリシハ瞭然タリト云フヘシ故ニ當時金銀貨幣ハ通常君主ニ進獻シ或ハ功ヲ賞センカ爲メ重臣ニ與ヘタル者ナリ宋ノ世ノ一學者云ヘルアリ政府ニシテ鉅額ノ費用アルトキ或ハ大賞ヲ行フトキハ多クハ金屬ヲ以テ之ニ充テ殊ニ黃金ヲ用ヒタリ金銀ハ漢ノ世ニアリテハ尙ホ通貨トシテ用ヒラレシカ宜帝元帝(西曆紀元前七十三年四十八年)以後ハ金貨漸ク乏シク後漢ニ至リテハ益甚シク殊ニ佛老ノ教行ハレシ以來金ハ多ク偶像ヲ箔スルノ用ニ供セラレ貨幣ノ原質トシテ用ヲ失フニ從

ヒ漸々器具裝飾ニ用ヒラ、ニ至レリト

史ニ徵スルニ時々銅錢ト共ニ鐵錢ノ行ハレタルコトアリ然レトモ運搬ノ困難實價ノ少キコト其他種々ノ不便アルカ爲メ貨幣トシテ廣ク用ヒラル、ニ至ラサリシナリ

茲ニ疑問アリ支那人カ貨幣ニ對スルノ見解如何又其用及性質ニ付キ如何又古代ニアリテハ貨幣ナク或ハ之アリシモ極メテ少量ナリシニ後世ニ至リテハ需用ヲ充タス能ハサリシハ如何此等ノ問題ニ付キテハ宋ノ世ニ(西曆千年ヨリ千百年)二學者アリテ之ヲ論究セリ其議論ハ西洋經濟學者ノ着目スルニ足ルモノアルヲ以テ予ハ其古代貨幣ニ關スル部ヲ左ニ記載セリ後章紙幣ヲ論スルニ當リ再ヒ右ノ著者ヲ引用スヘシ是レ著者ハ支那人カ人民最大不幸ノ一ニ遭遇セシ時代ニ生レタリシヲ以テ其言フ所殊ニ注目スルノ價アレハナリ其不幸トハ何ソ紙幣ノ過發及下落是ナリ

東萊呂氏曰ク貨幣ノ設則チ財貨ノ流通スルモノ、價格ヲ表スル爲メ價貴キ物品ノ量ヲ定ムルニヨリ起レリ古代ニ付キ起源ヲ尋ヌルニ桓氏ノ所說ニ從



一四  
へハ湯王ハ凶年ニ際シ人民ノ飢餓ニ迫ルニ當リ其困難ヲ救ハシカ爲メニ貨幣ヲ作り又之ヲ市司(周官)ノ市場ヲ司リシ時ニ考フルニ凶年ニシテ穀實ヲサルトキハ市場ノ租稅ヲ免シテ貨幣ヲ作レリ又之ヲ單穆公ノ景王ヲ諫ムルノ奏議ニ徵スルニ古人ハ天災アル毎ニ重量ヲ以テ財物ヲ計リ之ニ據リ貨幣ヲ作り人民ノ困苦ヲ救ヘリ古人ノ所謂財貨トハ地ノ産スル處ニ限り貨幣幾千萬緡ノ謂ニアラサルナリ其故ハ抑古人ハ農桑ヨリ生シタル食物衣服ヲ目シテ財トナシ貨幣タルモノハ一定ノ時期ニ於テハ一定ノ量ヨリ以上ハ要ナキモノトナセハナリ前代ニハ通貨ノ相當物ト稱スルモノアリテ穀粟ヨリ成レリ是レ物品購買ニ當リ代品トシテ與フルモノナレハ其代ハルヘキ物品ナキニ於テハ徒ラニ貨幣ヲ積ムモ益アルナシ故ニ三代以前ニ於テ財貨租稅ヲ論スルモノハ穀粟ヲ本トシ而シテ貨幣ハ物ノ輕重ヲ計ルニ過キス又租稅ヲ人民ニ賦課スルニモ皆實物貢獻ヲ以テシ貨幣ヲ用フルハ極メテ稀ナリ俸給賞與モ亦然リトス君卿大夫ハ各皆田地ヲ有シ只其位ニ從ヒ多寡アルノミニシテ貨幣ヲ以テ俸給トスルカ如キコトハアラサリシナリ三代ノ時ニ當リテハ

三十九  
人民土地ヲ有スル多キヲ以テ生業ナキモノナク又貨幣ノ用ヒ廣カラサルカ故ニ其必用モ少ナシ只兇年飢饉ノ時ニ當リ貨幣ヲ作りシナリ古ノ學者其理ヲ解シテ金銀ニ兇年ナキカ故ナリト云ヘリ貨幣ノ用ハ當時ニアリテハ人々其有無ヲ交換シ過不足ヲ平均スルニアルノミ是レ三代ノ時ニ當リテハ通貨ヲ論スルモノ少ナキ所以ナリ漢始テ天下ヲ取ルニ當テハ尙ホ此風習存シ王公ヨリ下吏ニ至ルマテ其官位職掌ノ高下ヲ班ツニ萬石千石百石等ノ語ヲ用ヒタリ如此穀粟ヲ以テ俸給ニ充テシテ以テ當時ハ貨幣ノ用少ナカリシナリ水心葉氏曰ク貨幣ノ利害ニ付キテハ說一ナラス古人ハ物ノ重サヲ計リテ之ヲ貨幣トシ後世ハ貨幣ノ重サヲ計リ之ヲ物トス貨幣ノ依テ起ル所ハ商賈ノ四方ニ往來スルニアリ是物ヲ以テ直ニ取引スル能ハサルカ故ニ貨幣ヲ以テ其取引ヲ爲セシナリ三代ノ天下ヲ治ムルヤ貨幣ノ用ハ極メテ狹カリシカ秦漢ノ時ヨリ漸々廣ク今日ニ至リテ凡テノ取引貨幣ヲ用ヒサルモノナキニ至レリ三代ノ時ニ當リテハ貨幣少ナキカ故ニ一家ノ要品米穀帛布蔬菜魚肉皆各自ラ勞働シテ之ヲ給セリ流通用フヘキノ貨幣ハ之ヲ合スルモ其量小ニシ



テ僅ニ商賈ノ之ヲ以テ政府ノ製造物ヲ買フニ足ルノミ其後貨幣ノ用益多ク  
李悝ナルモノ國用食料買上ノ爲メ一般ノ法ヲ設クルニ當リテハ一人一歲ニ  
一千錢以上ヲ費スモノトセリ是レ時ノ事情ニ照シテ考フルニ已ニ多シト云  
フヘキナリ三代ノ時ニアリテハ地神祭祠ノ用ニ供スルモノ或ハ人々日常消  
費スル所ハ米穀ニアラサレハ帛布ニシテ且ツ如此モノハ各人各自ニ作ルカ  
故ニ貨幣ヲ用フルノ要ナク又各人其業ニ安ンスルカ故ニ金屬貨幣ヲ要セス  
從テ之ヲ用フルコト極メテ少量ニシテ一歲ヲ以テ之ヲ計ルニ蓋シ一般計算  
セル所ヨリモ一層小ナルヘシ後世貨幣ノ用ノ定マルハ右ト異ナリ百般ノ物  
皆貨幣ニ據リ發生シ從テ物々皆貨幣ヲ以テ之ヲ計ルニ至レリ往古ハ帛布ナ  
レハ丈尺ヲ以テ之ヲ計リ米穀ナレハ斗石ヲ以テ之ヲ計ル然ルニ飲食資生ノ  
物ニシテ後世ノ製作貯藏ニ係ルモノハ其輕重大小貴賤ニ至ルマテ皆貨幣ヲ  
以テ之ヲ計リ政府ノ爲メニ運搬スル貴重ノ物品ヨリ人民ノ拂フ租稅或ハ州  
縣ニ貯藏スルモノ或ハ商賈ノ取引スルモノニ至ルマテ皆貨幣ヲ主トスルニ  
至レリ後世ノ貨幣ヲ要スル前代ニ百倍スル怪ムニ足ラス貨幣ノ供給亦後世

ニ大ナリ然ルニ三代ニアリテ敢テ不足ヲ感セス後世ニアリテ敢テ過剩ヲ覺  
ヘサルハ何ソヤ是レ三代ハ其國ヲ鎖シ自ラ治メ一國ノ生スル所ハ以テ其國  
用ヲ補フニ足り又其産スル所國內ト雖モ流通セサルノミナラス國外ニ輸出  
スルコトナシ人民ハ甚タシク心力ヲ費サスシテ其生計ヲ得國內ニアリテハ  
禁令明ニ善ク行ハレ國外ニ於テハ遠地ニ國力ヲ糜スルノ要アラサリシナリ  
書經ニ云ヘルアリ人民若シ土地ノ産スル所ノミヲ愛セハ其心善良ナリト老  
子云ヘルアリ人皆其食スル所ヲ甘味ナリトシ其衣ル所ヲ美麗ナリトシ其風  
俗ヲ悅ヒ隣國ト境ヲ接シ人々相望ミ鶏犬ノ聲相聞ユルモ生涯相往來交通セ  
ス如此ニシテ始メテ治平ノ極ニ達シタリト云フヘシト一國ノ情態ナシテ如  
此ナラシメハ貨幣ヲ用フルノ要ナク又其量ノ寡少ナル怪ムニ足ラサルナリ  
後世帝國一統セラレテヨリ州縣ハ其名ヲ異ニスルモ復タ秦越相知ラサルカ  
如キコトナク恰モ臂指ノ關係トナリタレハ人民四方ニ交通シ商賈ハ四方ニ  
往來シ南北其産物ヲ交換スルニ至リタレハ貨幣ノ要用増スハ自然ノ勢ト云  
フヘシ是レ後世ニ貨幣多キ所以ナリ貨幣已ニ多キカ故ニ其制度モ亦劃一ナ



ル能ハス時ニ從ヒ輕重大小厚薄ノ差アルヲ免レサルニ至レリ云々

周

西曆紀元前千二百二十二年ニ至リ殷滅亡セリ抑、殷ハ歷史上著名ナル三代ノ第二ニシテ其王系支那ニ君臨スル六百有餘年ニ亘リシカ時ニ西王ノ長子周侯ナルモノ起リ殷王ヲ廢シ帝位ニ上リ武王ト稱ス之ヲ周ノ始祖トス武王ノ弟ニ周公旦ナルモノアリ一書ヲ著シ國政ヲ爲スニ當リ遵奉スヘキ法規ヲ定ム此書今猶存シ其紀律スル所ハ今日ニ至ルマテ施政ノ師表トシ重ンセラル

馬端臨其著書ニ於テ先ツ此新代ノ始メニ流通シタル交換媒助ノ種類ニ付キ説述シ次テ政府財務ノ行政ニ關スル文二節ヲ周禮ヨリ拔載セリ此文タル當時政府行政ノ完美シタルヲ證スルニ足ルヘキ最古記録ナリトス

予ハ茲ニ歷史上ノ事實ヲ裝飾刪削スルコトナク述ヘントス先ツ周禮ヨリ拔萃シタル文ヲ以テ始メシ

周ニ於テハ商人ノ便ヲ計リ物品相互ノ交換ヲ爲スニ當リ價格ノ用ヲ爲サシメンカ爲メニ通貨ヲ設ク金ナルモノハ大サ方一寸ニシテ重サ一斤トシ銅ナ

ルモノハ形圓ニシテ中央ニ方穴アリ銖ヲ以テ重サヲ定ム金貨ハ之ヲ斤ト稱ス

又絹一疋ヲ以テ價格ノ一位トセシコトアリ然レトモ銅錢ハ之ヲ散スル布ヨリモ易ク故ニ人民皆之ヲ便トシ一般ニ用ヒラル、ニ至レリ又曰ク

司市(周禮ニヨリ設置セル市場ヲ司ルモノ)ハ凶作惡疫流行或ハ死者多キ年ニ當レハ新ニ貨幣ヲ作り市場ニ課スル租稅ヲ免セリ

ビナツト氏ノ譯文周禮ニ據ルニ凶年ニ於テ人民ヲ富マサンカ爲メニ鑄造セシ貨幣少ナシトセサルナリ時ノ事情ヲ以テ考フレハ是レ深ク咎ムルニ足ラサル經濟上ノ誤謬ナリ

周禮ニ據ルニ君主及政府ノ出納ヲ司ル爲メニ九ノ行政廳ヲ組織セリ九府圖法是ナリ其名稱ハ周禮及馬端臨ノ著書ニ委シキカ故ニ茲ニ之ヲ畧スト雖モ歲出入計算及政府ノ一般費用ニ關スル規則ハ少シク精細ニ論究セン是レ此太古ノ時代ニアリテハ此人民ハ已ニ我人ノ現時用フル政治主義ヲ用ヒタリシヲ見ルニ足レハナリ



外府ハ百物ノ需用ニ應スル爲メ政府會計ノ出納ヲ司リ法律ニヨリ定マレル  
國家必要ノ費用ノ起ルヲ待ツ例ヘハ百官ノ費ス所ノ如シ又君主后及世子衣  
服ノ費祭祀賓客葬儀饗宴軍旅賜予ノ費及其他一切ノ小費モ亦之ヲ司リ一歲  
ノ終リニ至レハ其出入ヲ計算ス但君主及后ノ衣服ノ費ハ之ヲ除キ算セス  
泉府ハ市場ニ課スル租稅ヲ司ルモノニシテ又市場ニ賣レサルノ品及民用ノ  
爲メ保存スヘキモノヲ集メ之ヲ買フ此諸品ハ之ヲ市價ニ從ヒ公告登簿シ以  
テ不時需用スルモノアルヲ待チ之ヲ賣ル而シテ之ヲ買フモノ祭祀ノ爲メニ  
スルモノハ十日ノ中ニ其價ヲ納ムヘク又葬儀ノ爲メニスルモノハ一月中ニ  
其價ヲ納ムヘシト定ム泉府ヨリ人民ニ貸附シタル金アルトキハ司市ト計リ  
之ヲ處理シ國用ノ緩急ニ應シ利息ヲ定ム一歲ノ終リニ至レハ出入ヲ算シ餘  
アルトキハ之ヲ職幣ニ納ム

左ニ載スル所ハ馬端臨カ周ノ財政組織ニ關スル自著ノ論ヲ抄録シタルモノニ  
シテ貨幣ノ性質ニ付キ著者特異ノ思想ヲ包含セリ

古ノ君主通貨ヲ造ルノ本意ハ流通ヲ得セシムルニアリ抑商品ヲ以テ通貨ト

スルトキハ或ハ停滯スルコトアリト雖モ貨幣ナルトキハ片々盡ク流通セリ  
而シテ泉府ノ設ケハ民ニ最モ便ニシテ商品市場ニ過積スルトキハ之ヲ買ヒ  
テ以テ人民不時ノ需用アルモノニ賣ル買ハント欲スルモノ現金ヲ有セサル  
トキハ代價ヲ後日ニ納ムルヲ許シ或ハ金ヲ貸スコトアリ如此古ノ君主ハ人  
民ヲ見ルコト己レノ子ノ如ク外ニ顯ハレサルノ困難ト雖モ之ヲ洞察シ其賑  
恤ヲ力ム抑泉府其貸金ニ利ヲ附スルハ元ト營利ノ爲メニセルニアラス然ル  
ニ世徃々此官ヲ設ケタルノ本意ヲ究メテ謾然言ヲナシテ此制度ヲ評スルモ  
ノアリ誤マレリト云フヘシ停滯シタル物品ヲ買ヒ需要アルトキニ賣ル彼ノ  
常平ノ制アリテ價賤キトキニ買ヒ價貴キトキニ賣ルト其意ヲ同クス唯泉府  
ハ貨幣ヲ以テ商品ニ換ヘ常平ハ貨幣ヲ以テ粟ト換ユルノ差アルノミ共ニ人  
民ノ便益ヲ計リシモノニシテ營利ヲ目的トシタルニアラス後世ニ至リ漸ク  
其目的ヲ變シ常平ノ法ヲ用ヒテ買占ヲ爲シ其得ル所ヲ以テ他ノ用途ニ費シ  
人民ヲ賑恤スルニ用ヒス從テ常平ヲ用フルノ機屢ニシテ利ノ多カラシコト  
ヲ望ミ又之ヲ以テ國家理財ノ一良法トナスニ至レリ



此ニ至リテ始メテ貨幣ハ分割ノモノナルヘシトノ必要ヲ感スルニ至レリ馬端臨記述中左ノ一文アリ見ルヘシ

周ノ景王貨幣ノ輕キニ過クルヲ見テ其即位二十一年(西曆紀元前五百三十二年)大銅貨ヲ鑄ル徑一寸二分重サ十二銖アリ其面ニ大泉五十ノ字アリ外周及中央ノ穴共ニ凸緣アリ(著者云フ剝竊ヲ防ク爲メナリ)此貨幣ハ農民ノ間ニハ行ハレサリシナリ

王ノ此大貨ヲ鑄ントスルニ當リ單穆公曰ク之ヲ爲ス宜シカラス往時天災ノ起ルニ當リテハ其害ヲ輕クセンカ爲メ貴重ノ商品ヲ計量シ輕重ヲ計リ以テ民ノ不幸ヲ救ヘリ人民貨幣輕キニ過クルトスルトキハ重貨ヲ作り之ヲ流通セシム(註貨幣輕キトキハ物價騰貴スレハナリ)之ニヨリ大小貨母子ノ關係ヲ爲シ母ハ子ノ價格ヲ定メテ共ニ流通シ人民兩者ヲ合セ用ユルヲ得又之ニ反シ貨幣重キニ過クルトキハ之ヲ廢セス唯輕貨ヲ多ク作り併セテ之ヲ流通セシム之ニヨリ子(小貨)ハ土臺トナリ母(大貨)ノ價ヲ定メ(權)共ニ流通ス故ニ大小共ニ人民之ヲ便トス今王遽ニ重貨ヲ作り輕貨ヲ廢スルトキハ人民其財產ヲ

減スヘク民力從テ疲弊セン而シテ王ノ用度モ亦乏シカラン然ラハ賦歛ヲ重クセサルヲ得ス民力疲弊シテ賦歛重キトキハ人民之ニ堪ヘス亂チ懷ヒ國ヲ去ルニ至ラン且ツ目下急ナラサルコトニカラ用ヒ急ニスヘキヲ捨テハ害起ルノ日之ヲ救フニ途ナカルヘシ夫レ事ニ應スル準備ヲ爲スヲ得ヘキノ時ニ之ヲ爲サ、ルハ自ラ不幸ヲ招クモノニシテ後ニスヘキヲ先ニスルハ是災害ヲ急ニスルモノナリ夫レ民財ヲ減シテ政府ヲ富マサントスルハ恰モ川源ヲ塞キテ汚地トナスカ如シ其河流ノ盡クル見ルヘキナリト王聽カス

## 第二章 漢貨幣史

秦ノ鎰漢ノ莢錢文帝國民一般ニ自ラ貨幣鑄造ヲ爲スヲ許ス賈誼自由鑄錢ノ不可ヲ論ス自由鑄造ニ付賈山ノ觀察景帝賈金貨幣ヲ作ル武帝財政上ノ所置皮片及白金屬ノ代表貨幣赤仄錢官立造幣寮ノ設置元帝ノ時賈造貨幣ノ充溢シタルコト及宰相貨幣廢止ノ秦議漢朝各種貨幣ノ比較價格王莽ノ傳王莽攝政ノ時古代ノ通貨ヲ復シタルコト代表貨幣數種ヲ造ル王莽ノ滅亡及五銖錢



再ヒ世ニ行ハル、コト、劉陶上書シテ通貨ニ不必要ノ變更ヲ爲スノ不利ヲ云フ、漢ノ衰微及四出文錢、獻帝粗惡ノ貨幣ヲ鑄ル、漢ノ世ノ終リ周ノ貨幣ニ付キテハ前章述フル所ノ外考證スヘキナシ馬端臨ノ記述モ亦是ヨリ秦國ニ移リ直ニ數多ノ年月ヲ越ヘ周最後ノ王其強盛獨立シタル諸侯ノ爲メ廢セラレ、時ニ及ヘリ

莊襄王貨幣ヲ重カラシメント欲シ令ヲ發シ小貨ノ價ヲ増シ大貨ト等シカラシム人民之ヲ不便トシ皆其業ヲ捨ツルニ至ル市令アリ時ノ宰相叔孫敖ニ告ケテ曰ク市場紛亂シ人民其堵ニ安ンセス商業モ亦安固ナラスト叔孫敖之ヲ王ニ告ケ令シテ舊ニ復セシム之ニヨリ人民始メテ靜謐ニ歸セリ

西曆紀元前二百二十一年ニ至リ周遂ニ秦王ノ爲メニ亡サル秦王ハ自ラ莊襄王ノ世子ト稱シ始皇帝ト號ス位ニ上リ封建割據ノ制ヲ改メ郡縣ノ制ヲ布ケリ此時ニ當リ通貨二種アリ一ハ金貨ニシテ重量價格共ニ二十兩ナリ又銅貨ハ其實質周ニ行ハレシモノト同シク其面ニ半兩ノ文アリ重サ其文ヲ以テ示セル如シ而シテ珠玉龜貝錫銀ノ類ハ器物玩具トシテ珍藏セラレシト雖

モ貨幣トシテ用ヒラレサリシナリ

漢

始皇帝ハ苛酷殘虐ノ畧ヲ施シ王系ヲ萬世ニ傳ヘント計レリ然ルニ其効ナク其子孫共ニ兇狡ナル寺人ノ弑虐ニ逢ヒ秦ハ始メテ帝位ヲ得テヨリ僅ニ十四年ニシテ滅亡セリ而シテ奇運ノ軍士劉邦ナルモノ爭亂ノ間ニ起リ遂ニ帝位ニ上ル是レ四百年ノ間帝國ヲ統御シタル盛大ナル漢ノ始祖トス(西曆紀元前二百四年ヨリ紀元後百九十年ニ至ル)

漢起ルニ當リ秦ノ貨幣ヲ以テ重クシテ使用ニ不便ナリトシ民ヲシテ更ニ莢錢ヲ鑄造セシム(榆莢ノ如ク輕キヲ以テ此ノ名アリ)而シテ金貨ハ重サ一斤ト定メ周ノ制度ニ復セリ然ルニ當時唯營利ノミ汲々タル民アリテ商品ヲ壟斷貯藏シタルニヨリ物價非常ニ騰貴シ米一石萬錢ニ價シ馬一匹百金ニ價スルニ至レリ

之ニ依リ呂后(西曆紀元前百八十五年)更ニ八銖ノ錢ヲ造リ前世半兩ノ貨幣ト其價ヲ同クセシム然レトモ當時流通セル莢錢多量ニシテ之ヲ引上クルハ到底爲



得ヘカラサリシナリ

次ニ記スヘキナ文帝ノ朝トス文帝ハ帝位ニアルコト二十二年ニ亘リ人皆目シテ仁君ノ模範トセル所ニシテ其在世中爲ス所一ニ人民ノ幸福ヲ増進スルヲ以テ目的トセリ其即位第五年更ニ貨幣ヲ鑄ル重サ四銖ニシテ半兩ノ文アリ又貨幣賸造ノ弊風ヲ矯メント欲シ令ヲ發シ人民一般ニ自ラ貨幣鑄造ヲ許セリ此所置タル當時ノ宰相賈誼大ニ之ヲ不可トシ以爲ヲク如此トキハ政府人民共ニ大害ヲ被ルヘント而シテ其自由鑄造ヲ不可トスルノ上書ハ世上議論正確ノ傑作ト思考セラル、モノニシテ後世貨幣鑄造ハ政府ニ於テスヘキヤ或ハ人民ニ放任スヘキヤノ爭論起ル毎ニ之ヲ引用シ政府ニアラサレハ善良眞價アルノ貨幣ヲ供給スル能ハサルノ論據トナシ爭フヘカラサルモノトセリ抑此文タル實ニ顯著ナルモノニシテ實ニ經濟上價值アルノミナラヌ又少シク蛇長ヲ感スト雖モ支那雄辯ノ模範トナスヲ得ヘキヨノタリ文中異常喜フヘキノ語句アルヲ以テ其一節ヲ馬端臨ヨリ原文ノマ、轉載スヘシ左ノ如シ

賈誼諫曰法使下公得顧租鑄銅錫爲錢敢雜以鉛鐵爲他巧者其罪黥然鑄錢之情

非殺雜爲巧則不可得贏而殺之甚微爲利甚厚夫事有召禍而法有起姦今令細民人操造幣之勢各隱屏而鑄作因欲禁其厚利微姦雖黥罪日報其勢不止乃者民抵罪多者一縣百數及吏之所疑榜笞奔走者甚衆夫縣法以誘民使人陷穽孰積於此曩禁鑄錢死罪積下今公鑄錢黥罪積下爲法若此上何賴又民用錢郡縣不同或用輕錢百加若干或用重錢平稱不受法錢不立吏急而壹之乎則大爲煩苛則力不能勝縱而弗呵乎則市肆異用錢文大亂苟非其術何鄉而可哉今農事棄捐而采銅者日蕃釋其耒耜冶鎔吹炭姦錢日多五穀不爲多善人怵而姦邪愿民陷而之刑戮刑戮將甚不詳奈何而忽國如知此吏議必曰禁之禁之不得其術其傷必大令禁鑄錢則錢必重重則其利深盜鑄如雲而起棄市之罪又不足以禁矣姦數不勝而法禁數潰銅使之然也故銅布天下其爲禍博矣今博禍可除而七福可致也今謂七福上收銅勿令布則民不鑄錢黥罪不積一矣僞錢不蕃民不相疑二矣采銅鑄作者反耕田三矣銅畢歸上上狹銅積以御輕重錢輕則此術斂之重則此術散之貨物必平四矣以作兵器以假貴臣多少有制用別貴賤五矣以臨萬貨以盈虛以收奇羨則官富實而末民困六矣制吾棄財以與匈奴逐爭其民則敵必懷七矣故善爲天下者因禍而



爲福轉敗而爲功、今久退七福行博禍、臣誠傷之、上不從、

馬端臨其次節ニ記スル如ク當時猶ホ一ノ恐ルヘキ危厄アリ諸侯王ノ中盛大獨立ノ態ヲ爲セル者アリ是等ノ諸侯自ラ貨幣ヲ鑄造セリ而シテ此事ノ一般人心ニ不安ノ念アラシメタルハ其原因ニアリ一ハ其鑄造スル所ノ貨幣ノ質善良ナルヲ以テ全國一般ニ流通スルノ傾向アリ一ハ諸侯ノ富漸ク増スヲ以テ一旦帝室ト肩ヲ比スルニ至ラハ或ハ反ヲ謀ルニ至ラントノコト是ナリ是ヲ以テ帝モ亦自由鑄造ヲ許シタル結果ニ付キテハ稍不安ノ念アリ再ヒ宰相賈山ニ説ヲ問フ其答フル所頗ル實地ニ亘リ大ニ見ルヘキモノアリ曰ク

貨幣ナルモノハ本來無用ノ器ナリ然レトモ之ヲ以テ富貴ト交換スヘキモノナリ抑富貴ハ人主ノ操柄ナリ今人民ヲシテ貨幣ヲ作ラシムルハ是レ主人ト其操柄ヲ共有セシムルモノナリ此ノ如キハ永續スヘキノ情態ニアラサルナリト帝之ヲ容レ鑄貨ヲ禁止セリ

文帝ニ次キ帝位ニ上リタル景帝ハ贖金ヲ以テ貨幣ヲ造リ之カ爲メ市場ノ法則紛亂セリ而シテ人民一般ニ鄧侯ノ鑄造ニ係ル貨幣ヲ用ヒタリ於是贖造者陸續

トシテ起リ恣ニ贖造ヲ爲シ屢大刑ヲ行ヒ僅ニ之ヲ止ムルヲ得タリ

景帝ニ次キタル武帝ノ朝ハ支那經濟史中較著注目スヘキノ時トス武帝ハ在位五十四年此間北西ニアリテハ匈奴ニ勝チ又南西ノ諸國ヲ併呑シ天子ノ領トシ又其將士ノ侵畧スル所遙ニ亞細亞洲ノ中部ニ及ヘリ文學隆盛ニシテ大學ヲ設立シ古學經書ヲ研究セリ帝自ラ屢巡遊シ或ハ盛宴ヲ張レリ故ヲ以テ用度多端遂ニ銅錢ヲ以テ支辨スル能ハス代表貨幣ヲ用フルニ至レリ此事ノ支那ニ於テ不幸ヲ來セシハ爾來屢他國ニ見ル所ト異ナラス當初目シテ無限ノ財源トナセシモノモ一時輝々タル幻夢經過シタル後ハ政府ハ財政上殆ント救フヘカラサルノ地位ニ立テリ

武帝其即位初年(西曆紀元前百四十年)眞價ヲ有スル貨幣ヲ發行シタリ五銖ノ文アリ後五年贖造剝竊ノ甚シキヲ以テ再ヒ其流通ヲ禁止シ更ニ五銖ノ錢ヲ發行セリ之ヲ漢世ノ本位貨幣トス

貨幣贖造ノ爲メ貨幣ノ量ヲ増シタレトモ商品ハ依然多キヲ加ヘス唯其價ヲ騰貴シタルヲ以テ贖造ノ結果ハ徒ラニ貨幣ノ價格ヲ下落セシメタルモノト云フ



ヘキナリ故チ以テ邊隅ノ地ニ於テハ布片ヲ以テ交換ノ媒助トセル處アリ遂ニ當時流通ノ半兩錢ハ實際重サ四銖ナルヲ以テ之ヲ廢シ更ニ五銖ノ錢ヲ造リ凸輪廓ヲ附シ鑄竊ヲ防カントノ議起レリ

元狩四年(西曆紀元前百十九年)白金屬貨幣及皮幣ヲ造ル

馬端臨此符號通貨ヲ用フルニ關シ一篇ノ文ヲ引載セリ此文ニ依レハ鹿皮ヲ以テ造レル通貨ノ起源價格及使用頗ル明了ナルヲ以テ茲ニ其全文ヲ掲クヘシ然レトモ尙ホ一事ノ注意スヘキハ此皮幣ハ眞ノ記號ニシテ嘗テ長ク露國ニ行ハレタル皮幣トハ全ク異ナリ露國ニ行ハレタル皮幣ハ全ク代表ノ性質ヲ有シ皮片ハ其切取リタル獸皮ヲ代表スルモノトス獸皮ハ運搬ノ不便アルカ故ニ其ノ一片ヲ切取リ全皮所有ノ記號トシ其小片ヲ截斷口ニ符合シテ其所有權ヲ證セリ

時ニ國庫大ニ缺乏シ而シテ富豪ノ商賈中ニハ恣ニ財ヲ積ミ貧人ヲ使役シ或ハ穀鹽等ノ諸物ヲ壟斷セルモノアリ或ハ萬金ノ富ヲ有スルモ之ヲ出シテ政府ノ急用ヲ助ケサルモノアリ人民困難ヲ極ム此ノ如キ有様ナリシヲ以テ天

子ハ公卿ト評議シ需用ニ充テシカ爲メ通貨ヲ作ラントセリ當時宮城ノ庭園ニ白鹿繁殖シ帝室ノ倉庫(少府)ニハ銀錫ノ貯ヘアリ官吏中上言スルモノアリ曰ク昔時ニ皮幣アリ諸侯天子ニ朝スルニ之ヲ以テ聘物トセリ今白鹿ノ皮ヲ取リ大サ方一尺トシ其緣ニ縫箔シ皮幣ヲ作り其價ヲ四十萬錢ト定メ王侯宗室ノ朝覲スル毎ニ之ヲ以テ蒼璧ニ代ヘ(譯者曰ク當時朝覲スルトキハ蒼璧ヲ進獻スルノ例ナリ)聘物トナサシムルトキハ流通セシムルヲ得ヘシト凡ソ公卿諸侯ニシテ朝覲セント欲セハ必ス此四十萬錢ヲ拂フヘキ事トナレリ左ニ之ヲ見ルヘシ

當時張湯政ヲ執ル帝之ト議シ白鹿皮ノ幣ヲ作ル大司農顔異ニ其說ヲ述ヘシム答ヘテ曰ク王侯ノ朝覲ニ當リ用フル所ノ蒼璧ハ其價數千錢ナリ然ルニ今之ニ代フルニ皮幣ノ價ハ四十萬錢ナルヲ以テセントス是レ權衡ヲ失フモノト云フヘシト帝之ヲ聞キ悅ヒス張湯之ニ乘シ奏シテ曰ク顔異ハ心中私カニ誹謗セリト遂ニ之ヲ死刑ニ處ス

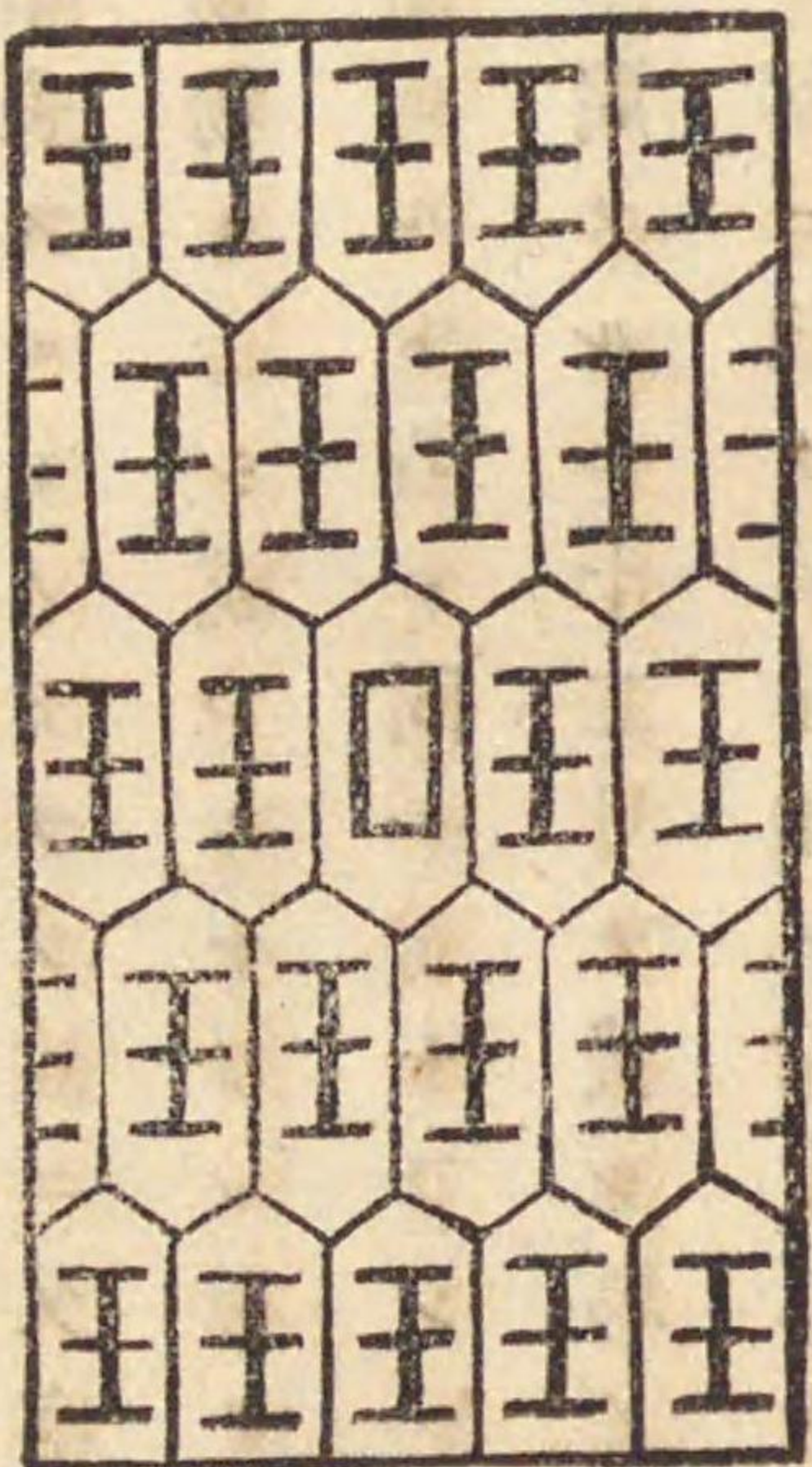
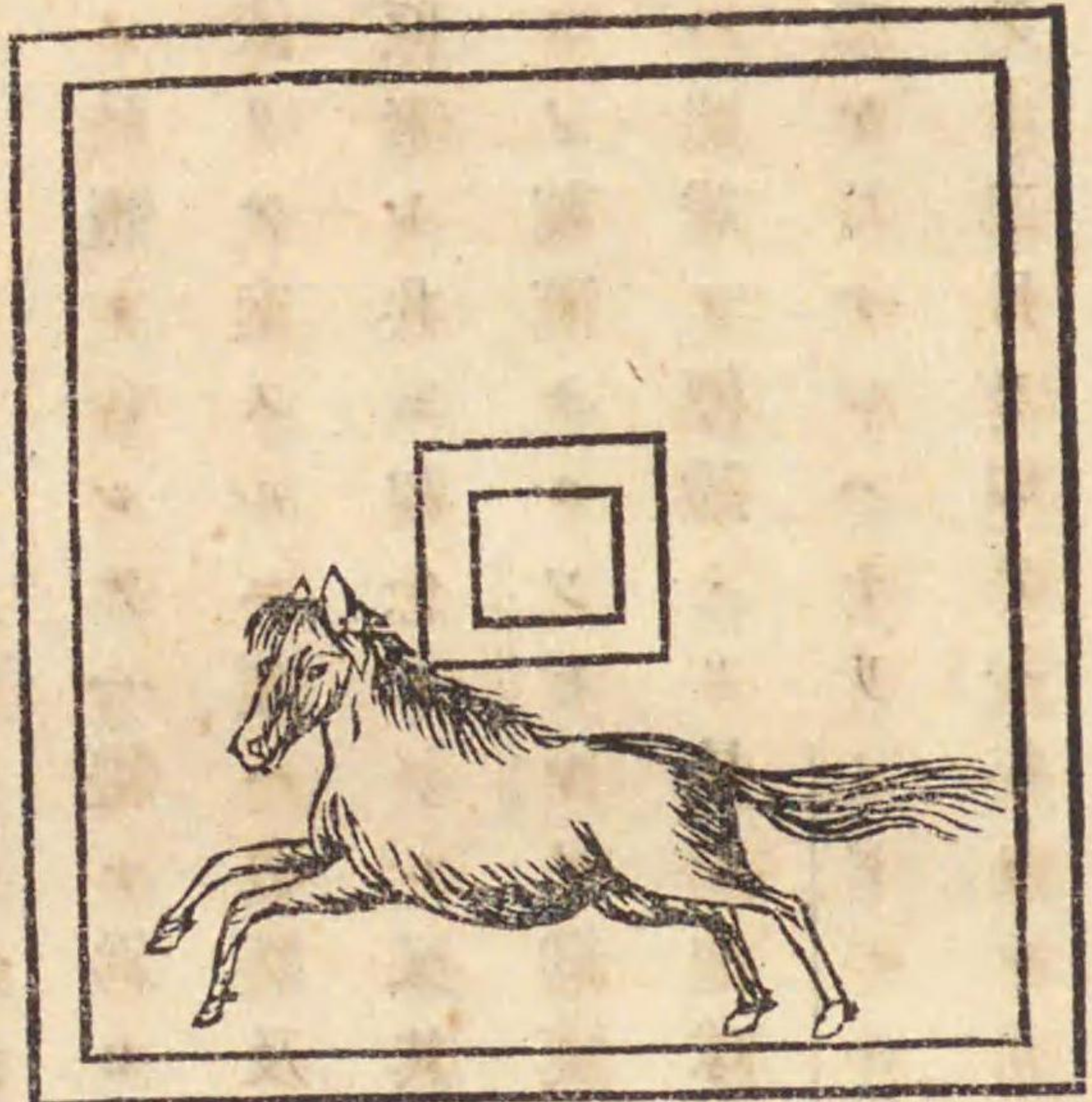
右ノ外猶ホ武帝ノ造レル代表貨幣アリ大サ及形狀ヲ異ニシタル三種ノ貨幣ニ



シテ銀錫ヲ混合シタルモノヲ以テ原質トシ實價ヨリ遙ニ貴キ呼價ヲ附セリ其  
 形狀及表面ニ印セル文理ハ兩ナカラ標識ノ性質ヲ有ス日本造幣ニ關スル書中  
 ニ此貨幣ニ關シ二種ノ説明アリ又佛國宣教師ベールヂユハルド氏ノ著書支那  
 帝國記第二卷百六十六頁ニ前記貨幣ノ圖及解ヲ載セタリ今馬端臨ノ述フル所  
 ニ説明トシテ此顯著ナル貨幣ノ圖ヲ附載セン馬端臨曰ク



帝又銀錫ヲ混シテ白金屬ノ通貨ヲ造ル而シ  
 テ物ノ要用ヲ考ヘ天ニアリテハ龍ニ如クモ  
 ノナク地ニアリテハ馬ニ如クモノナク人間  
 ニアリテハ龜ニ如クモノナシ之ヲ應用シテ  
 貨幣三種ヲ作レリ其一ハ重サ八兩ニシテ圓  
 形ナリ龍ノ文理アリ稱シテ撰ト云ヒ二千錢  
 ニ價ヒス其二ハ重サ前者ニ比シテ稍輕ク方  
 形ナリ馬ノ文理アリ其三ハ重サ更ニ輕ク長  
 方形トシ龜ノ文理アリ三百錢ニ價ヒス



而シテ右三種ノ重サハ第一種八兩第二種六兩ニシテ第三種圖ヲ檢スルニ第三  
 種貨幣面上ニ龜ノ圖ナシ只其表面ニ六角形ノ紋様アリ一見シテ龜甲ノ背ヲ思  
 出サシム而シテ右六角形中盡ク王ノ字ヲ書セリ蓋シ王ハ人類ノ長トシテ之ヲ  
 代表セルナリ  
 右貨幣ノ標識タル所以ハ日本及支那著者ノ多ク説明スル所ナリ今茲ニ其二三



ナ掲ケン日本造幣ニ關スル書中左ノ一節アリ曰ク外形ノ圓ナルハ天ニ象トリ  
 内孔ノ方ナルハ地ニ象レリト  
 抑支那人ハ地球ヲ以テ方形ノモノト信セリ故ニ天下ノ地ヲ稱スルニ四方ノ語  
 ナ以テシ或ハ地球ハ海ヲ以テ圍繞セラル、トシ世界ヲ稱スルニ四海ノ語ヲ用  
 フ又大空ハ地球ヲ覆蓋スル螺厝ナリトセリ  
 龍ハ天子ノ位ヲ顯表セル標識ニシテ恰モ埃及ノ「スフィンクス」ノ如ク數種ノ動  
 物ノ肢體ヲ合シテ一體ヲ爲セルモノナリ一歲中一分ハ雲ニ住シ一分ハ海ニ住  
 ス依リテ案スルニ龍ハ豐盛及造設力ヲ顯表スルモノナラン故ニ又空氣中水氣  
 ノ原素ト共ニ觀念セラレ又其體數種ノ動物ヲ合シ成レルナラン彼ノ「スフィン  
 クス」ノ荒漠ナルソビヤノ砂漠ニ其背ヲ面スルト蓋シ同一義ナラン  
 馬ハ地球ノ標識ナリ是レ地球カ太陽ヲ一周スルニ十二月ヲ費シ馬ノ孕胎モ亦  
 十二ヶ月ナレハナリメドハルスト氏馬ノ解ニ曰ク其孕胎ノ期十二ヶ月ナルヲ  
 以テ十二月ヲ以テ一年トシタル地球ノ標識トシテ用ヒラルト  
 龜ハ往時易占ニ用ヒタルモノナリ右ニ述ヘタルモノ、外龍龜ノ記標タルニ付

キテハマイエル氏ノ著書第一卷二百二十九頁ヨリ四百五十一頁レツヂ氏ノ著  
 書第三卷三百三十五頁以下ニ委シ  
 此貨幣ハ其外觀美麗ニシテ賞牌ノ如クナルニ關ハラス其末路ハ傷ムヘキノ情  
 況ニ陥リ其贗造盛ニ行ハレ只ニ人民ノ間ニ止マラス官吏モ亦此不正ノ所業ヲ  
 行フニ至リ從テ其交換價格非常ニ減シ人民一般之ヲ有價ノ物品ト認メサルニ  
 至レリ帝其増發ヲ止メ其禍ヲ遏メント欲シタレトモ其効ヲ見ス其初メテ發行  
 シタル年ノ末ニハ全ク流通セサルニ至レリ  
 此ニ於テ又更ニ新貨ヲ發行セリ此貨幣ハ其製作初期ニ於テハ幸運アルカ如キ  
 ノ狀アリ赤仄錢ト稱ス馬端臨之ヲ記シテ赤銅ヲ以テ輪トナセリト云ヘリ其價  
 五銖トス租稅ヲ集ムルモノ意ヲ用ヒ贗造ニ係ルモノヲ流通セシメサラコト  
 ヲ謀レリ然レトモ二年ノ後贗造又盛ニ行ハレ遂ニ其價格ノ下落ヲ來シ人民定  
 價ヲ以テ此ヲ通用セサルニ至リ遂ニ又廢セラル  
 武帝ハ此ノ如ク數度ノ失敗ニ遭遇シ稍貨幣ノ眞理ヲ悟リ遂ニ實際其文ヲ以テ  
 表章スル價格ヲ有スル所ノ貨幣ヲ作り州縣ニ於テ恣ニ貨幣ヲ鑄造スルヲ禁シ



一ノ造幣寮ヲ首府ニ設置シ上林(譯者曰ク大學ナリ)ノ高官三人ヲシテ之ヲ司ラシム其職トスル所ハ善良ノ眞價アル貨幣ヲ世上ニ供給スルニアリ而シテ此寮ニ於テ發行シタルモノニアラサレハ適法ノ通貨トナサス又從來世上ニ流布シタル金屬貨幣ハ皆造幣寮ニ輸シ改鑄ヲ加フル事トナシ而シテ當時存在セル贗造者ノ如キハ強テ之ヲ剽サントセハ巨費ヲ要スヘキニ付キ其中最モ精巧畏ルヘキノモノヲ撰拔シ之ヲ政府鑄錢ニ使役セリ

上來述フル所ヲ以テ武帝ノ朝ニ於ケル貨幣ノ事歴トス其後四十年ノ間ハ別ニ顯著記スルニ足ル事ナシ上林造幣官ノ發行セル五銖錢ハ其當初善良ナリシハ疑ヲ容レス然レトモ幾クモナクシテ贗造者再ヒ勢ヲ逞クシ元帝ノ朝ニ至リテハ殊ニ甚タシク之ニヨリ有識ノ一政治家アリ書ヲ上リテ金屬貨幣ヲ廢シ穀布ヲ以テ交換ノ媒助トナスノ制ニ復センコトヲ論セリ其上書ハ馬端臨ノ記スル所ニ依ルニ左ノ如シ

元帝ノ時(西曆紀元前四十八年ヨリ三十二年)貢禹ト云フモノナリ建言シテ曰ク鑄錢ヲ職トシ采銅ニ從事スルモノ一歲十萬人ニ及ヒ農業衰微シ貧民贗造

ヲ爲シ刑ヲ受クルモノ多ク富人ハ貨幣ヲ積ミ滿室ニ至ルモ猶ホ足レリトセシ民心動搖シ本ヲ捨テ末ヲ追フ夫レ一國ニシテ農民ノ半ヲ失フ害ナキ能ハサルナリ又貨幣ノ贗造者ハ遂ニ得テ禁スヘカラス今此難ヲ救フノ法ヲ考フニ珠玉金銀ヲ採ルヲ罷メシムルコアリ又造幣ノ官ヲシテ貨幣ヲ造ルナカラシメ交換ニ當リ貨幣ヲ以テ相當物ヲ算スルヲ止メシムヘク又一切ノ租稅祿賜ノ授受ハ皆布帛木穀ヲ以テ之ヲ爲サハ人民自ラ農桑ニ專意從事スルニ至ラント時ノ議者以爲ラク貨幣ナルモノハ交易ヲ爲スニ缺クヘカラサルモノナリ又布帛ヲ以テ貨幣トナサハ布帛ハ尺寸ニ分裂スヘカラサルヲ以テ不便アリトシ禹ノ議遂ニ用ヒラレス

又官吏ニ丹傳ナルモノアリ曰ク古昔ニアリテハ龜貝ヲ通貨トナセリ現今ハ金屬貨幣ヲ以テ之ニ代ヘタリ是レ實ニ人民ヲ貧困ナラシメタル原因ナリ宜ク速ニ之ヲ改ムヘシト帝其實行スヘキヤヲ問フ丹曰ク行フヘシト然レトモ廷議一般ニ貨幣ノ行ハル、コト久シ俄ニ之ヲ變更スヘカラストセリ

武帝ノ朝上林ノ吏鑄錢ヲ始メテヨリ(西曆紀元前百十七年)平帝ノ朝(西曆紀元後



一年ニ至ルマテ銅貨ヲ造ルコト二百八十億萬餘ニ上レリ紀元後千年ヨリ千百  
年ノ間ニ生レタル宋ノ葉石林ト云フモノ漢史ニ付漢ノ貨幣ノ價格ヲ比較シ且  
ツ之ヲ宋時ノ貨幣價格ト比較シタルコトアリ其說ニ曰ク古史ニ徵スルニ元帝  
ノ時國帑四十億錢ニシテ內帑十八億錢アリ是レ多額ト稱スヘシ云々ノ文アリ  
然レトモ之ヲ現時ニ對照スルニ其額ハ今日輸入ノ盛ナル稅館ノ收入スル所  
ニ及ハス漢ノ時ニ當リテハ貨幣ノ價貴クシテ物價ハ賤シ米一斗僅ニ五錢ニ値  
セリ故ニ又右古史中云ヘルアリ人若シ一千萬錢ヲ有スレハ坐シテ生計ヲ得ヘ  
シト雖モ當今之ヲ有スルモノハ只少數高貴ノ官吏ノミニシテ中等及下等ノ人  
民ヲ平均スレハ一家錢萬緡ヲ有スルナルヘシト漢ノ法ニ依ルニ大司馬及大將  
軍ノ官ニアルモノ一箇月六萬錢ノ俸ヲ受ケ大史及大守ハ四萬錢ノ俸ヲ受ケ大  
將ハ右ノ外一箇月米三十五石ヲ受ケ此比例ヲ以テ位階ニ從ヒ遞減スルカ故ニ  
下級ノ官吏ハ一箇月百石ナルアリ或ハ又下リテ八斗ナルモノアリ云々  
而シテ石林ノ時代ニ於テハ貨幣多ク商品食料品共ニ匱乏シ物價騰貴セリ政府  
ハ此情態ヲ醫センカ爲メ新貨ヲ増造セントセルニヨリ此ニ於テ石林ハ說ヲ爲

シ物品ノ價格ハ現存スル貨幣ノ量ニ依ラスシテ他ニ之ヲ上下スル原因アリ物  
價ノ貴キハ徒ラニ貨幣ヲ増加スト雖モ敢テ之ヲ救正スルコトヲ得スト云ヘリ  
其語ニ曰ク一國必要ノ貨幣ノ量ハ物品價格ノ高低ニヨリテ定マリ鑄造ノ多寡  
ニ依ラスト之ニヨリ考フルニ貨幣ノ量ヲ増スハ國民ノ財富ヲ増スニアラスト  
ノ經濟上ノ眞理ハ石林カ已ニ確信疑ヲ狹マサリシモノナルヲ見ルヘシ  
次ニ石林又當時人民日常必要ノ費用ハ幾何ナルヤヲ說ケリ曰ク  
魏ノ文侯ノ宰相李悝ナルモノ、言ニ一家田百畝ヲ耕作スルキハ一畝粟一石  
半ヲ産スルヲ以テ總高百五十石ヲ爲ス今一家五口トシ一人一月ニ一石半ヲ  
食スルトス百五十石ノ內稅トシテ十五石食用トシテ九十石ヲ除ケハ一家四  
十五石ヲ餘スヘシ而シテ一石ノ價三十錢トスルキハ總計千三百五十錢ヲ餘  
スヘシ又村社春秋祭祀ノ費用三百錢ヲ引去ルキハ其餘ヲ以テ五口ノ衣ニ充  
ツヘク一人一歲衣服ノ費凡三百錢即チ一家千五百錢ヲ要ス然ラハ其費ス所  
其得ル所ニ及ハサル四百五十錢ナリ而シテ人民今日困窮ノ狀ハ貨幣少キヨ  
リ生シタル結果ニ非サルナリ然ルニ今貨幣ヲ増シ之ヲ救ハントスルモ到底



爲シ得可キニアラサルナリ現時人民一日一錢以上ヲ費スノカナシ如何シテ  
生計ヲ爲スヲ得ンヤ云々

王莽

王莽ハ漢皇族ノ一人ナリ成帝ノ朝ニ立チ有識德行ヲ以テ朝野ノ間ニ稱セラレ  
然レモ不幸ニシテ功名ヲ希フノ心甚ク其爲ス所全ク之レニヨリ左右セラ  
ル年二十八ニシテ巳ニ大將ノ官位ヲ得タリ帝崩シ幼帝位ニ上リシヲ以テ政ヲ  
攝セリ

茲ニ至リテ機ニ乘シ顯榮ヲ得ント欲スルノ念禁スル能ハス遂ニ帝位ヲ篡ハン  
トシ皇太后ノ内助アルヲ以テ遂ニ其目的ヲ達セリ二幼帝相續テ立テリト雖モ  
皆在位僅カニシテ一ハ毒弑セラレ一ハ幽閉セラレ王統遂ニ絶ヘタリ  
如此ニシテ王莽帝位ニ即キタルモ政ヲ爲スヲ狂暴ニシテ國民其弊ニ堪ヘス頗  
ル悲惨ノ境遇ニ沈淪セリ其貨政變更ノ如キモ亦暴政ノ一例ニシテ實ニ其滅亡  
ヲ速カナラシメタルニカアルモノトス王莽政ヲ攝スルニ當リ貨幣ニ關スル漢  
ノ法令ヲ廢シ周ノ母子相權スルノ制譯者曰ク前章ニ述ヘタル大小貨幣相互ニ

價ヲ定ムルヲ云フヲ復セリ又景王ノ製造セルモノト大小文理ヲ同シクシタル  
貨幣ヲ發行セリ

又刀形貨幣ヲ製造シ契刀錯刀ト稱セリ甲ハ契約ヲ爲ス刀ノ義ニシテ五百錢ノ  
呼價ヲ有シ乙ハ鍍金シタル刀ノ義ニシテ此ノ稱ハ黃金ヲ以テ其面ニ文理ヲ付  
シタルニ起リ五十錢ニ價セリ

馬端臨前記ノ貨幣ノ大小形狀ヲ細說シ且ツ二學者ノ說ヲ附說セリ其一學者ノ  
說ニ曰ク此二種ノ貨幣ハ大小ナ同シクシタルモノニシテ其用ヲ爲サス錯刀ノ  
文理ハ發行後幾クモナク故意ニ磨取セラレ或ハ自然ニ磨滅シテ契刀ト分別ス  
ル能ハサルニ至レリト然ルニ貨幣發行後凡ソ八百年ニ生レタル一學者ハ之ヲ  
駁シテ曰ク此說謬レリ現時ト雖モ王莽ノ刀貨ニシテ文理形狀共ニ依然タルモ  
ノアリ之ヲ以テ見レハ貨幣カ當時其ノ用ヲ爲セシハ疑ナ容レスト予カ考フル  
所ヲ以テスレハ貨幣カ後者ノ目撃セシ所ハ多分好古家ノ珍藏ニ係リシモノナ  
ラン現今ライデンロンドンセントピーターズボルグ府ノ博物館ニ於テ右貨幣  
ヲ見ルヲ得可シ然レモ是等ハ只外形ヲ存スルノミ



王莽攝政タリシ間ハ猶舊五銖錢ハ通用セシカ帝位ニ即クニ及ヒテ以爲ヘラク  
劉ノ字(漢ノ姓)ハ卯金ノ字ヲ包有セリト依リテ錯刀契刀五銖錢ヲ廢シ金銀龜貝  
發布ノ新貨ヲ作り寶貨小錢ト稱セリ

王莽カ新タニ作りタル貨幣ハ銅ヲ以テスルモノ六種金ヲ以テスルモノ一種(此  
金貨ハ周ノ古制ニ倣ヒ斤ト稱シ萬錢ニ價ヒス)銀ヲ以テスル者二種(此ノ銀貨ハ  
流ヲ以テ價格ノ本位トシ二種共ニ重サ八兩アリ而シテ朱及ヒ提ノ地方ヨリ産  
スル者ハ銀質良ナルヲ以テ千五百錢ニ價シ他ノ地方ヨリ産スル者ハ千錢ニ價  
ス龜甲ヲ以テスルモノ四種大小及ヒ稱呼ヲ異ニシ其價ハ適宜之ヲ定メタルモ  
ノナリ)貝ヲ以テスルモノ五種(是ハ朋ト稱スル貝ノ組ヲ以テ作レリ)トス又布形  
ノ貨幣十種アリ新貨ノ種類ニ合シテ二十八種五種ノ物質ヨリ成リ五種ノ稱呼  
アリ(布貨ハ亦銅ヲ以テ造レルカ故ニ物質五種ナリ)

此等ノ通貨ハ其用ヒタル金屬純良ナラサルカ故ニ人民一般之ヲ悅ハス又此ノ  
制度ヲ信セス幾クモナク新貨其通用ヲ失ヒ漢ノ五銖錢再ヒ行ハルニ至レリ  
王莽之ヲ患ヒ詔シテ曰ク敢テ竊カニ五銖錢ヲ所有スルモノハ人民ヲ惑ハスモ

ノナリ之ヲ遠地ニ追放スヘシト此ニ於テ農商共ニ業ヲ失ヒ農産商品共ニ産出  
セラレス人民市場ニ號泣スルニ至ル而シテ貨幣贗造ニヨリ罪ヲ得ルモノ公卿  
太夫ヨリ人民一般ニ至リ勝テ數フヘカラス  
王莽人民ノ困難セルヲ知リ盡ク新貨ヲ廢シ只小銅貨ト使用便ナル大貨ノミヲ  
存セリ

西曆十四年ニ至リ再ヒ一旦廢シタル銅貨中數種ヲ復シ價格ヲ改メ之ヲ流通セ  
シム其一種ヲ泉布ト稱ス又同形ニシテ貨布ト稱スルモノアリ前章已ニ其圖ヲ  
載セシム再ヒ茲ニ掲ケテ以テ馬端臨ノ説明ヲ了解シ易カラシム此ノ説明ハ日



本ノ著書ヨリ翻譯シ其長短ノ比例ヲ知ラシ  
△其用フル所ノ尺度ノ如キハ讀者ノ研究ニ  
任ス曰ク

貨布ハ長二寸二分廣サ一寸首ノ長サ八分餘  
其廣サ八分圖孔ノ直徑二分半足枝ノ長サ二分二枝ノ間ノ廣サ二分ナリ而シテ  
其文右ナル者貨ニシテ左ナルモノ布ナリ重サ二十五銖ニシテ二十五錢ニ價ス



此ノ變更モ亦人民ノ稱賛ヲ得ル能ハス貨幣ノ私鑄又盛ニ行ハレ當初王莽ハ法  
 ナ犯カシタル者ヲ盡ク死ニ處セシム贗造者猶跡ヲ斷タサルヲ以テ  
 是ニ於テ此ノ刑ヲ變シ凡テ私鑄ヲ爲スモノハ其妻子ト共ニ政府ノ奴婢トナ  
 シ又官吏及ヒ比伍譯者云フ我五人組ノ如シノモノニシテ知リテ告發セサル  
 モノモ同罪トシ又贗造ノ貨幣ヲ通用スルモノハ人民ナレハ一歲ノ間職ヲ取  
 ルヲ得ス更ナレハ官ヲ免ス又五人集會スルトキハ其目的ノ何タルヲ問ハス  
 皆之ヲ捕フ此等ノ罪人ハ凡テ檻車ヲ以テ長安ノ鐘官(造幣長)ニ送ル而シテ罪  
 ナ得之カ爲メ心勞失望シ死スルモノ十中六七ニ至ルト俚謠アリ曰ク黃牛白  
 腹五銖當復ハ好事之ヲ解シテ曰ク是レ黃牛ヲ以テ王莽ニ比ス之ヲ白腹ト云  
 フハ(譯者云フ白ハ喪ニ用フルノ色蓋シ死スルノ意ナリ)其世ノ終ラソコヲ希  
 フナリ又五銖ハ漢ノ貨幣ナリ之ニ比喻シテ漢ノ再ヒ天下ヲ治ムルトノ意ヲ  
 述ヘタルナリト

西曆二十三年王莽殺戮セラレ漢ノ子孫再ヒ帝位ニ上ル之ヲ後漢或ハ東漢ト稱  
 ス

東漢

王莽ノ亂アリテ後ハ布帛金粟相雜ハリテ貨幣トナレリ建武ノ始メ馬援隴西ニ  
 アリ上書シテ舊ノ如ク五銖錢ヲ鑄造セソコヲ言フ依テ三府ヲシテ之ヲ議セシ  
 ム三府以テ不可トナシ事遂ニ行ハレス後チ馬援還リテ再ヒ前說ヲ唱フ難問十  
 餘條アリ馬援皆之ヲ辯解シ更ニ上書セリ帝遂ニ援ノ議ヲ容レ詔シテ建武十六  
 年始メテ五銖錢ヲ發行ス天下皆之ヲ便トス

桓帝ノ時(西曆百四十七年ヨリ百六十八年)ニ至リ更ニ大錢ヲ鑄造スルノ議起リ  
 シカ劉陶其不便ヲ說キタルヲ以テ行ハレスシテ止メリ

劉陶カ此時ノ議論ハ一讀人ヲ喜ハシムヘク殊ニ其論孟子ノ風アリ左ニ掲グル  
 所ハ殆ント其全部ナリ

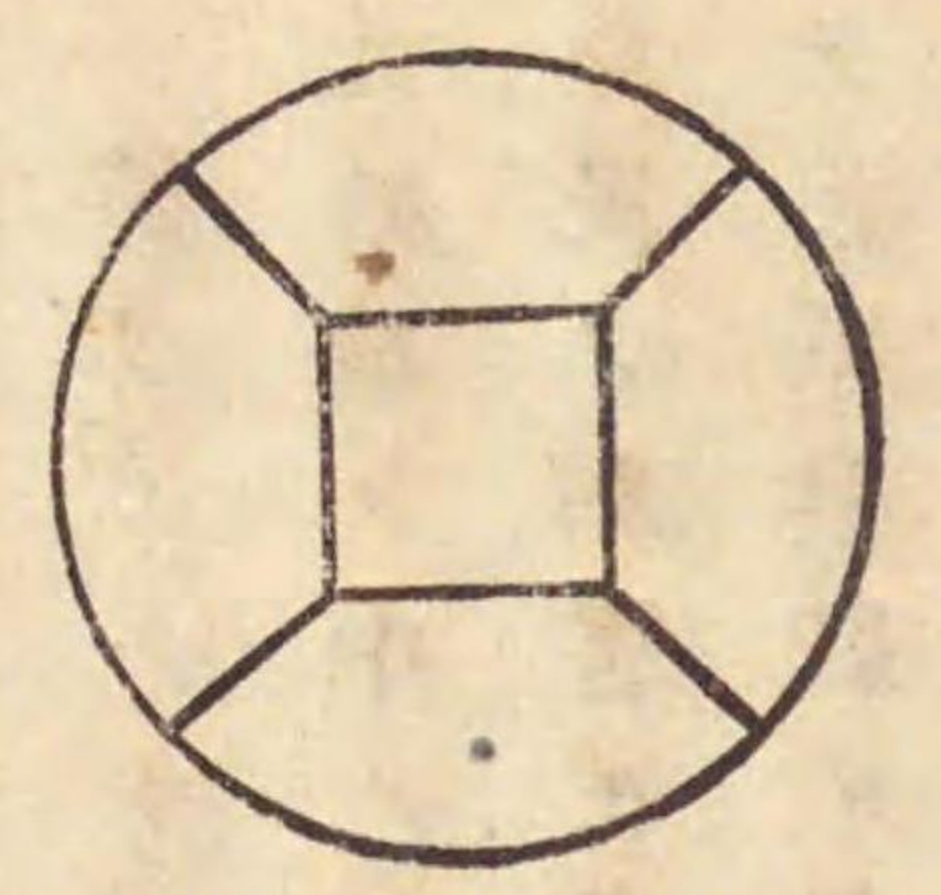
時ニ上書シ當時人民ノ貧困ニ陷ルハ貨幣ノ輕キカ爲ナリ請フ改メテ大錢ヲ  
 鑄造セント言フモノアリ依テ四府ノ群僚及ヒ大學ニ附シテ之ヲ議セシム劉  
 陶ナルモノアリ上言シテ曰ク當今世上窮困セルハ貨幣ニ因セスシテ人民饑  
 餓ニ迫レルニ依レリ蓋シ人民百年ノ間貨幣ヲ用ヒサルヲ得ヘシト雖モ一日



モ食物ナカル可ラス故ニ食物ヲ以テ第一ノ必要トナス議者殖産農業ノ本理ヲ辨ヘス而シテ貨幣鑄造ノ利ヲ説クハ本ト之ニヨリ詐僞ヲ行ヒ大利ヲ攫セントスルニアリ如此ハ遂ニ争擾ヲ生スルヲ免レス夫レ民ヲシテ殷富ナラシメント欲セハ平穩ニ職業ニ就キ一時大利ノ爲メニ眩惑セラレサラシムルニアリ而シテ後人々勞セスシテ足ルヲ得ヘシ今陛下貨幣ヲ作り通貨ヲ整ヘ以テ人民ノ困窮ヲ救ハントスルハ恰モ魚ヲ沸湯ノ中ニ養ヒ鳥ヲ烈火ノ上ニ畜フカ如シ水及ヒ木ニシテ魚鳥之ニ居ルヘシ然ルニ之ニ代フルニ沸湯烈火ヲ以テス必ラス焦爛ヲ免レスト帝之ヲ聽キ鑄錢ヲ止ム

予輩ハ叙述シテ漢ノ末世ニ至レリ最後ノ二帝ニ付キ馬端臨ノ記スル所ハ經濟上價值少ナシ然レモ原文中解シ難キ文少ナシトセス左ニ掲ケタル靈帝(西曆百六十八年ヨリ百九十年)ノ貨幣ニ關スル一節ハ其一例ナリ

靈帝中平三年四出文錢ヲ鑄ル○此錢ハ其背面ニ四道アリ識者竊ニ言フ政府已ニ奢侈殘虐ヲ極ム此錢ノ文理盡シ其四方ニ散亂スルノ載ヲ爲スモノナリト京師亂起ルニ及ヒテ錢果シテ四海ニ流布セリ



此錢上圖ノ如シ細線四條アリテ中心ノ穴ノ四隅ヨリ外縁ニ射出ス故ニ四出錢文ト稱セリ又俗ニ角錢ト云フ

獻帝其即位ノ初年貨幣ヲ改良シ其基礎ヲ更定セント欲シ五銖錢ヲ廢シ小錢ヲ鑄造セリ而シテ之カ材料ニ充ツルカ爲メ風伯

ノ像其他銅ヲ以テ作レル諸器具ヲ押收セリ然レモ新貨幣ハ一定依ルヘキノ主義ナク又其文理ノ如キモ極メテ不精巧ニシテ人民日用之ヲ便トセス

以上ハ以テ當時施政ノ如何ヲ了知スルニ足ルヘシ其記スル所一トシテ亂政無道ノ例ニアラサルナシ已ニ靈帝ノ朝ニ當リテ帝王ノ威權ハ内豎寵臣ノ弄スル所トナリ漢ノ滅亡漸ク近キノ兆アリ獻帝次テ立ツ此ノ時ニ當リ暗主上ニ在リ權臣政ヲ執リ漢ノ世益亂ル大將軍曹操帝ノ委任ヲ受ケ政ヲ爲シ其權勢ヲ濫用シテ内亂ヲ惹起セリ時ニ漢ノ一苗裔アリ兵ヲ起シ西部諸州ヲ占略シ正統ヲ繼クト稱シ帝位ニ上ル曹操ハ北部ニ居住シ魏王ト稱ス次テ死シ其子帝位ニ即ケ

又嘗テ曹操ノ部下ニアリシモノ反シテ兵ヲ集メ操ニ抗シ吳ノ地ヲ略シ亦帝ト



稱ス如此ニシテ支那歷史上所謂三國ナルモノ起レリ

### 第三章 帝國分裂ノ時期間貨幣ノ歴史

三國。晋天下ナ一統ス。桓玄貨幣ヲ廢センヲ建議ス。孔琳之ノ駁論。同問題ニ付キ帝國ノ他部ニ於ケル議論。南北朝ノ分立。南朝ノ宋。議官ノ會同及ヒ輕錢ヲ鑄ルヲ諫ムルノ奏議。廢帝ノ朝憐レムヘキ通貨ノ情態。四代相續テ興亡シタル政治上ノ出來事。貨幣ハ眞價ヲ有スヘク又其鑄造完全ナルヘシトノ一執政ノ說。梁。鐵錢ノ設定及ヒ其失敗。陳。北朝。魏。貨幣ノ用己ム人民ヲシテ強テ之ヲ用ヒシム。新通貨ヲ設クルノ論。北齊。貨幣ノ検査ヲ行ナフ。西域ノ金銀貨。隋天下ナ一統ス。善良ノ通貨ヲ用ヒントシタレトモ能ハス。貨幣廢レ他物之ニ代ル。隋ノ世ノ終リ。

此時期ノ中ニ起リタル事件ニ付キ馬端臨ノ記述ハ只三帝カ各其國ヲ建設シ其臣民ノ利害ヲ考フルノ違アルニ及ヒ爲シタル處置ニ止マル其一ヲ蜀ノ地ニ於テ正系皇統ノ代表者カ此地ヲ畧シ都ヲ成都ニ定メタル後造リタル貨幣トス

照烈蜀ヲ取り貨幣ヲ鑄ル百錢ニ値ヒス○先主劉璋ヲ攻ムルニ當リ士卒ト約シテ戰利アリ事定マルモ府庫及ヒ百姓ヲ劫奪スルナカラシム然レモ成都ニ入ルニ及ヒテ士卒皆干戈ヲ捨テ倉庫ニ入り寶物ヲ搶奪セルヲ以テ軍資乏チ覺ユルニ至レリ劉備之ヲ患フ西曹ノ椽ニ劉巴ナル者アリ曰ク之ヲ救濟スル易キノミ宜シク百錢ニ價スルノ貨幣ヲ鑄造シ諸物價ヲ平ニスヘシト劉備之ニ從ヒ貨幣ヲ作ル旬月ノ間府庫充實セリ其貨幣ハ直百ノ文アリ或ハ五銖ト印セルモアリ

魏ノ文帝ハ消費物品穀粟ノ如キモノヲ通貨トセシカ暫クシテ其用ニ適セサルヲ發見セリ當時論者ノ言フ所ニ據テ之ヲ見レハ其情況ハ今日スタンレー、ゼボンス氏及ヒプロフェソルサムナー氏ノ如キ經濟學者ノ主唱スル所ニ符合スルモノアリ請フ左ニ之ヲ示サン

魏ノ文帝黃初二年(西曆二百二十一年)五銖錢ヲ廢シ人民ヲシテ穀帛ヲ用ヒ市ヲ爲サシム此制繼續シテ明帝ノ時ニ及ヘリ其行ハル、久シキヲ以テ猾智ノ人民濕穀或ハ薄絹ヲ用ヒ嚴刑ヲ加フト雖モ禁スル能ハス是ニ於テ司馬芝等